



令和7年度

学修要項

(PhaseⅢ-1【Unit 1～9】)

3年次生用

佐賀大学医学部医学科

佐賀大学憲章

佐賀大学は、これまでに培った文、教、経、理、医、工、農等の諸分野にわたる教育研究を礎にし、豊かな自然溢れる風土や諸国との交流を通して育んできた独自の文化や伝統を背景に、地域と共に未来に向けて発展し続ける大学を目指して、ここに佐賀大学憲章を宣言します

魅力ある大学

目的をもって生き活きと学び行動する学生中心の大学づくりを進めます

創造と継承

自然と共生するための人類の「知」の創造と継承に努めます

教育先導大学

高等教育の未来を展望し、社会の発展に尽くします

研究の推進

学術研究の水準を向上させ、佐賀地域独自の研究を世界に発信します

社会貢献

教育と研究の両面から、地域や社会の諸問題の解決に取り組みます

国際貢献

アジアの知的拠点を目指し、国際社会に貢献します

検証と改善

不断の検証と改善に努め、佐賀の大学としての責務を果たします

目 次

1. 佐賀大学憲章（表紙裏）

2. 教育の概要

佐賀大学医学部の使命・理念・目的・卒業時学修成果	1
医学部医学科修得課程表（ロードマップ）	3
医学部医学科カリキュラム模式図（令和5年度以降入学生）	7
医学部医学科授業科目開設表（令和5年度以降入学生）	8
令和7～8年度医学科フェイズチェアパーソン及びコ・チェアパーソン一覧表	10

3. 教育・評価に関する規定等

進級・卒業認定方法の周知について	11
成績評価の異議申立てについて	12
佐賀大学医学部試験の実施に関する内規	14
佐賀大学学部医学科の授業科目等の履修に係る資格要件に関する内規	16
佐賀大学医学部規則について	17
佐賀大学学生の懲戒等実施細則について	18

4. 3年次生の学修指針等

PhaseⅢにおける学修の目的と学修内容の概要	21
PhaseⅢの試験に関する事項	22
PBL, CBLの概要と方法	23
共用試験（CBT, OSCE）について	26
令和7年度医学科3年次日程表	27
シラバスの見かた	28

5. 授業科目の学修指針等

臨床・社会医学科目（PhaseⅢ）

臨床医学入門（ユニット1）	29
循環器（ユニット2）	36
呼吸器（ユニット3）	43
消化器（ユニット4）	50
代謝・内分泌・腎・泌尿器（ユニット5）	57
血液・腫瘍・感染症（ユニット6）	66

皮膚・膠原（ユニット7）	73
運動・感覚器（ユニット8）	79
精神・脳・神経（ユニット9）	88
医学英語	96
Phase Vのうち、3年次で履修できる選択コースについて	
選択コースの実施及び履修に関する取扱要項	99
地域枠入学生特別プログラム	101
6. 学位授与の方針／教育課程編成・実施の方針	
医学部医学科学学位授与の方針	107
医学部医学科教育課程編成・実施の方針	108
7. その他	
コースナンバリングについて	111
アクティブラーニングについて	113
8. オフィスアワー 一覧（オフィスアワーについて）	115

2 教育の概要

佐賀大学医学部の使命・理念・教育目的・卒業時学修成果

医学部の使命

医及び看護の実践とその科学的創造形成の過程を通じて医学及び看護学の知識技術並びに医師又は看護職者たるにふさわしい態度を習得し、かつ、これらを生涯にわたって創造発展させることのできる人材を養成することを目的とし、もって医学及び看護学の水準及び地域医療の向上に寄与する。

医学部の基本理念

医学部に課せられた教育・研究・診療の三つの使命を一体として推進することによって、社会の要請に応えうる良き医療人を育成し、もって医学・看護学の発展及び地域包括医療の向上に寄与する。

医学科の教育目的

医の実践において、強い生命倫理観に基づくとともに広い社会的視野の下に包括的に問題をとらえ、その解決を科学的・創造的に行うような医師を育成する。

医学科の卒業時学修成果

佐賀大学医学部医学科は、以下のような能力を備えた卒業生を輩出する。

1. プロフェッショナリズム
2. 医学的知識
3. 安全で最適な医療の実践
4. コミュニケーションと協働
5. 国際的な視野に基づく地域医療への貢献
6. 科学的な探究心

卒業時学修成果の内容

1 プロフェッショナリズム

佐賀大学医学部医学科の卒業生は、卒業時に

医師の職責を理解し、患者中心の医療を推進すべく行動できる。

- 1.1 医師の職責を理解し、倫理的・法的な規範に則った行動をとることができる。
- 1.2 患者や家族の価値観と権利を尊重した患者中心の医療を推進できる。
- 1.3 患者のプライバシーを守り、利益相反の生じる可能性に配慮して職務を遂行できる。
- 1.4 医療人への社会的期待を理解し、誠実で責任感のある態度で行動できる。
- 1.5 自らの実践を省察し、課題の発見と改善に努める自己主導型学修の習慣を身に付けている。

2 医学的知識

佐賀大学医学部医学科の卒業生は、卒業時に

基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学を統合的に学修し、問題解決に応用できる。

- 2.1 人間のライフサイクル
- 2.2 人間の心理と行動

2.3 人間の正常な構造と機能

2.4 人間の機能的・構造的異常状態と原因

2.5 治療の原理と適応

2.6 疾病の疫学, 予防

3 安全で最適な医療の実践

佐賀大学医学部医学科の卒業生は, 卒業時に

患者の安全を最優先し, 根拠に基づく効果的な医療を実践することができる。

3.1 医療面接, 基本的身体診察を実施し臨床推論ができる。

3.2 必要な検査を選択し, 適切に実施・解釈できる。

3.3 最適な医療情報を患者に適用し, 適切に診断・治療計画を立案することができる。

3.4 問題志向型診療記録を作成し, 正確かつ簡潔に症例提示ができる。

3.5 医療安全に配慮し, 医療チームの一員として診療に参画できる。

3.6 医療制度, 医療経済を理解し, 最適な医療提供のために活用できる。

4 コミュニケーションと協働

佐賀大学医学部医学科の卒業生は, 卒業時に

患者の価値観を尊重し, 他の医療者と円滑に協働することができる。

4.1 患者の心理社会的背景を理解し, 良好な患者医師関係を築くことができる。

4.2 医療チーム内で信頼関係を築き, 目的達成のために役割を果たすことができる。

4.3 専門の異なる医師や他職種の医療者と円滑に連携することができる。

4.4 患者の意思決定を支援するために, 必要な情報を提供し同意を得ることができる。

4.5 他者に建設的な批判ができ, 他者からの評価や助言を謙虚に受け止めることができる。

4.6 後進のロールモデルとなるべく行動し, 医療者育成に参画することができる。

5 国際的な視野に基づく地域医療への貢献

佐賀大学医学部医学科の卒業生は, 卒業時に

国際的な視野で医療の発展を理解し, 地域の特性に応じた医療の維持・発展に貢献できる。

5.1 個人, 地域社会, 国際社会における価値観や文化の多様性を理解している。

5.2 医療の国際化を理解し, 英語での情報収集, 情報発信ができる。

5.3 地域の保健・医療・福祉の関連諸機関の適切な連携を理解している。

5.4 地域の特性や多様なニーズを理解し, 地域の急性期および慢性期医療に参画できる。

6 科学的な探究心

佐賀大学医学部医学科の卒業生は, 卒業時に

医療・医学の発展に貢献すべく, 科学的な探究心と方法論を身につけている。

6.1 医学的研究(基礎研究, 臨床研究, 疫学研究)の方法論と倫理を理解し遵守できる。

6.2 未解決の医療・医学的問題に着目し, 解決に取り組む積極的な姿勢を身につけている。

6.3 問題解決のために情報の質を吟味し, 論理的・批判的な思考ができる。

佐賀大学医学部医学科 修得課程表(ロードマップ)

A: 医療現場で実践できる (Does) ☒ B: 基本的な技能・態度を身につけている (shows how) ☐ C: 基礎となる知識・技能・態度を理解している (knows, knows how) ☐		教養教育科目								専門教育科目							
		Phase I															
	区分	共通基礎科目				基本教養科目				専門基礎科目							
	単位数	4	4	2	1	14		8		2	2	2	1	2	3	3	
	履修学年	1	1	1	1	1-2	1-2	1-2	1-2	1	1	2	1	1	1	1	
	授業科目	医療入門Ⅰ	英語	情報基礎概論	情報基礎演習Ⅰ	自然科学と技術の分野	文化の分野	現代社会の分野	インターネットフェイス科目	生命倫理学	行動科学原論	医療入門Ⅱ	医療統計学	物理学	化学	生物学	
1 プロフェッショナリズム																	
佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に医師の職責を理解し、患者中心の医療を推進すべく行動できる。																	
1.1	医師の職責を理解し、倫理的・法的な規範に則った行動をとることができる																
1.2	患者や家族の価値観と権利を尊重した患者中心の医療を推進できる																
1.3	患者のプライバシーを守り、利益相反の生じる可能性に配慮して職務を遂行できる																
1.4	医療人への社会的期待を理解し、誠実で責任感のある態度で行動できる																
1.5	自らの実践を省察し、課題の発見と改善に努める自己主導型学習の習慣を身に付けている																
2 医学的知識																	
佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学を統合的に学習し、問題解決に応用できる。																	
2.1	人間のライフサイクル																
2.2	人間の心理と行動																
2.3	人間の正常な構造と機能																
2.4	人間の機能的・構造的異常状態と原因																
2.5	治療の原理と適応																
2.6	疾病の疫学、予防																
3 安全で最適な医療の実践																	
佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に患者の安全を最優先し、根拠に基づく効果的な医療を実践することができる。																	
3.1	医療面接、基本的身体診察を実施し臨床推論ができる																
3.2	必要な検査を選択し、適切に実施／解釈できる																
3.3	最適な医療情報を患者に適用し、適切に診断・治療計画を立案することができる																
3.4	問題志向型診療記録を作成し、正確かつ簡潔に症例提示ができる																
3.5	医療安全に配慮し、医療チームの一員として診療に参画できる																
3.6	医療制度、医療経済を理解し、最適な医療提供のために活用できる																
4 コミュニケーションと協働																	
佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に患者の価値観を尊重し、他の医療者と円滑に協働することができる。																	
4.1	患者の心理社会的背景を理解し、良好な患者医師関係を築くことができる																
4.2	医療チーム内で信頼関係を築き、目的達成のために役割を果たすことができる																
4.3	専門の異なる医師や他職種の医療者と円滑に連携することができる																
4.4	患者の意思決定を支援するために、必要な情報を提供し同意を得ることができる																
4.5	他者に建設的な批判ができ、他者からの評価や助言を謙虚に受け止めることができる																
4.6	後進のロールモデルとなるべく行動し、医療者育成に参画することができる																
5 国際的な視野に基づく地域医療への貢献																	
佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に国際的な視野で医療の発展を理解し、地域の特性に応じた医療の維持・発展に貢献できる。																	
5.1	個人、地域社会、国際社会における価値観や文化の多様性を理解している																
5.2	医療の国際化を理解し、英語での情報収集、情報発信ができる																
5.3	地域の保健・医療・福祉の関連諸機関の適切な連携を理解している																
5.4	地域の特性や多様なニーズを理解し、地域の急性期および慢性期医療に参画できる																
6 科学的な探求心																	
佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に医療・医学の発展に貢献すべく、科学的な探求心と方法論を身につけている。																	
6.1	医学的研究(基礎研究、臨床研究、疫学研究)の方法論と倫理を理解し遵守できる																
6.2	未解決の医療・医学的問題に着目し、解決に取り組む積極的な姿勢を身につけている																
6.3	問題解決のために情報の質を吟味し、論理的・批判的な思考ができる																

佐賀大学医学部医学科 修得課程表(ロードマップ)

		専門教育科目													
		Phase II													
		基礎医学科目													
		単位数	2	3	2	1	4	2	2	4	2	3	3	3	3
履修学年		1	1	2	1	2	2	1	2	2	2	2	2	2	
授業科目		分子生物学Ⅰ	分子生物学Ⅱ	免疫学	人体発生学	組織学	神経解剖学	肉眼解剖学概説	肉眼解剖学	生化学	動物性機能生理学	植物性機能生理学	薬理学	微生物学	
A: 医療現場で実践できる (Does) ☒ B: 基本的な技能・態度を身につけている (shows how) ☐ C: 基礎となる知識・技能・態度を理解している (knows, knows how) ☐															
1 プロフェッショナリズム															
佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に医師の職責を理解し、患者中心の医療を推進すべく行動できる。															
1.1	医師の職責を理解し、倫理的・法的な規範に則った行動をとることができる														
1.2	患者や家族の価値観と権利を尊重した患者中心の医療を推進できる														
1.3	患者のプライバシーを守り、利益相反の生じる可能性に配慮して職務を遂行できる														
1.4	医療人への社会的期待を理解し、誠実で責任感のある態度で行動できる														
1.5	自らの実践を省察し、課題の発見と改善に努める自己主導型学習の習慣を身に付けている														
2 医学的知識															
佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学を統合的に学習し、問題解決に応用できる。															
2.1	人間のライフサイクル														
2.2	人間の心理と行動														
2.3	人間の正常な構造と機能														
2.4	人間の機能的・構造的異常状態と原因														
2.5	治療の原理と適応														
2.6	疾病の疫学、予防														
3 安全で最適な医療の実践															
佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に患者の安全を最優先し、根拠に基づく効果的な医療を実践することができる。															
3.1	医療面接、基本的身体診察を実施し臨床推論ができる														
3.2	必要な検査を選択し、適切に実施／解釈できる														
3.3	最適な医療情報を患者に適用し、適切に診断・治療計画を立案することができる														
3.4	問題志向型診療記録を作成し、正確かつ簡潔に症例提示ができる														
3.5	医療安全に配慮し、医療チームの一員として診療に参画できる														
3.6	医療制度、医療経済を理解し、最適な医療提供のために活用できる														
4 コミュニケーションと協働															
佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に患者の価値観を尊重し、他の医療者と円滑に協働することができる。															
4.1	患者の心理社会的背景を理解し、良好な患者医師関係を築くことができる														
4.2	医療チーム内で信頼関係を築き、目的達成のために役割を果たすことができる														
4.3	専門の異なる医師や他職種の医療者と円滑に連携することができる														
4.4	患者の意思決定を支援するために、必要な情報を提供し同意を得ることができる														
4.5	他者に建設的な批判ができ、他者からの評価や助言を謙虚に受け止めることができる														
4.6	後進のロールモデルとなるべく行動し、医療者育成に参画することができる														
5 国際的な視野に基づく地域医療への貢献															
佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に国際的な視野で医療の発展を理解し、地域の特性に応じた医療の維持・発展に貢献できる。															
5.1	個人、地域社会、国際社会における価値観や文化の多様性を理解している														
5.2	医療の国際化を理解し、英語での情報収集、情報発信ができる														
5.3	地域の保健・医療・福祉の関連諸機関の適切な連携を理解している														
5.4	地域の特性や多様なニーズを理解し、地域の急性期および慢性期医療に参画できる														
6 科学的な探求心															
佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に医療・医学の発展に貢献すべく、科学的な探求心と方法論を身につけている。															
6.1	医学的研究(基礎研究、臨床研究、疫学研究)の方法論と倫理を理解し遵守できる														
6.2	未解決の医療・医学的問題に着目し、解決に取り組む積極的な姿勢を身につけている														
6.3	問題解決のために情報の質を吟味し、論理的・批判的な思考ができる														

佐賀大学医学部医学科 修得課程表(ロードマップ)

		専門教育科目																	6 総括講義
		PhaseⅢ 機能・系統別PBL科目														PhaseⅤ 選択コース			
		6																	
区分	単位 数	7	4	3	4	4	4	3	4	4	4	4	6	3	2				
履修学年	3~4	3	3	3	3	3	3	3	3~4	4	3~4	4	4	3~4	3~4	選 基 礎 系 ・ 臨 床 系 選 択 科 目	選 地 域 特 入 学 生 特 別 プ ロ グ ラ ム 科 目	選 特 定 プ ロ グ ラ ム 教 育 科 目	選 学 外 研 修 ・ ボ ラ ン テ ィ ア 等
授 業 科 目		臨 床 医 学 入 門	循 環 器	呼 吸 器	消 化 器	代 謝 ・ 内 分 泌 ・ 腎 ・ 泌 尿 器	血 液 ・ 腫 瘍 ・ 感 染 症	皮 膚 ・ 膠 原	運 動 ・ 感 覚 器	精 神 ・ 脳 ・ 神 経	小 児 ・ 女 性	救 急 ・ 麻 酔 ・ 総 合 診 療	社 会 医 学 ・ 医 療 社 会 法 制	統 合 医 療	医 学 英 語				
A:医療現場で実践できる(Does) ☒ B:基本的な技能・態度を身につけている(shows how) ☐ C:基礎とある知識・技能・態度を理解している(knows, knows how) ☐																			
1 プロフェッショナリズム																			
佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に 医師の職責を理解し、患者中心の医療を推進すべく行動できる。																			
1.1	医師の職責を理解し、倫理的・法的な規範に則った行動をとることができる																		
1.2	患者や家族の価値観と権利を尊重した患者中心の医療を推進できる																		
1.3	患者のプライバシーを守り、利益相反の生じる可能性に配慮して職務を遂行できる																		
1.4	医療人への社会的期待を理解し、誠実で責任感のある態度で行動できる																		
1.5	自らの実践を省察し、課題の発見と改善に努める自己主導型学習の習慣を身に付けている																		
2 医学的知識																			
佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に 基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学を統合的に学習し、問題解決に応用できる。																			
2.1	人間のライフサイクル																		
2.2	人間の心理と行動																		
2.3	人間の正常な構造と機能																		
2.4	人間の機能的・構造的異常状態と原因																		
2.5	治療の原理と適応																		
2.6	疾病の疫学、予防																		
3 安全で最適な医療の実践																			
佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に 患者の安全を最優先し、根拠に基づく効果的な医療を実践することができる。																			
3.1	医療面接、基本的身体診察を実施し臨床推論ができる																		
3.2	必要な検査を選択し、適切に実施／解釈できる																		
3.3	最適な医療情報を患者に適用し、適切に診断・治療計画を立案することができる																		
3.4	問題志向型診療記録を作成し、正確かつ簡潔に症例提示ができる																		
3.5	医療安全に配慮し、医療チームの一員として診療に参画できる																		
3.6	医療制度、医療経済を理解し、最適な医療提供のために活用できる																		
4 コミュニケーションと協働																			
佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に 患者の価値観を尊重し、他の医療者と円滑に協働することができる。																			
4.1	患者の心理社会的背景を理解し、良好な患者医師関係を築くことができる																		
4.2	医療チーム内で信頼関係を築き、目的達成のために役割を果たすことができる																		
4.3	専門の異なる医師や他職種の医療者と円滑に連携することができる																		
4.4	患者の意思決定を支援するために、必要な情報を提供し同意を得ることができる																		
4.5	他者に建設的な批判ができ、他者からの評価や助言を謙虚に受け止めることができる																		
4.6	後進のロールモデルとなるべく行動し、医療者育成に参画することができる																		
5 国際的な視野に基づく地域医療への貢献																			
佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に 国際的な視野で医療の発展を理解し、地域の特性に応じた医療の維持・発展に貢献できる。																			
5.1	個人、地域社会、国際社会における価値観や文化の多様性を理解している																		
5.2	医療の国際化を理解し、英語での情報収集、情報発信ができる																		
5.3	地域の保健・医療・福祉の関連諸機関の適切な連携を理解している																		
5.4	地域の特性や多様なニーズを理解し、地域の急性期および慢性期医療に参画できる																		
6 科学的な探求心																			
佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に 医療・医学の発展に貢献すべく、科学的な探求心と方法論を身につけている。																			
6.1	医学的研究(基礎研究、臨床研究、疫学研究)の方法論と倫理を理解し遵守できる																		
6.2	未解決の医療・医学的問題に着目し、解決に取り組む積極的な姿勢を身につけている																		
6.3	問題解決のために情報の質を吟味し、論理的・批判的な思考ができる																		

— 6 —

医学部医学科カリキュラム模式図（令和5年度以降入学生）

1	年次	2	年次	3	年次	4	年次	5	年次	6	年次
前	期	前	期	前	期	前	期	前	期	前	期
大学入門科目Ⅰ (医療入門Ⅰ)2-(1,3)		医療入門Ⅱ		Unit1 臨床医学入門							
基本教養科目 インターフェース科目		1-(1,2) 2-(1,3),3-(1,2)									
外国語科目 1-(2)		免疫学		Unit2 循環器	Unit6 血液・腫瘍・感染症	Unit10 小児・女性			臨床実習		
情報リテラシー 科目1-(2)		組織学		Unit3 呼吸器	Unit7 皮膚・膠原	Unit11 救急・麻酔・総合診療			地域医療実習		
生命倫理学		神経解剖学		Unit4 消化器	Unit8 運動・感覚器	Unit12 社会医学・医療社会法制			関連教育病院実習		
行動科学原論		生化学		Unit5 代謝・内分泌・腎・泌尿器	Unit9 精神・脳・神経	Unit13 統合医療			◆臨床実習後 OSCE		
物理学		動物性機能生理学				臨床実習					
生物学		植物性機能生理学									
化学											
分子生物学Ⅰ		肉眼解剖学概説		医学英語				基礎系・臨床系 選択科目			
				特定プログラム教育科目							
				基礎系・臨床系選択科目							
				地域枠入学生特別プログラム							
17単位	15単位	16単位	13単位	15単位	11単位	21単位	60単位		8単位		
18単位		6単位		9単位							

※上記単位数は標準修得単位数（選択コース6単位除く），教養教育科目及び各Phaseに付した番号は，学位授与の方針

Phase I
1-(2)

Phase II
1-(3)

Phase III
2-(2,3)

Phase IV
2-(2,3)
3-(2,3)

Phase V
2-(2)

授 業 科 目 開 設 表（令和5年度以降入学生）

医学科

教養教育科目

区 分		授 業 科 目	単 位 数	修 得 区 分	履 修 年 次												備考
					1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		5 年次		6 年次		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
大 学 入 門 科 目		大学入門科目Ⅰ(医療入門Ⅰ)	4	必	4												
		小 計	4		4												
共通基礎科目	外国語科目	英語	4	必	4												
		小 計	4		4												
	情報リテラシー科目	情報基礎概論	2	必	2												
		情報基礎演習Ⅰ	1	必	1												
		小 計	3		3												
基本教養科目	自然科学と技術の分野		14	選必	14										各分野から2単位以上修得		
	文化の分野																
	現代社会の分野																
	小 計		14		14												
インターフェース科目			8	選必	8												
教 養 教 育 科 目 合 計			33														

専門教育科目

区 分	授 業 科 目	単 位 数	修 得 区 分	履 修 年 次												備 考
				1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		5 年次		6 年次		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専 門 基 礎 科 目	生命倫理学	2	必	2												
	行動科学原論	2	必	2												
	医療入門Ⅱ	2	必			2										
	医療統計学	1	必		1											
	物理学	2	必	2												
	化学	3	必	3												
	生物学	3	必	3												
	小 計	15		13		2										
基 礎 医 学 科 目	分子生物学Ⅰ	2	必	2												
	分子生物学Ⅱ	3	必		3											
	免疫学	2	必			2										
	人体発生学	1	必		1											
	組織学	4	必			4										
	神経解剖学	2	必			2										
	肉眼解剖学概説	2	必		2											
	肉眼解剖学	4	必			4										
	生化学	2	必			2										
	動物性機能生理学	3	必			3										
	植物性機能生理学	3	必			3										
	薬理学	3	必				3									
	微生物学	3	必				3									
	病理学	3	必				3									
	小 計	37		8		29										

区 分	授 業 科 目	単 位 数	修 得 区 分	履 修 年 次												備考
				1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		5 年次		6 年次		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
臨床・社会医学科目	臨床医学入門	7	必					7								PBL教育（医学英語を除く）
	循環器	4	必					4								
	呼吸器	3	必					3								
	消化器	4	必					4								
	代謝・内分泌・腎・泌尿器	4	必					4								
	血液・腫瘍・感染症	4	必						4							
	皮膚・膠原	3	必						3							
	運動・感覚器	4	必						4							
	精神・脳・神経	4	必					4								
	小児・女性	4	必							4						
	救急・麻酔・総合診療	4	必							4						
	社会医学・医療社会法制	6	必							6						
	統合医療	3	必							3						
	医学英語	2	必					2								
	小 計	56						56								
臨床実習	臨床実習	60	必							60						
	地域医療実習	4	必									4				
	関連教育病院実習	4	必									4				
	小 計	68										68				
選択科目	基礎系・臨床系選択科目	6	選													
	地域枠入学生特別プログラム科目		選													
	特定プログラム教育科目		選													
	学外研修・ボランティア等		選													
	小 計	6														
専 門 教 育 科 目 合 計		182														

令和 7 ～ 8 年度 医学科フェイズチェアパーソン 及びコ・チェアパーソン一覧表

フェイズ	職 名	氏 名
フェイズⅠ	チェアパーソン	川 口 淳
	コ・チェアパーソン	坂 本 麻衣子
フェイズⅡ	チェアパーソン	吉 田 裕 樹
	コ・チェアパーソン	宮 本 比呂志
フェイズⅢ	チェアパーソン	小 田 康 友
	コ・チェアパーソン	江 崎 幹 宏
フェイズⅣ	チェアパーソン	多 胡 雅 毅
	コ・チェアパーソン	小 網 博 之
フェイズⅤ	チェアパーソン	副 島 英 伸
	コ・チェアパーソン	福 森 則 男

3 教育・評価に関する規定等

進級・卒業認定方法の周知について

(医学科)

進級について

【進級要件】

医学科においては、1年次から2年次、2年次から3年次、4年次から5年次への進級要件がそれぞれ定められています。

[本冊子「佐賀大学学部医学科の授業科目等の履修に係る資格要件に関する内規」参照]

在学年限は10年と定められています。ただし、1年次及び2年次の在学年限は、同一年次において2年を超えることはできません。

[学生便覧「佐賀大学学則」参照]

【進級判定】

進級判定は、3月の教授会において行います。その結果については、3月下旬に掲示にて通知します。

卒業について

【卒業要件】

医学科を卒業するためには、6年以上在学（休学期間は含めない。）し、所定の単位を修得し、臨床実習後OSCE及び総括講義に合格しなければなりません。

[本冊子「授業科目開設表」参照]

【卒業判定】

卒業判定は、1月の教授会において行います。その結果については、1月中旬に掲示にて通知します。

成績評価の異議申立てについて

佐賀大学学生の成績評価の異議申立ての手続きに関する要項

(平成19年1月30日制定)

(趣旨)

第1 この要項は、佐賀大学成績判定等に関する規程（平成16年4月1日制定）第2条第2項により行われる佐賀大学（以下「本学」という。）の学生の成績評価について、本学の学生（学生であったものを含む。以下同じ。）が自身の成績評価に対して異議を申し立てる場合の手続き等に関し必要な事項を定めるものとする。

(異議の申立て)

第2 学生が、自身の成績評価に対して異議がある場合は、成績通知後1月以内（やむを得ない事情がある場合には、2月以内）に、授業科目を開講する当該学部等（以下「当該学部等」という。）の学部長等（教養教育科目にあっては、全学教育機構長、大学院の授業科目にあっては研究科長とする。以下同じ。）に異議を申立てることができる。

2 前項の申立ては、学務部教育企画課、教務課又は医学部学生課の担当窓口において、所定の様式により行うものとする。

(異議申立てへの対応等)

第3 学部長等は、第2の手続きにより学生から異議申立てがあった場合には、当該学部等の教育に関する委員会（以下「委員会」という。）に異議申立ての内容等の調査・検討を行わせるものとする。

2 前項の委員会による調査・検討は、当該授業科目の試験問題、答案、課題、学生が提出したレポートその他授業及び成績評価に用いた資料（以下「成績評価資料等」という。）並びに当該授業科目を担当した教員に対するヒアリングにより行うものとし、委員会は、その調査結果を学部長等に報告しなければならない。

3 第1項の委員会による調査・検討は、異議申立てがあった日から起算して、原則、1月以内に終えるものとする。

4 本学において授業を担当する教員は、教育活動の正当性を証明するとともに、前項の調査・検討の可能性を確保するため、国立大学法人佐賀大学法人文書管理規定（平成23年3月23日制定）に基づき当該授業科目の成績評価資料等を保存・管理しなければならない。

第4 学部長等は、第3の委員会による調査・検討結果の結果報告に基づき、教授会（教養教育科目にあっては、全学教育機構運営委員会、大学院の授業科目にあっては、研究科委員会）の議を経て、異議の認否及び成績評価の取扱いを決定し、速やかに当該学生及び授業担当教員に通知するものとする。

(再度の異議の申立て)

第5 学生は第4の決定に対して、再度、異議を申し立てることはできない。

(雑則)

第6 この要項に定めるもののほか、必要な事項は、当該学部等において別に定める。

附 則

この要項は、平成19年2月1日から実施する。

附 則

この要項は、平成22年4月1日から実施する。

附 則

この要項は、平成25年4月1日から実施する。

附 則（平成26年2月1日改正）

この要項は、平成26年4月1日から実施する。

附 則（平成27年12月21日改正）

この要項は、平成27年12月21日から実施する。

附 則（平成29年9月26日改正）

この要項は、平成29年9月26日から実施し、平成28年4月1日から適用する。

附 則（平成31年2月14日改正）

この要項は、平成31年2月14日から実施し、平成30年4月1日から適用する。

附 則（令和4年3月30日改正）

この要項は、令和4年4月1日から実施する。

附 則（令和6年6月21日改正）

この要項は、令和6年6月21日から実施し、令和6年4月1日から適用する。

佐賀大学医学部試験の実施に関する内規

(令和3年12月15日 制定)

(趣旨)

第1条 佐賀大学医学部履修細則第5条における各授業科目の試験の実施については、この内規の定めるところによる。

(試験の実施時期)

第2条 試験を実施する場合は、試験実施の告示を原則として実施日の2週間前に掲示するものとする。

(試験の種別)

第3条 各授業科目において実施する試験の種別は、本試験、追試験及び再試験とする。

2 試験は、各授業科目の担当教員（教科主任を含む。）が実施するものとする。

(本試験)

第4条 本試験を受験できる者は、当該各授業科目の担当教員から受験資格を認められた者とする。ただし、複数の教員が担当する授業科目の場合は、当該授業科目の教科主任がその認定を行うものとする。

2 前項の規定により、本試験の受験資格を認められなかった者は、再履修をしなければならない。

3 前項の規定により、再履修を課せられた者は、再履修届を提出しなければならない。

(追試験)

第5条 追試験は、本試験の受験資格を有し、かつ、傷病その他やむを得ない理由により本試験を欠席した者で、当該授業科目の担当教員（教科主任を含む。）が認めた者に限り、受験することができるものとする。

2 前項の理由に該当し、本試験を欠席する者は、あらかじめ試験欠席届及び医師の診断書又は理由書（その理由を記載し、説明できるもの）を提出しなければならない。ただし、やむを得ない事情により、事前に提出できなかった者は、遅延理由書を添付して、可及的速やかに手続を行わなければならない。

3 追試験は、当該年度において実施される当該授業科目の再試験の際に行うものとする。

(再試験)

第6条 再試験は、本試験又は追試験の不合格者のうち、あらかじめ再試験受験願を提出した者で、当該授業科目の担当教員（教科主任を含む。）が認めた者に限り、受験することができるものとする。ただし、本試験（追試験該当者を除く。）を無断で欠席した者は、当該学期において実施される当該授業科目の再試験は受験することができない。

2 再試験は、当該授業科目の開講期内に原則として1回のみ行うものとする。

3 再試験における合格の評価は、「可」とする。ただし、次年度以降に当該授業科目を受講した場合において、その授業科目の担当教員（教科主任を含む。）が教育上の見地から必要と判断したときに限り、「可」より上位の評価を与えることができる。

(追試験又は再試験の不合格者の取扱)

第7条 当該学期内に実施される追試験又は再試験を受験し、不合格となった者は、次年度以降に実施される試験を、再試験として受験させることができる。

2 前項の規定により、再試験を受験する者は、試験科目ごとに再試験受験願を提出しなければならない。

(不正行為の取扱)

第8条 各授業科目の試験において、不正行為があった場合は、次により措置する。

(1) 試験において、不正行為と認められる行為があったときは、当該学生がその年度において受講する全ての授

業科目の履修（受講）及び試験を無効とし、原級に留めおく。ただし、前年度以前に履修（受講）した授業科目については、試験のみを無効とすることがある。

(2) 不正行為の内容によっては、佐賀大学学則第39条の規定により処分することがある。

(3) 本項の適用に疑義があるときは、教育委員会において審議する。

附 則

この内規は、令和3年12月15日から施行する。

佐賀大学医学部医学科の授業科目等の履修に係る 資格要件に関する内規

(令和3年12月15日 制定)

(趣旨)

第1条 佐賀大学医学部履修細則第6条における授業科目等の履修に係る資格要件については、この内規の定めるところによる。

(医学科の2年次に開講される授業科目を履修するための資格要件)

第2条 2年次に開講される授業科目を履修することができるのは、1年次の学年末までに開講される科目のうち、大学入門科目、共通基礎科目の全て及び専門教育科目の必修科目を修得した者とする。

2 前項により資格を認められなかった者は、原級に留まり、原則として未修得の科目を再履修しなければならない。

(医学科の3・4年次に開講される授業科目を履修するための資格要件)

第3条 3年次及び4年次に開講される授業科目を履修することができるのは、2年次の学年末までに開講される科目のうち、教養教育科目の全て及び専門教育科目の必修科目を修得している者とする。

2 前項により資格を認められなかった者は、原級に留まり、原則として未修得の科目を再履修しなければならない。

(医学科の臨床実習を行うための資格要件)

第4条 5年次以降に実施される臨床実習を行うことができる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、健康診断の結果、実習に支障がないと認められた者とする。

(1) 4年次の学年末までに開講される授業科目のうち、教養教育科目の全て及び専門教育科目の必修科目を修得し、かつ、共用試験のCBT及びOSCEに合格した者

(2) 前号のほか、教授会において、特にその資格を認められた者

2 前項各号のいずれかに該当し、その資格を認められた者には、「Student Doctor (略称:S.D.)」の呼称を与え、臨床実習適格認定書を授与する。

3 第1項により資格を認められなかった者は、原級に留まり、原則として未修得の科目を再履修しなければならない。

(医学科の6年次に開講される総括講義を受験するための資格要件)

第5条 臨床実習に合格した者のみが総括講義を受講することができる。

(医学科の6年次に実施される臨床実習後OSCE等の取扱)

第6条 医学科を卒業するためには、佐賀大学医学部規則第13条の要件に加えて、臨床実習後OSCE及び総括講義に合格することを必要とする。

2 前項本文の規定にかかわらず、令和4年度以前に入学した者については、医学科を卒業するためには、佐賀大学医学部規則第13条の要件に加えて、臨床実習後OSCEに合格することを必要とする。

附 則

この内規は、令和3年12月15日から施行する。

附 則 (令和5年3月15日改正)

この内規は、令和5年4月1日から施行する。

佐賀大学医学部規則について

佐賀大学医学部規則は、医学部ホームページの学部内関連情報内「医学部規則・関連法規」に掲載されています。

佐賀大学学生の懲戒等実施細則

(平成23年2月9日制定)

(趣旨)

第1条 この細則は、佐賀大学学生の懲戒に関する規程（平成16年4月1日制定）第17条の規定に基づく懲戒の適正な実施及び厳重注意について必要な事項を定めるものとする。

(懲戒の標準例)

第2条 懲戒の標準例については、別表左欄に掲げる懲戒対象行為の区分及び同表中欄に掲げる行為の内容に応じて、同表右欄に掲げる懲戒の種類のとおりとする。

(懲戒の具体的な種類の決定)

第3条 前条に定める懲戒の具体的な種類の決定に当たっては、その原因となった行為の動機及び態様並びに社会に与えた影響等を、総合的に検討し、教育的観点を踏まえ判断するものとする。

(厳重注意)

第4条 学生が、懲戒対象行為以外の行為で学生としてあるまじき行為をした場合において、当該行為を行った学生の所属する学部又は研究科（以下「各学部等」という。）の長は、各学部等の教授会の議を経て、厳重注意を行うことができる。

2 厳重注意は、口頭又は文書により行うものとする。

(教育的措置)

第5条 各学部等の長は、停学又は出席停止中の学生に対して、更生のため教育的措置を講ずることができるものとする。

附 則

この細則は、平成23年2月9日から施行する。

附 則（平成28年3月25日改正）

この細則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（令和6年3月1日改正）

この細則は、令和6年3月1日から施行する。

別表（第2条関係）

懲戒の標準例

区分	行 為 の 内 容	懲戒の種類
犯 罪 行 為	・殺人、強盗、不同意性交、放火、誘拐、障害等の凶悪な犯罪行為又はこれらの犯罪行為の未遂行為を行った場合	退学
	・窃盗、詐欺、恐喝、脅迫、強要、過失致死、過失傷害等の凶悪な犯罪行為を行った場合	退学又は停学
	・賭博、住居侵入、万引き、他人を傷害するに至らない暴力行為等の犯罪行為であって、刑法（明治40年法律第45号）等に抵触する場合	停学又は訓告
	・性的な迷惑行為（痴漢、のぞき見、盗撮行為等）、わいせつ行為（公然わいせつ、わいせつ物頒布等）及び性暴力行為（不同意わいせつ等）の犯罪行為であって、刑法、軽犯罪法（昭和23年法律第39号）等に抵触する場合	退学、停学又は訓告
	・ハラスメントに起因する犯罪行為を行った場合	退学、停学又は訓告
	・ストーカー行為等の規制等に関する法律（平成12年法律第81号）に抵触する行為を行った場合	退学、停学又は訓告
	・薬物犯罪（禁止薬物の使用及び不法所持並びに禁止薬物の売買又はその仲介等及び薬物となり得る植物の栽培）を行った場合	退学又は停学
	・コンピュータ又はネットワークの不正使用等による犯罪行為を行った場合（SNS犯罪、サイバー犯罪を含む。）	退学、停学又は訓告
	・上記以外の刑罰法令に触れる行為を行った場合	退学、停学又は訓告
非 違 行 為	・本学の財物に対し、故意に著しく物的損傷を与えた場合	退学又は停学
	・一気飲み等により飲酒を強制し、重大な事態に至った場合	退学又は停学
	・20歳未満の者自らの飲酒又は20歳未満の者と知りながら飲酒をすすめた場合	停学又は訓告
	・ハラスメント行為（犯罪行為以外）を行った場合	停学又は訓告
	・上記以外の非違行為	停学又は訓告
交 通 事故等 （自動 車のほ か、バ イク及 び自転 車の場 合を含 む。）	・飲酒運転（酒気帯び運転を含む。以下同じ。）、無免許運転、大幅な制限速度超過違反（制限速度30キロ以上の超過）等の悪質な運転による死亡事故又は重度の後遺症を残す人身事故を伴う交通事故を起こした場合	退学
	・ひき逃げ、あて逃げ、飲酒運転、無免許運転、暴走運転等の悪質な運転による人身事故を伴う交通事故を起こした場合	退学又は停学
	・飲酒運転、無免許運転、暴走運転等の悪質な交通法規違反	停学
	・前方不注意等の相当な過失のある、死亡又は重度の後遺症を残す人身事故を伴う交通事故を起こした場合	停学
	・前方不注意等の相当な過失のある、上記以外の人身事故を伴う交通事故を起こした場合	停学又は訓告
	※上記以外の反則金に該当する道路交通法（昭和35年法律第105号）違反については、懲戒処分の対象としない。	
試 験 不 正 行為等	・本学が実施する試験等における極めて悪質な行為（替え玉受験、試験問題の不正入手等）	退学又は停学
	・本学が実施する試験等における上記以外の不正行為（ノート類や携帯電話等を不正に使用したカンニング等）	停学

区分	行 為 の 内 容	懲戒の種類
試 験 不 正 行為等	・ 本学が実施する試験等における極めて悪質な行為の教唆又はほう助行為を行った場合	退学、停学又は訓告
	・ レポート等の盗作や剽窃を行った場合	停学又は訓告
	・ 試験監督者の注意又は指示に従わなかった場合（使用を許可されていない電子機器等を所持する行為等）	訓告
研究活動上の 不正行為	・ 研究活動におけるねつ造、改ざん又は倒錯を行った場合	退学、停学又は訓告
	・ 研究にかかる公的資金（研究費）を不正使用した場合	退学、停学又は訓告

4 3 年次生の学修指針等

PhaseⅢにおける学修の目的と学修内容の概要

フェイズチェアパーソン 小田 康友

医学部のカリキュラムは、医療機関での実習を行う「臨床実習課程」と、その前段階である「臨床実習前課程」から構成されている。本学においてはPhaseⅠ～Ⅲが「臨床実習前課程」に、PhaseⅣが「臨床実習課程」に相当する。

「臨床実習課程」は、現実に行われている臨床実践の中で、現実の患者から学ぶ貴重な機会であり、本学の卒業時学修成果の多くを、「医療現場で実践できる（Does）」のレベルで達成してもらうための教育課程である。しかし、臨床実習は「臨床実習前課程」で学んだことの〈応用〉であり、それまでに学んだことの実例を見て理解を深め、学んだ知識・技能を適用して、現実の問題解決能力を養成する訓練であるから、基本的な知識や技能はもちろん、自ら主体的に学ぶ姿勢が備わっていなければ、得るものは少ない。それ以前に、安全と信頼を基盤とする医療機関の規範を遵守した行動（学修成果1.プロフェッショナリズム、3.安全で最適な医療の実践）をとることができない人は、臨床実習に参加することは許されない。

「臨床実習前課程」は、このような「臨床実習課程」で求められる医学生としてのアタマ・ワザ・ココロの基本をつくり、「基盤となる知識・技能・態度を理解している（knows、 knows how）」を経て「基本的な技能・態度を身につけている（shows how）」のレベルまで修得しておくプロセスである。中でもPhaseⅢは、PhaseⅠ（専門基礎）・Ⅱ（基礎医学）の学びをふまえて、臨床医学・社会医学を中心に、行動科学の知識を学ぶ臨床統合医学であるといえる（学修成果2.医学的知識、5.国際的な視野に基づく地域医療への貢献）。同時に、事実から問題を抽出する能力、未知の情報を収集する能力、それらの知識を応用して問題を解決する能力、面接や診察などの臨床技能、チームワーキング能力、コミュニケーション能力（プレゼンテーション能力を含む）など、医療チームの一員として動くことができ、現場で自ら成長していける能力を養う課程でもある（学修成果3.安全で最適な医療の実践、4.コミュニケーションと協働）。

このような能力は、従来の講義主体の学修では実現が不可能であるという反省をふまえ、本学は、2002年よりPhaseⅢにPBL（Problem-based Learning：問題基盤型学修）を導入しました。PBLは、症例シナリオを用いた小グループ討論において学修すべき課題を自ら抽出し、自己学修することを軸とした教育課程です（学修成果6.科学的な探究心）。特に佐賀大学は、臨床推論を重視したハワイ大学式のPBLを導入し、患者の限られた情報から患者の内部で生じている異常なメカニズムや今後生じうる変化、必要な検査・治療を推察するために事実を集め、評価を行う医師の頭の働きを訓練することを重視しています。そしてPBLはグループ討論や学修成果の相互発表を繰り返しつつ学修を進めますから、コミュニケーション能力やチームワーク、規範の遵守について具体的な行動と省察が求められます。

また、限られた時間の中で効率的に学修を進めるために、PhaseⅢの多くのユニットにCBL（Case-based Learning：症例基盤型学修）を導入している。CBLは、症例を用いたグループ討論を軸とした学修という骨格はPBLと共通しているが、事前の基礎的知識の学修・確認の上で、症例を用いて知識を応用した問題解決を行い、リソースパーソンからの講義で知識を補完する学修となっている。

そしてPBL、CBLなどのアクティブ・ラーニングを用いた学修と並行して、Unit 1「臨床医学入門」を継続的に設定することにより、臨床技能を反復訓練し、学修内容を臨床実践へと橋渡しする課程としている。これらのカリキュラムは、いずれもPhaseⅢの学修を、単なる知識の習得にとどまらない、実践的な能力の養成を意図しているものであるから、その目的や方法を理解し、最大限の効果をあげてもらうことを期待する。

PhaseⅢの成績判定に関する事項

1 成績判定の要件

佐賀大学医学部医学科カリキュラムPhaseⅢは、臨床実習に参加するために不可欠な専門知識のみならず、医師としての思考法や臨床技能、プロフェッショナルな態度を総合的に修得するための課程である。そのため、各ユニットで行われる教育セッションに真摯に参加し十分な学修を行っていることが成績判定の前提である。下記の要件を満たさない場合、履修したとは認めず、成績判定の対象としない。

- ① 全講義（対面講義・動画講義）の2/3以上に出席（視聴）していることを原則とする。出席の確認は、いずれもe-learningでの講義要旨（100字以内）と講義評価の記入が、当該ユニット本試験前日までに終了していることをもって行う。
- ② PBLやCBL、臨床技能訓練、基礎医学系実習等の、グループ討論や実習形式の教育セッションは、全回出席を原則とする。正当な事由による欠席は、後日の補習ないし課題提出をもって出席と認定するため、教科主任の指示を仰ぐこと。講義や実習の遅刻や途中退席、その他不適切な受講態度が見られた場合、出席したとは認めない。
- ③ ユニット内でレポート等の提出を課した場合、それらすべてが適切な形式で期限内に提出されていなければならない。
- ④ 各ユニットで指定する「iSmartコアカリ準拠学習機能」の「コアカリチェック」をすべて修了していること。

やむを得ない事由（病気や怪我、忌引き、災害、事故等）による欠席は、速やかに欠席届を学生課に提出すること。ただし、病欠等の場合は診断書に相当するもの、その他の場合も事情を証明するものを添えなければならない。各ユニットの試験終了後に提出されたものは受理しない。

学修態度に著しい問題がある場合、成績判定を一時保留とし、教科主任が個別面談を行う。改善の意欲や方策、そのための行動が確認出来たら成績判定を行う。出席や課題提出における不正行為はアンプロフェッショナルな行為として、「佐賀大学学生の懲戒等実施細則」に則って対処する。

上記要件を適切に満たした場合、ユニット試験、実習、課題、実技試験等を加味して、総合的に成績を判定する。最終的な成績判定は「佐賀大学医学部試験の実施等に関する取扱要項」により行う。

2 試験について

各ユニットでは、ユニット末試験を行う。ユニット試験はMCQ（Multiple Choice Question：多肢選択問題）と、MEQ（Modified Essay Question：症例提示短文回答問題）または論述試験を組み合わせで出題する。ユニットによっては試験日程を複数に分け、出題数を変更する場合がある。その他、ユニットによっては、中間試験や実技試験を行い、成績判定の要件とする。

医学英語は、3・4年次の2年間継続して履修する科目であるため、各期末（計4回）の試験によって成績判定を行う。

3 再試験について

原則として次により実施するが、事情により日程を変更することがある。再試結果の発表は、各学年度末に一括して発表する。

- ユニット2～3：3年次夏季休業前後に実施する。
- ユニット4：3年次冬季休業前後に実施する。
- ユニット5～8：3年次学年末に実施する。
- ユニット9～11：4年次夏季休業前後実施する。
- ユニット12～13：4年次11月に実施する。

PBL, CBLの概要と方法

フェイズチェアパーソン 小田 康友

PBLとは

I. PBLテュートリアル概要

Problem-Based Learning (問題基盤型学修) は、症例シナリオを検討し、学修課題を自ら見出し、主体的に学ぶことを期待する学修法である。医学系のPBLは、少人数グループによる討論を用いて学修課題を見出すという手法を用いること、テューター（元来は個人教師の意）の助言を得ながら討論や学修を進めることから、PBL-tutorialと呼ばれている。

本学では開学時より学生生活全般について相談に応じ、助言・指導を行う「テューター制度」が別にあるので混乱しがちであるが、PBLに基づく小グループ学修を「PBLテュートリアル」、少人数の学生グループに携わる教員を「PBLテューター」と呼んで区別している。

PBLテュートリアルは6～8名程度の学生からなる小グループに、PBLテューターと呼ばれる担当教員1名が加わって行われるが、従来のセミナーのように少人数の学生に対して教員が講義をする授業ではない。PBLの基本理念は、生涯にわたって成長していける自己主導型学修者としての資質を身につけることであり、教員は学生が自らの目標を明確化し、達成するための援助をしていく立ち位置をとる。

II. PBLテュートリアル手順

PBLテュートリアルの手順は次のとおりである。

- (1) 最初に、学修を進めるための課題が提示される。課題には、医学生が実際に遭遇するであろうと思われる臨床的な事例（症例）が用いられる。臨床的な事例で学修する目的は、症例について診断学的な訓練を行うことではなく、将来実際に医療現場で体験するであろう事例に課題という形で直面することによって、課題の背景を理解し問題を解決するために自分たちは何を身につけておく必要があるかを明確にすることを通じて皆さんの学修に強い動機を与えることにある。
- (2) 学生はその課題の中から、鍵となる事実 (Fact) を列挙し、それらから推測される様々な問題点 (Problem) を抽出する。次いで、その問題点のメカニズムや背景について仮説 (Hypothesis / Mechanism) を考案し、その仮説を検証するために知る必要のある情報は何か (Need to Know : NTK) を明らかにする。NTKとして列挙した項目については、シナリオが進むにつれFactとして確認し、仮説を検証しながらシナリオ上の患者さんの問題の核心に迫っていく。そういったグループ討論の中で、何をどのように自己学修すればよいか学修課題 (Learning Issue) を話し合う。学修課題は、臨床医学的課題にとどまらず、基礎医学的、社会医学的、行動科学的視点からも検討し、症例を中心とした統合学修となるように努めることが重要である。
- (3) 以上のグループ作業のプロセスを、Step1という。PBLテューターは、通常の授業のように学生に答えを教えることはしない。ディスカッションを盛り上げ、学生が立てる学修方針が課題から逸脱しないように導き、自己学修の方法をアドバイスするのがPBLテューターの役割である。
- (4) 次に学生は、自分たちで話し合った学修課題に基づき、各自が参考書、文献、インターネット等を駆使して自己学修を行う。この課程をStep2という。また、課題に関連した講義（実習）がある場合もある。さらに、自分たちで解決できない問題点は学修指導教員（リソース・パーソン）に相談することも可能である。
- (5) 2回目（まとめ）のPBLテュートリアルの時間には、各自が学修してきた事柄をグループ員に発表・説明し、

他のメンバーが学修してきた内容と突き合わせてディスカッションする。ここで得られた知識を症例に適用し、症例の問題を解決するとともに、事実と事実のつながり、およびそのメカニズムを図示（Case mapping）し、理解を深める。このプロセスをStep3という。

- (6) 以上のStep3終了時には、反省・評価（アセスメント）を行う。これは、課題から抽出できた学修項目、自己およびグループ学修の過程、得られた学修効果、そして自分や他のメンバーならびにPBLチューターの活動状況・貢献度などに対して、自己および相互に反省・評価を行うものである。ユニットの終了時には、グループ内での自己評価・相互評価を交換し、次のユニットにおける学修内容・方法改善の指針とする。

III. 一般的注意事項

- (1) PBLテュートリアルは、グループ作業を重視するため、遅刻・欠席については厳しく対処する。（「Phase III の試験に関する事項」を参照）
- (2) 患者さんの急変等、PBLチューターの都合で、代理のチューターが担当することがある。また、PBLチューターの都合でグループ学修の時刻や場所が変更されることがある。メールなどPBLチューターとの連絡法をグループごとに確認しておくこと。
- (3) PBLテュートリアル学修室の使用開始時と終了時には、学修室の備品に異常や紛失がないかチェックし、グループごとに使用学修室の管理責任を果たすこと。
- (4) PBL学修室内での食事、喫煙は禁止とする。飲み物の持ち込みは許容するが、使用後は必ず学修室のあとかたづけをして整頓を保つこと。これらの義務の遵守、管理遂行が不十分であると判断されれば、新たな規制を設けざるをえないため、注意すること。

CBLとは

I. CBLの概要

CBL（Case-based Learning：症例基盤型学修）は、PBL（Problem-based Learning）のように、症例を用いた少グループ討論を行うが、CBLでは事前の自己学修によって修得した知識を応用した問題抽出・解決作業であること、領域の専門家による学修すべき内容や方法についての方向付けがなされること、またグループ討論に関する専門家によるフィードバックがその場でなされることによって、内容に関してより効果的かつ意欲的な学修が可能となることを期待している。

II. CBLの手順

- (1) CBLは事前学修で習得した知識を応用した問題解決訓練であるから、学生が事前にテーマに即した自己学修をしていることが前提となる。CBLセッションのテーマは事前に提示される。
- (2) CBLセッションは、症例を用いたグループ討論と全体討論から成る。症例は簡潔に記されており、グループで討論すべき主要な課題（Guiding Question）も記されている。学生は課題に沿ってグループ討論を進め、課題にグループとしての見解を明らかにする。グループにはチューターはいないが、数名の教員が全体を巡回して議論の動向や問題点を把握する。

その後、教員が司会者となり、全体討論を行う。ここでは、課題ごとに全グループが一斉に回答を提示し、その回答の違いや根拠についての意見をぶつけあう。司会者は、この討論を通じてグループ毎の異なる考え方を吟味し、本当に理解すべき点は何なのかを明確になるように努める。発表者は、ただ自分の意見を述べるのではなく、他の意見との共通性、特殊性を明らかにしようとする思考が理解を深めることを理解する。この討

論での論点に応じて、リソースパーソンは、コメントないミニレクチャーを行う。

- (3) CBLセッションは、原則的に講義室や講堂、基礎実習室などの大教室で行う。グループワーク、全体討論もその場で行うため、司会者の指示に従って、スムーズな進行に努めてほしい。グループメンバーと着席準は事前に指定するため、それに沿って行動すること。

Ⅲ. 一般的注意事項

CBLも、グループ作業を重視するため、正当な事由のない遅刻・欠席については厳しく対処する。（「PhaseⅢの試験に関する事項」を参照）

PhaseⅢのユニット構成とPBL／CBLの実施

Unit 1 臨床医学入門 (PBL)	Unit 8 運動・感覚器 (CBL)
Unit 2 循環器 (PBL)	Unit 9 精神・神経 (CBL)
Unit 3 呼吸器 (PBL)	Unit10 小児・女性 (PBL)
Unit 4 消化器 (PBL)	Unit11 救急・麻酔・総合診療 (CBL)
Unit 5 代謝・内分泌・腎・泌尿器 (CBL)	Unit12 社会医学・医療社会法制 (PBL)
Unit 6 血液・腫瘍・感染症 (CBL)	Unit13 統合医療
Unit 7 皮膚・膠原病 (CBL)	

共用試験（CBT，OSCE）について

共用試験とは、学生の能力と適正について全国的に一定水準を確保するための、臨床実習前に実施する全国共通の標準試験である。5年生に進級して臨床実習に参加するためには、コンピュータを利用して医学的知識を問うCBT（computer based testing）と、実技試験により基礎的臨床能力を問う臨床実習前OSCE（Objective Structured Clinical Examination）の両方に合格する必要がある。いずれか片方を不合格となった場合、翌年度に両方を受験し直さなければならない。

なお、2024年施行の医師法改正によって、共用試験の位置づけは医師国家試験に準ずる公的な試験となった。実施方法はより厳格化し、可否は共用試験実施機構が判定する。

CBTとは

- ・ CBTは6つのブロック（アンケートブロックを除く）で構成されています。合計320設問が出題されます。1ブロックは1時間以内に解答します。
- ・ 合計320設問のうち、これまでのトライアルによって難易度等の問題の特性の判明しているプール問題（約240設問）が採点対象になります。どの設問が採点対象になるかは明らかにしません。残りの約80設問は新規に作成された問題であり、採点対象になりませんが、正答率等を解析して次回以降のプール問題として蓄積するかどうかを評価しています。
- ・ 各ブロック内では受験生ごとに設問がランダムに出題されます。
- ・ 出題形式は以下のA～Cの3つです。
 - A. 五選択肢択一問題（ブロック内で見直しが可能）
 - B. 多選択肢択一問題（一旦解答して次の問題に進むと元の問題に戻れない）
 - C. 順次解答4連問五選択肢択一問題（一旦解答して次の問題に進むと戻れない）

OSCEとは

- ・ OSCEは8つのステーション（医療面接および7つの診察・臨床手技）から構成され、各ステーションごとに課題（シナリオ）が設定されている。
- ・ 各ステーションには模擬患者、OSCE評価者（教員）、必要な道具や機器が配置されている。
- ・ 技能と態度の評価を受ける学生は順番にステーションに入り、一定時間内に要求される課題についての技能を実施し、その技能の適切さおよび態度についての評価を受ける。
- ・ OSCE評価者は大学内部の教員（内部評価者）と他大学の教員（外部評価者）から構成されている。
- ・ 出題内容および試験時間は以下のとおり。
 - I. 医療面接（試験時間10分）
 - II. 診察・手技（試験時間各5分）：頭頸部、胸部・バイタル、腹部、神経、基本的臨床手技、救急

令和7年度（2025年度）PhaseⅢ日程表【3年次】

日 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
4月					土	日	1 U1臨床医学入門		土	日	1 U2循環器	土	日	土	土	土	土	土	土	日	2 土	土	土	土	土	土	日	休			
5月			土	日	休	休			土	土	日	4					土	日	5	土	土	0.5 U3呼吸器	土	土	土	1 土	土	土	土	土	土
6月	日	2					土	日	3					土	土	0.5 U4消化器	土	土	土	土	土	土	1 土	土	土	土	土	土	2	土	土
7月					土	日	3					土	日	4						土	土	5	土	土	土	土	土	土	土	土	土
8月		土	日			夏季休業			土	日	休		夏季休業			土	日						土	土	土	土	土	土	土	土	土
9月	2					土	日	3					土	日	4					土	土		休	土	土	土	土	1 土	1 土	土	土
10月	総理式 (午後)			土	日	2					土	日	休	3				土	日	4	土			土	土	土	土	土	土	土	土
11月	土	日	休				土	日	土	3					土	土	4				土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土
12月	2					土	日	3					土	日	4						土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土
2026年 1月			土	日	6 (設案)	CBT			土	土	日	休	1 土	土	土	2	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土
2月	日	4					土	日	5		休			土	日	6 (設案)		土	土			土	土	土	土	土	土	土	土	土	土
3月	日	OSCE	再試	再試	再試		土	日						土	日			土	土			土	土	土	土	土	土	土	土	土	土

Unit1 臨床医学入門	Unit7 皮膚・膠原
Unit2 循環器	Unit8 運動・感覚器
Unit3 呼吸器	Unit9 精神・神経

シラバスの見かた

シラバス [syllabus] は、個々の授業科目の目的、内容、目標、予定、成績評価の方法など授業の概要を書き示したもので、この学習要項では「授業科目の学習指針等」として掲載してあります。

各授業科目は、医学部の教育目的・目標に沿って年次ごとに開講、配置されていますが、その教育課程における個々の授業科目の位置付け（開講目的）や学習内容・到達目標、成績評価基準・開示方法等をシラバスで明示することにより、教育課程の内容を保証するとともに、学生が、いつ、何を、何のために、どのようにして学び、どこまで到達すべきかを知る学習指針として、重要な役割を果たすものです。

シラバスに記載されている項目の説明

【教科主任】 各授業科目の担当責任者で、教科主任の下に講義・実習等の編成、担当者の配置ならびに試験の実施と成績判定が行われます。

【科目の概要】 各学科の教育課程における当該授業科目の位置付け（開講目的）を示すとともに、この授業により何ができるようになるか（すなわち、この授業の学修がなぜ重要なのか）の総括的な目標が、卒業時学修成果との関連も踏まえて掲げられています。

【「医学教育モデル・コア・カリキュラム」および「e-テキスト」対応】 当該授業科目で学修すべきコアカリの項目を「iSmartコアカリ準拠学修機能」で、それに応じた教科書の範囲をe-テキスト」で示します。

【講義・実習項目】 授業科目を構成する講義・実習等の項目と、それぞれを担当する教員名が示されています。

【学修目標】 当該授業科目で修得すべき能力とそのレベルが、「医学教育モデル・コア・カリキュラム」の学修目標を踏まえて具体的な表現で示されています。

【評価の方法と基準】 当該授業科目の成績評価の方法、成績判定の基準と、評価結果の開示方法が示されています。

【履修上の注意】 各授業科目を履修する上での心構え、注意等が示されています。

【テキスト等】 当該授業に必要な参考書を、次の区分に分けて紹介してあります。

- 1) テキスト：教科書として用いるもので、必ず手に入れておく必要があるもの。
- 2) 指定図書：重要な参考書として利用頻度が高く、手に入れておくことが望ましいもの。これについては、原則的に附属図書館医学分館に配架されています。
- 3) 参考書：上記以外の参考書として挙げられています。

【日程表】 当該授業科目の講義・実習等および試験の日程、担当者を掲載しています。キーワードや講義室が書かれている場合もあります。

注：医学部のシラバスは、「医学部ホームページ ⇒ 学部内関連情報（学部学生）」にも掲載してあるので、利用してください。

また、「教養教育科目」のシラバスについては、「佐賀大学ホームページのオンラインシラバス」に掲載されています。

5 授業科目の学修指針等

臨床医学入門（ユニット 1）

学士力番号 2-(2), 2-(3)

教科主任（ユニットチェア）

福 森 則 男

1. 科目の概要

本科目は、医学部の臨床実習前カリキュラム（Phase I～Ⅲ）と臨床実習カリキュラム（PhaseⅣ）の橋渡しを行う重要な科目である。本学の臨床実習では、臨床実習前カリキュラムで学んだ知識を現実の診療において確認し理解を深めるだけでなく、SD（Student Doctor）認定を受け医療チームの一員として医療実践に参加することになる。臨床実習で効果的に学び、かつ与えられた責任を果たすためには、臨床実習前に本科目で、医師のプロフェッショナルリズムを基盤とし、医学的知識の問題への応用力、安全で最適な医療実践のための基本的な診療技能を修得しておかねばならない。

当科目は3・4年次を通じて実施する2年間のユニット横断的プログラムであるが、「臨床医学総論」と「診療技能演習・第一部および第二部」で構成される。

「臨床医学総論」では、臨床医学を初めて学ぶにあたり、これまで学んできた基礎医学の臨床における重要性を理解する。特定の疾患よりも症候に焦点を当て、その症候がどのようにして起こるかを基礎医学の知識を基に解釈する。あらゆる分野の臨床において基本となる問診や身体所見に関する知識、診断推論に関して学び、検体検査や心電図についても触れる。医師としてのプロフェッショナルリズム、医師の職責や倫理規範、患者中心の医療等について理解する。放射線医学の総論事項にも触れる。図書館のリソースとともに文献検索の方法論を理解し、科学的な探究心を持って臨床を行うことの重要性を理解する。

「診療技能演習・第一部」は、3年次前期から4年次前期にかけて開講し、並行して開講されている臨床医学ユニットに関連した医療面接・身体診察・臨床検査等の基本的臨床手技を演習することにより、座学で学んだ知識と具体的な診察手技とを結びつけながら学修する。また、患者中心の医療に必要な医師としての態度も実践的に修得する。

「診療技能演習・第二部」は、4年次9月に集中プログラムとして開講し、基本的診療技能の総まとめを行い共用試験OSCEに備える。

2. 「医学教育モデル・コア・カリキュラム」および「e-テキスト」対応

「iSmart」コアカリ準拠学修機能	「e-テキスト」対応
・ F-2基本的診療知識 ・ F-3基本的診療技能	『内科診断学』（2024） Ⅰ．診断の考え方 Ⅱ．診察の進め方 『標準外科学』（2022）総論 『標準臨床検査医学』（2023）

3. 講義・実習項目および学修目標

3年次講義一覧

・臨床医学総論

No.	講義項目	所属	担当者	学修目標	形式	方法等	講義室
1	フェイズⅢの概要－PBLとは（解説） U1の概要	地域医療科学 教育研究センター	小田 康友 福森 則男	PBLの概要、目的、学習方法を理解し、円滑にPBLが行えるようにする。	講義	対面	臨床大講堂

2	Case Mapの作成	医師育成・定着支援センター	江村 正	PBL授業の中核となるCase Mapについて理解し、円滑にPBLが行えるようにする。	講義	対面	臨床大講堂
3	臨床上の疑問の解決法	地域医療科学教育研究センター	福森 則男	データベースや二次文献からのエビデンス、診療ガイドラインを検索することができる。(F-2-2)	講義	対面	臨床大講堂
4	医療プロフェッショナルリズム	総合診療部	多胡雅毅,他	プロフェッショナルリズムに関連して、医師の職責や規範、患者中心の医療、社会的責任について理解する。	講義 演習	対面	臨床大講堂
5	症候と病態	富士大和温泉病院	杉岡 隆	症候とその病態を知るうえで、基礎医学の知識に基づいて理解することの重要性を知る。	講義	遠隔	オンデマンド
6	検体検査総論	総合診療部	香月 尚子	臨床の基本知識として、一般的な臨床検査についてその総論を理解する。	講義	対面	臨床大講堂
7	診断学・医療面接	医師育成・定着支援センター	徳島 圭宜	医療における診断の意義に関して理解し、診断に必要な情報をえるための医療面接についてその方法を理解する。	講義	対面	臨床大講堂
8	身体診察	総合診療部	相原 秀俊	臨床の基本となる身体所見について、必要な知識を習得し、その方法を理解する。	講義	対面	臨床大講堂
9	臨床推論実践	地域医療科学教育研究センター	山下 駿	臨床の基本となるバイタルサインの知識を応用し、臨床推論を実践する	講義	対面	臨床大講堂
10	検体検査各論（血液、尿その他）	ぶどうの木クリニック	藤原 元嗣	検体検査の各論について、それぞれ必要な知識を習得する。	講義	対面	臨床大講堂
11	放射線医学総論	放射線医学	中園 貴彦	放射線医学の総論を理解する。	講義	遠隔	オンデマンド
12	放射性同位元素の医学的応用	放射線医学	平井 徹良	放射性同位元素の医学的応用について理解する。	講義	遠隔	オンデマンド
13	放射線治療総論	放射線医学	今泉 猛	放射線治療の総論を理解する。	講義	遠隔	オンデマンド
14	薬理学CBLRP	薬理学	鬼頭 佳彦	薬物療法について、患者が理解できるよう、わかりやすい言葉で説明することができる。	演習	対面	講義室

・診療技能演習・第一部

No.	講義項目	所属	担当者	学修目標	形式	方法等	講義室
14	全身状態とバイタルサイン	地域医療科学教育研究センター		全身状態の観察、脈拍測定、上腕で触診、聴診法による血圧測定、呼吸数の測定、体温測定ができる。(F-3-5)	演習	対面	2階スキルスラボ
18	循環器の診察技法	地域医療科学教育研究センター		胸部（循環器）の視診、触診、打診ができる。心音と心雑音の聴診ができる。(F-3-5)	演習	対面	2階スキルスラボ
16	呼吸器の診察技法	地域医療科学教育研究センター		胸部（呼吸器）の視診、触診、打診ができる。呼吸音と副雑音の聴診ができる。(F-3-5)	演習	対面	2階スキルスラボ
	循環器・呼吸器シミュレータ演習	地域医療科学教育研究センター		シミュレータを用いて反復練習をすることで、臨床技能を磨く。(G-4-4)	演習	対面	2階スキルスラボ
15	腹部の診察技法	地域医療科学教育研究センター		腹部の視診、聴診、打診、触診ができる。圧痛、腹膜刺激徴候、筋性防御の有無を判断できる。腹水の有無を判断できる。(F-3-5)	演習	対面	2階スキルスラボ
20	医療面接技法	地域医療科学教育研究センター		適切な身だしなみ、言葉遣い及び態度で患者に接し、医療面接における基本的コミュニケーション技法を用いることができる。(F-3-2)	講義 演習	対面	2階スキルスラボ
2	四肢・脊柱の診察技法	地域医療科学教育研究センター		脊柱（湾曲、疼痛）の診察、関節（可動域、腫脹、疼痛、変形）の診察、筋骨格系の診察（徒手筋力テスト）ができる。(F-3-5)	演習	対面	2階スキルスラボ
3	頭頸部の診察技法	地域医療科学教育研究センター		頭頸部領域（顔貌、頭部、眼、耳、唇・口腔・咽頭、鼻腔・副鼻腔、唾液腺、気管、甲状腺、頭頸部リンパ節）の診察ができる。(F-3-5)	演習	対面	2階スキルスラボ

4	神経の診察技法	地域医療科学教育研究センター	意識レベルの判定，脳神経系（眼底検査を含む），腱反射，小脳機能・運動系，感覚系の診察ができる。髄膜刺激所見を確認できる。(F-3-5)	演習	対面	2階スキルスラボ
21	mini-OSCE	地域医療科学教育研究センター	基本的手技がどの程度獲得できているかを評価して学習目標・課題を抽出できる。	試験	対面	2階スキルスラボ

4 年次講義一覧

・診療技能演習・第一部

1	医療面接演習 意思決定支援	地域医療科学教育研究センター		適切な身だしなみ，言葉遣い及び態度で患者に接し，医療面接における基本的コミュニケーション技法を用いることができる。(F-3-2)	演習	対面	2階スキルスラボ
5	基本的臨床手技 (静脈採血)	地域医療科学教育研究センター		検査に関する基本的臨床手技を実施できる。	演習	対面	2階スキルスラボ
6	死とその過程のケア	満岡内科クリニック	満岡 聡	人生の最終段階における医療での患者とのコミュニケーション，事前指示，尊厳死と安楽死などを説明できる。(E-9-1)，(F-2-15)	講義	対面	臨床大講堂

・診療技能演習・第一部

No.	講義項目	所属	担当者	学修目標	形式	方法等	講義室
7	医療面接技法	OSCE医療面接評価者		適切な身だしなみ，言葉遣い及び態度で患者に接し，医療面接における基本的コミュニケーション技法を用いることができる。(F-3-2)	講義演習	対面	臨床大講堂、その他
8	全身状態とバイタルサインの診察技法	OSCE全身状態とバイタルサイン評価者		全身状態の観察，脈拍測定，上腕で触診，聴診法による血圧測定，呼吸数の測定，体温測定ができる。(F-3-5)	講義演習	対面	臨床大講堂、その他
9	循環器の診察技法 呼吸器の診察技法	OSCE胸部評価者		胸部の視診，触診，打診ができる。心音と心雑音の聴診ができる。主要な心雑音を聴取して，病態を推論できる。(F-3-5)	講義演習	対面	臨床大講堂、その他
10	感染対策の技法	OSCE感染対策評価者		手指衛生等の標準予防策(standard precautions)を実施できる。(F-3-6)	講義演習	対面	臨床大講堂、その他
11	腹部の診察技法	OSCE腹部評価者		腹部の視診，聴診，打診，触診ができる。圧痛，腹膜刺激徴候，筋性防御の有無を判断できる。腹水の有無を判断できる。(F-3-5)	講義演習	対面	臨床大講堂、その他
12	頭頸部の診察技法	OSCE頭頸部評価者		頭頸部領域（顔貌，頭部，眼，耳，唇・口腔・咽頭，鼻腔・副鼻腔，唾液腺，気管，甲状腺，リンパ節）の診察ができる。(F-3-5)	講義演習	対面	臨床大講堂、その他
13	基本的臨床手技（外科手技）	OSCE基本的臨床手技評価者		無菌操作を実施できる。手術や手技のための手洗いができる。手術室におけるガウンテクニックができる。(F-3-6)	講義演習	対面	臨床大講堂、その他
14	救急技法（BLS・ACLS）	OSCE救急評価者		緊急性の高い状況かどうかをある程度判断できるようにする。一次救命処置を実施できる。(F-3-6)	講義演習	対面	臨床大講堂、その他
15	神経の診察技法	OSCE神経評価者		意識レベルの判定，脳神経系（眼底検査を含む），腱反射，小脳機能・運動系，感覚系の診察ができる。髄膜刺激所見を確認できる。(F-3-5)	講義演習	対面	臨床大講堂、その他
16	基本的臨床手技（一般?検査手技）	OSCE基本的臨床手技評価者		臨床検査の実施方法を説明できる。(F-2-3) 静脈採血をシミュレータで実施できる。(F-3-6)	講義演習	対面	臨床大講堂、その他

4. 評価の方法と基準

1) 評価の方法

成績判定の要件は、「PhaseⅢの成績判定に関する事項」および下記①?④である。一旦成績判定が提示されても、その後要件を満たしていないことが判明した場合、判定を無効とする。

① 履修状況が下記を満たすこと。

・全講義の2/3以上と全ての演習に出席し、適切な態度で履修していること。

② 「mini-OSCE」に合格すること。

・mini-OSCEは、概ね60%の得点で合格とし、不合格の場合は合格ラインに達するまで補習と再試験を実施する。

③ 「臨床実習前OSCE」に合格すること。

①～③を満たしている場合、履修状況（20%）、mini-OSCE（30%）、臨床実習前OSCE（50%）の総合評価で成績判定を行う。

2) 試験結果の開示

・開示を希望するものは、教科主任にメールで連絡をすること。

・臨床実習前OSCEは、試験結果の開示や個別のフィードバックはできない。

5. 履修上の注意

- ・実習に際しては互いに患者役になるなどの協力が不可欠である。互いに清潔を心掛け、相手を尊重して臨むこと。道具や服装などの準備が必要な場合は、講義前に掲示する。
- ・正当な事由のない演習の欠席は認めない。「PhaseⅢの試験に関する事項3」に準ずる。
- ・不誠実な演習態度、学力や技能の向上を怠る姿勢に改善がみられない学生、不正行為を行った学生は、試験の成績に関わらず不合格とする。

6. テキスト等

- ・新・総合診療医学 病院総合診療医学編 第3版 ―初めて総合診療を学ぶ人のために 2019
- ・新・総合診療医学 診療所総合診療医学編 第3版 2019
- ・ベイツ診察法 第2版 2015
- ・臨床疫学 第3版―EBM実践のための必須知識 2016
- ・診断法を評価する（臨床家のための臨床研究デザイン塾テキスト）2014
- ・国試・改訂コアカリ対応 地域医療学入門 2019
- ・地域医療テキスト 2009
- ・老年医学系統講義テキスト 2013
- ・実践行動医学―実地医療のための基本的スキル 2010
- ・在宅医療テキスト第3版 2015
- ・『診察ができる vol.1 身体診察』第1版. MEDIC MEDIA, 2023
- ・『診察ができる vol.2 鑑別診断』第1版. MEDIC MEDIA, 2024
- ・「診療参加型臨床実習に必要とされる技能と態度についての学修・評価項目1.1版」. 公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構 作成.

<https://www.cato.or.jp/cbt/medical-osce/index.html>

7. ユニット1 日程表

臨床医学総論

注：講義室が記載してあるコマは対面で実施

曜 日			月	火	水	木	金
週	コ マ	日 時間	2025/4/7	2025/4/8	2025/4/9	2025/4/10	2025/4/11
1	1	8:50～9:50	Phase-Ⅲの概要 PBLとは (医学教育 小田康友) U1の概要 (医学教育 福森則男) 臨大	症候と病態 (杉岡隆*)	Large Class PBL Step 1 (医学教育 小田康友, 福森則男) 臨大	外科学総論 (外科 真鍋達也) 臨小3113	Large Class PBL Step 3 (医学教育 小田康友, 福森則男) 第3実習室
	2	10:00～11:00		自己学修		内科学総論 (内科 野出孝一) 臨小3113	
	3	11:10～12:10				自己学修	
	4	13:00～14:00	診断学・医療面接 (総診 徳島圭宜) 臨大	放射線医学総論 (放射線 中園貴彦) 臨大	検体検査 各論 (藤原元嗣*) 臨大	医療プロフェッショナリズム (総診 多胡雅毅, 他) 臨大	薬理学CBLRP オリエンテーション 臨小3113
	5	14:10～15:10	身体診察 (総診 相原秀俊) 臨大	放射性同位元素の 医学的応用 (放射線 平井徹良)	Case Mapの作成 (医師育成 江村正) 臨大	臨床推論実践 (医学教育 山下 駿) 臨大	自己学修
	6	15:20～16:20	検体検査 総論 (総診 香月尚子) 臨大	放射線治療総論 (放射線 今泉猛)	自己学修		

注：講義は60分授業で行います。

*学外非常勤講師

診療技能演習・第一部

日程	時間	グループ	講義実習項目	担当	場所	開講ユニット
4/16(水)	13:00-15:10	A・B	全身状態とバイタルサイン	医学教育開発部門	2階スキルスラボ	U2「循環器」 4/14 - 5/21
4/30(水)	13:00-15:10	C・D				
5/7(水)	13:00-15:10	A・B	循環器の診察技法	医学教育開発部門	2階スキルスラボ	
5/14(水)	13:00-15:10	C・D				
6/11(水)	13:00-15:10	A・B	呼吸器の診察技法	医学教育開発部門	2階スキルスラボ	U3「呼吸器」 5/22 - 6/18
6/18(水)	13:00-15:10	C・D				
6/25(水)	13:00-15:10	A・B	腹部の診察技法	医学教育開発部門	2階スキルスラボ	U4「消化器」 6/19 - 7/25
7/2(水)	13:00-15:10	C・D				
7/9(水)	13:00-15:10	全員	ハワイ大学PBLデモンストレーション	医学教育開発部門	看護学科6階	
10/29(水)	13:00-15:10	全員	医療面接技法	医学教育開発部門	3階実習室	U7「皮膚・腫瘍」 10/27 - 11/21
11/5(水)	13:00-15:10	A・B	医療面接演習	医学教育開発部門	2階実習室	
11/12(水)	13:00-15:10	C・D			3階実習室	
11/19(水)	13:00-16:20	全員	mini-OSCE	医学教育開発部門	2階スキルスラボ	
後日調整		該当者	mini-OSCE(再試験)	医学教育開発部門	2階スキルスラボ	
11/28(金)	13:00-15:10	A・B	四肢・脊柱の診察技法	医学教育開発部門	2階スキルスラボ	U8「運動・感覚器」 11/25 - 2026/1/9
12/3(水)	13:00-15:10	C・D				
12/10(水)	13:00-15:10	A・B	頭頸部の診察技法	医学教育開発部門	2階スキルスラボ	
12/17(水)	13:00-15:10	C・D				
2026/2/13(金)	10:00-12:10	A・B	神経の診察技法	医学教育開発部門	2階スキルスラボ	U9「精神・神経」 1/13 - 2/20
	13:00-15:10	C・D				

* 実習のグループ分けは後日掲示します

* 2階スキルスラボ: 講義棟2階(北側奥)

* 2階実習室: 講義棟2階(3階実習室真下)

* 3階実習室: 講義棟3階

8. リソースパーソン/担当者一覧

講 座 等	氏 名	内 線 番 号	連 絡 先
地域医療科学教育研究センター	小 田 康 友		
〃	福 森 則 男		
〃	山 下 駿		
〃	山 崎 加奈枝		
〃	古 場 陽 子		
総 合 診 療 部	多 胡 雅 毅		
〃	徳 島 圭 宜		
〃	相 原 秀 俊		
〃	香 月 尚 子		
医師育成・定着支援センター	江 村 正		
放 射 線 医 学	中 園 貴 彦		
〃	平 井 徹 良		
〃	今 泉 猛		
薬 理 学	鬼 頭 佳 彦		
富 士 大 和 温 泉 病 院	杉 岡 隆		
ぶどうの木クリニック	藤 原 元 嗣		

循環器（ユニット2）

学士力番号 2-(2), 2-(3)

教科主任（ユニットチエア）

蒲原啓司

1. 科目の概要

医学生が、将来携わる専門領域に関わらず医師のプロフェッショナルリズムを基盤とし、医師として要求される一般的な循環器疾患の診療や予防に対応することが可能になることを目的とする。循環器系の構造や機能、疾病の疫学や予防、治療に関する知識、ならびに医療面接、基本的身体診察や検査に関する技能、臨床推論能力、問題対応能力を習得し、安全で最適な医療を提供できるスキルを身につける。さらに患者の心理社会的背景を理解し、良好な医師患者関係・医療チーム連携を築き、地域医療・福祉に配慮する態度や自ら学習を継続していく姿勢を身につける。

2. 「医学教育モデル・コア・カリキュラム」および「e-テキスト」対応

Unit 2 循環器

「iSmart」コアカリ準拠学修機能	「e-テキスト」対応
・C-4-4) 循環障害、臓器不全 ・D-5循環器系	『新臨床内科学』（2020） 第3章 循環器疾患 『標準外科学』（2022） 各論第5章 心臓 各論第6章 血管 各論第19章 リンパ系 『標準病理学』（2023） 第11章 循環器 『画像診断リファレンス』（2021） 第4章 心血管『新臨床内科学』（2020）

3. 講義・項目および学修目標

No.	講義項目	所属	担当者	学修目標	形式	方法等	講義室
1	オリエンテーション	内科学	野出 孝一		講義	遠隔	オンデマンド
2	身体所見のみかた	卒後臨床研修センター	吉田 和代	バイタルサインおよび胸部の基本的診察法を正しく実施することができる。	講義	遠隔	オンデマンド
3	心電図の基本的なみかた	卒後臨床研修センター	吉田 和代	心電図判読の基本について述べることができる。	講義	遠隔	オンデマンド
4	症候学 胸痛	内科学	本郷 玄	胸痛の鑑別診断について述べることができる。	講義	対面	臨床大講堂
5	虚血性心疾患	内科学	夏秋 政浩	①胸痛をきたす疾患の鑑別ができる。②虚血性心疾患における心電図変化を説明することができる。③虚血性心疾患の診断に必要な検査とその所見について述べることができる。④急性冠症候群の病態と初期対応を説明することができる。	講義	遠隔	オンデマンド
6	先天性心疾患・小児循環器疾患	小児科	熊本 崇	①主要な先天性心疾患における循環病態と身体所見を述べることができる。②先天性心疾患における手術法を述べることができる。	講義	遠隔	オンデマンド

7	循環器の画像診断 (心エコーとCT以外)	卒後臨床研修 センター	吉田 和代	循環器疾患の診断に必要なとされる画像検査について説明することができる。	講義	遠隔	オンデマンド
8	画像診断／心エコー	内科学	金子 哲也	主要な疾患における代表的画像所見を説明することができる。	講義	遠隔	オンデマンド
9	画像診断／C T	内科学	坂本 佳子	循環器領域における主要な画像診断法の適応と禁忌を述べることができる。	講義	遠隔	オンデマンド
10	心臓腫瘍	内科学	田中 敦史	心臓腫瘍の症状と画像所見、治療法を説明することができる。	講義	遠隔	オンデマンド
11	不整脈(1)	内科学	新里 広大	①刺激伝導系について説明することができる。 ②代表的な抗不整脈剤の薬理作用と適応を述べる。 ③ペースメーカーや植え込み型除細動器の適応と働きを述べる。	講義	遠隔	オンデマンド
12	症候学 動悸	内科学	新里 広大	動悸の鑑別診断について述べる。	講義	遠隔	オンデマンド
13	心筋炎・心膜炎・心タンポナーデ	内科学	矢島あゆむ	①心筋炎・心膜炎の病因を述べる。 ②心タンポナーデにおける主要徴候と病態について説明することができる。	講義	遠隔	オンデマンド
14	生活習慣病と循環器疾患	内科学	野出 孝一	生活習慣病や他の危険因子が循環器系に及ぼす影響について述べる。	講義	対面	講義室
15	心内膜炎	内科学	吉岡 吾郎	感染性心内膜炎の病態を説明することができる。	講義	遠隔	オンデマンド
16	高血圧	内科学	野出 孝一	①血圧に影響を及ぼす因子を述べる。 ②高血圧の基準や管理についてガイドラインに沿って述べる。 ③高血圧が全身におよぼす影響について説明することができる。 ④二次性高血圧をきたす疾患とその鑑別を述べる。 ⑤主な降圧剤の作用について説明することができる。	講義	対面	講義室
17	心不全	内科学	野出 孝一	①心不全時の病態を説明することができる。 ②心不全時の主要な症状と徴候について具体的に説明することができる。 ③心不全時の胸部X線像を説明することができる。 ④心不全に対する内科的・外科的治療法について説明することができる。	講義	対面	講義室
18	症候学 浮腫	内科学	坂本 佳子	浮腫の鑑別診断について述べる。	講義	遠隔	オンデマンド
19	不整脈(2)	内科学	鶴田浩太郎	①不整脈症候群と致死性不整脈について述べる。 ②代表的な不整脈における心電図所見と治療方法を述べる。	講義	遠隔	オンデマンド
20	循環器の生理	内科学	鍋嶋 洋裕	心機能と神経体液性調節に関する生理学的知識と臨床的事象を関係付けることができる。	講義	遠隔	オンデマンド
21	全身疾患に伴う心臓病	内科学	金子 哲也	全身疾患に伴う心臓病について説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
22	不整脈(3)	内科学	山口 尊則	①代表的な不整脈における心電図所見を述べる。 ②カテーテル、アブレーションの適応となる不整脈を挙げる。	講義	対面	講義室
23	下肢動脈疾患の内科的治療	不整脈精密医療学	横井 研介	①閉塞性動脈硬化症とバージャー病を対比して説明できる。 ②閉塞性動脈硬化症の重症度と治療方針の評価ができる。	講義	遠隔	オンデマンド
24	心臓弁膜症 (内科領域)	内科学	夏秋 政浩	心臓弁膜症における、病態生理、画像検査結果を説明することができる。	講義	遠隔	オンデマンド
25	心筋症	内科学	田中 敦史	①拡張型心筋症と肥大型心筋症について病態・超音波所見・病理組織像を説明することができる。 ②拡張型心筋症・肥大型心筋症の治療について述べる。	講義	遠隔	オンデマンド

26	心電図演習	卒後臨床研修センター	吉田 和代	代表的疾患の心電図所見を述べるができる。	演習	対面	オンデマンド
27	肺循環	内科学	矢島あゆむ	肺高血圧をきたす疾患をあげることができる。	講義	遠隔	オンデマンド
28	心疾患のリハビリテーション・運動療法	内科学	矢島あゆむ	循環器疾患の運動療法の適応と効果、禁忌について述べるができる。	講義	遠隔	オンデマンド
29	循環器疾患の薬理	内科学	鍋嶋 洋裕	循環器薬の薬理作用と特徴について述べるができる。	講義	遠隔	オンデマンド
30	心臓の外科的解剖	胸部・心臓血管外科学	蒲原 啓司	心臓と主要血管の正常解剖と機能を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
31	大動脈・主要分枝の外科的解剖	胸部・心臓血管外科学	蒲原 啓司	大動脈解離・大動脈瘤のCT所見を画像上で説明することができる。	講義	遠隔	オンデマンド
32	大動脈疾患の外科治療(1)(2)	胸部・心臓血管外科学	林 奈宜	①大動脈解離の症状・徴候をのべることができる。 ②大動脈解離・大動脈瘤のCT所見を画像上で説明することができる。 ③大動脈解離・大動脈瘤の手術適応について述べるができる。 ④大動脈疾患に対する主な外科的治療法について述べることができる。	講義	遠隔	オンデマンド
33	大動脈ステントグラフト治療	胸部・心臓血管外科学	柚木 純二	大動脈ステントグラフト治療法について説明することができる。	講義	遠隔	オンデマンド
34	虚血性心疾患の外科治療(1)(2)	胸部・心臓血管外科学	諸隈 宏之	①急性心筋梗塞の合併症について述べるができる。 ②虚血性心疾患に対する薬物療法、カテーテルインターベンション、冠動脈バイパス術について説明することができる。	講義	遠隔	オンデマンド
35	弁膜症の外科治療(1)	胸部・心臓血管外科学	陣内 宏紀	弁膜症に対する外科的治療法について説明することができる。	講義	遠隔	オンデマンド
36	弁膜症の外科治療(2)	胸部・心臓血管外科学	柚木 純二	弁膜症に対する外科的治療法について説明することができる。	講義	遠隔	オンデマンド
37	先天性心疾患の外科治療	胸部・心臓血管外科学	伊藤 学	主要な先天性心疾患における循環動態と身体所見を述べることができる。	講義	遠隔	オンデマンド
38	リンパ疾患・静脈疾患・静脈血栓症	胸部・心臓血管外科学	陣内 宏紀	①リンパ疾患の診断と予防について説明することができる。 ②静脈疾患の診断と予防について説明することができる。 ③深部静脈血栓症の診断と予防について説明することができる。	講義	遠隔	オンデマンド
39	末梢動脈疾患(1)(2)	胸部・心臓血管外科学	伊藤 学	①閉塞性動脈硬化症とバージャー病を対比して説明できる。 ②閉塞性動脈硬化症の重症度と治療方針の評価ができる。 ③腹部大動脈の疾患における治療法について説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
40	心筋保護と人工心肺(1)(2)	胸部・心臓血管外科学	七條 正英	人工心肺について説明することができる。	講義	遠隔	オンデマンド
43	PBL①		各担当者		演習	対面	
44	PBL②		各担当者		演習	対面	
42	PBL①解説	医療研修センター	吉田 和代	解説	講義	対面	臨床大講堂
41	PBL②解説	胸部・心臓血管外科学	柚木 純二	解説	講義	遠隔	オンデマンド
45	病理学：講義・実習	病理学	加藤 省一	循環器主要疾患の病理組織像について述べることができる。	実習	対面	実習室
46	心臓移植	胸部・心臓血管外科	森田 茂樹	心臓移植について説明することができる。	講義	遠隔	オンデマンド

47	心不全と補助循環	胸部・心臓血管外科	森田 茂樹	心不全に対する外科的治療法について説明することができる。	講義	遠隔	オンデマンド
48	薬理学CBLRP	薬理学	鬼頭 佳彦	薬物療法について、患者が理解できるよう、わかりやすい言葉で説明することができる。	演習	対面	小講堂

4. 評価の方法と基準

1) 評価の方法

- ・筆記試験, PBL出席状況・履修態度による総合評価をおこなう。
- ・2/3以上の講義と全てのPBLに出席し、適切な態度で履修していることを要件とする。

2) 評価基準

- ・筆記試験の合否判定基準は60%の正答率を基本線とし、試験の難易度によって調整する。
- ・受験資格は、「PhaseⅢの成績判定に関する事項」に準ずる。

3) 評価結果の開示

- ・希望があれば、試験答案の採点結果、模擬解答等の解説を行う。質問があるものは試験結果発表後1月程度の期間内にオフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

5. 履修上の注意

PBL及び講義前後の自己学習による予習・復習が重要である。

6. テキスト等

Web sites, textbook and journal articles

Web sites

国立循環器病センターホームページ <http://www.ncvc.go.jp>

CTSNet (The Cardiothoracic Surgery network) ホームページ: <http://www.ctsnet.org/>

メルクマニュアル 第17版 日本語版 <http://merckmanual.banyu.co.jp>

テキスト

1. 標準循環器病学 小川 聡 編 医学書院
2. 新臨床外科学 森岡恭彦監修 第3版 医学書院

参考図書

1. Annual Review 循環器 中外医学社, 毎年出版
2. 目で見える循環器病シリーズ No. 1～ メディカルビュー社
3. 循環器NOWシリーズ No. 1～ 南江堂
4. 循環器疾患最新の治療 2014～2015 編者: 堀 正二・永井良三 南江堂
5. Heart disease Editor, E. Braunwald. Saunders
6. Hurst's The Heart 12th. 医学書院
7. ハーバード大学テキスト 心臓病の病態生理 第2版 メディカルサイエンスインターナショナル
8. 臨床発達心臓病学 第3版 中外医学者

Journals

1. 心臓 (雑誌, 図書館)
2. 日本胸部外科学会雑誌 (雑誌, 図書館)
3. 日本心臓血管外科学会誌 (雑誌, 図書館)
4. 脈管学 (雑誌, 図書館)
5. Heart View (雑誌) メディカルビュー社

7. ユニット2 日程表

注：講義室が記載してあるコマは対面で実施

曜 日			月	火	水	木	金
週	コマ	日 時間	2025/4/14	2025/4/15	2025/4/16	2025/4/17	2025/4/18
1	1	8:50～9:50	自己学修	症候学：胸痛 (循内 本郷玄) 大講堂	先天性心疾患・ 小児循環器疾患 (小児 熊本崇)	循環器の画像診断 (心エコーとCT以外) (卒後 吉田和代)	症候学：動悸 (循内 新里広大)
	2	10:00～11:00		画像診断/心エコー (循内 金子哲也)		画像診断/CT (循内 坂本佳子)	心筋炎・心膜炎・ 心タンポナーデ (循内 矢島あゆむ)
	3	11:10～12:10					
	4	13:00～14:00	13:30～スタート U4オリエンテーション (循内 野出孝一)	虚血性心疾患 (循内 夏秋政浩)	U1臨床医学入門 全身状態と バイタルサイン (医学教育) スキルスラボ	心臓腫瘍 (循内 田中敦史)	心内膜炎 (循内 吉岡吾郎)
	5	14:10～15:10	身体所見のみかた (卒後 吉田和代)		自己学修	不整脈(1) (循内 新里広大)	心臓弁膜症 (内科領域) (循内 夏秋政浩)
	6	15:20～16:20	心電図の基本的な みかた (卒後 吉田和代)				
週	コマ	日 時間	2025/4/21	2025/4/22	2025/4/23	2025/4/24	2025/4/25
2	1	8:50～9:50	生活習慣病と循環器疾患 (循内 野出孝一) 小講堂3113	心不全 (循内 野出孝一) 小講堂3114	循環器の生理 (循内 鍋嶋洋裕)	不整脈(3) (循内 山口尊則)	肺循環 (循内 矢島あゆむ)
	2	10:00～11:00	高血圧 (循内 野出孝一) 小講堂3113				
	3	11:10～12:10	自己学修	症候学：浮腫 (循内 坂本佳子)	全身疾患に伴う 心臓病 (循内 金子哲也)	自己学修	心疾患のリハビリテーション ・運動療法 (循内 矢島あゆむ)
	4	13:00～14:00	循環器 病理実習① (病理 加藤省一， 木戸伸一， 橋口真理子) 2階実習室	不整脈(2) (循内 鶴田浩太呂)	自己学修	心筋症 (循内 田中敦史)	循環器疾患の薬理 (循内 鍋嶋洋裕)
	5	14:10～15:10		自己学修		下肢動脈疾患の 内科的療法 (循内 横井研介)	薬理学CBLRP 小講堂3113
	6	15:20～16:20					
週	コマ	日 時間	2025/4/28	2025/4/29	2025/4/30	2025/5/1	2025/5/2
3	1	8:50～9:50	自己学修	休 日	自己学修	大動脈疾患の 外科的治療(1) (胸外 林奈宜)	弁膜症の外科治療(1) (胸外 陣内宏紀)
	2	10:00～11:00			心臓の外科的解剖 (胸外 蒲原啓司)	大動脈疾患の 外科的治療(2) (胸外 林奈宜)	弁膜症の外科治療(2) (胸外 柚木純二)
	3	11:10～12:10			大動脈・主要分枝の 外科的解剖 (胸外 蒲原啓司)	大動脈ステント グラフト治療 (胸外 柚木純二)	先天性心疾患の 外科治療 (胸外 伊藤学)
	4	13:00～14:00	U1臨床医学入門 全身状態と バイタルサイン (医学教育) スキルスラボ		虚血性心疾患の 外科治療(1) (胸外 諸隈宏之)	自己学修	
	5	14:10～15:10					虚血性心疾患の 外科治療(2) (胸外 諸隈宏之)
	6	15:20～16:20			自己学修		自己学修

曜 日			月	火	水	木	金
週	コマ	日 時間	2025/5/5	2025/5/6	2025/5/7	2025/5/8	2025/5/9
4	1	8:50～9:50	休 日	振替休日	自己学修	リンパ疾患・静脈疾患・静脈血栓症 (胸外 陣内宏紀)	PBL① Step1 PBL学習室
	2	10:00～11:00				末梢動脈疾患(1) (胸外 伊藤学)	
	3	11:10～12:10				末梢動脈疾患(2) (胸外 伊藤学)	
	4	13:00～14:00			U1臨床医学入門 循環器の診察技法 (医学教育) スキルスラボ	医学英語 (医学教育 坂本麻衣子) 小講堂3113	自己学修 (PBLを午後に 実施する グループを除く)
	5	14:10～15:10			自己学修	自己学修	
	6	15:20～16:20					
週	コマ	日 時間	2025/5/12	2025/5/13	2025/5/14	2025/5/15	2025/5/16
5	1	8:50～9:50	自己学修	PBL① Step3 PBL学習室	自己学修	心臓移植 (森田茂樹＊)	PBL② Step1 PBL学習室
	2	10:00～11:00				心不全と補助循環 (森田茂樹＊)	
	3	11:10～12:10				医学英語 (医学教育 坂本麻衣子) 小講堂3113	
	4	13:00～14:00	心筋保護と人工心肺(1) (胸外 七條正英)	自己学修 (PBLを午後に 実施する グループを除く)	U1臨床医学入門 循環器の診察技法 (医学教育) スキルスラボ	PBL①解説 (卒後 吉田) 小講堂3113	自己学修 (PBLを午後に 実施する グループを除く)
	5	14:10～15:10	心筋保護と人工心肺(2) (胸外 七條正英)		自己学修	自己学修	
	6	15:20～16:20	自己学修				
週	コマ	日 時間	2025/5/19	2025/5/20	2025/5/21	2025/5/22	2025/5/23
5	1	8:50～9:50	自己学修	PBL② Step3 PBL学習室	自己学修	Unit3 呼吸器	Unit3 呼吸器
	2	10:00～11:00	不整脈(3) (循内 山口尊則) 小講堂3113				
	3	11:10～12:10					
	4	13:00～14:00	自己学修	自己学修 (PBLを午後に実施 するグループを除く)	試験 臨大		
	5	14:10～15:10		PBL②解説 (胸外 柚木純二)			
	6	15:20～16:20					

注：講義は60分授業で行います。

* 学外非常勤講師

8. リソースパーソン／担当者一覧表

講 座	職 名	氏 名	連 絡 先	備 考
内 科 学 (循 環 器)	教 授	野 出 孝 一		
内 科 学 (循 環 器)	講 師	夏 秋 政 浩		
内 科 学 (循 環 器)	助 教	矢 島 あゆむ		
胸 部 ・ 心 臓 学 血 管 外 科 学	教 授	蒲 原 啓 司		
胸 部 ・ 心 臓 学 血 管 外 科 学	准 教 授	柚 木 純 二		
胸 部 ・ 心 臓 学 血 管 外 科 学	講 師	伊 藤 学		
病 理 学 (診 断 病 理 学)	教 授	加 藤 省 一		
薬 理 学	准 教 授	鬼 頭 佳 彦		

呼 吸 器（ユニット3）

学士力番号 2-(2), 2-(3)

教科主任（ユニットチェア）

高 橋 浩一郎

1. 科目の概要

本ユニットでは、呼吸器系の構造と機能を理解し、呼吸器疾患の診療に対応することが可能になることを目的とする。呼吸器の主要な症状に関する医療面接、基本的な身体診察を行うためのスキル、各種検査とその解釈を学ぶ。この上で、臨床推論から診断へのプロセス、適切な治療選択、インフォームド・コンセントを身につける。また、チーム医療のリーダーとして、多職種連携や地域医療を実践するための知識を習得する。

2. 「医学教育モデル・コア・カリキュラム」および「e-テキスト」対応

Unit 3 呼吸器

「iSmart」コアカリ準拠学修機能	「e-テキスト」対応
・C-3-1) 生体と微生物 ・C-3-2) 免疫と生体防御 ・C-4-5) 炎症と創傷治癒 ・D-6呼吸器系	『新臨床内科学』（2020） 第2章 呼吸器疾患 『標準外科学』（2022） 各論第3章 胸壁および胸膜 各論第4章 気管・気管支および肺 各論第4章 縦郭および横隔膜 『標準病理学』（2023） 第12章 呼吸器 『画像診断リファレンス』（2021） 第3章 胸部

3. 講義項目および学修目標

No.	講義項目	所属	担当者	学修目標	形式	方法等	講義室
1	オリエンテーション・呼吸系の構造と防御	内科学	高橋浩一郎	気道・肺・胸郭の構造と防御機能・呼吸機能について説明することができる。	講義	対面	小講堂 3113
2	症候学：呼吸器症候学	内科学	高橋浩一郎	咳嗽，喀痰，血痰，活血，チアノーゼ，胸痛，呼吸困難，喘鳴	講義	対面	小講堂 3113
3	呼吸器系の診察	内科学	高橋浩一郎	呼吸器系の身体所見の評価，異常所見の意義について説明することができる。	講義	対面	小講堂 3113
4	呼吸器系の機能と評価	内科学	高橋浩一郎	呼吸器系の機能評価の種類，内容を説明することができる。	講義	遠隔	オンデマンド
5	血液ガス交換と酸塩基平衡	内科学	高橋浩一郎	呼吸不全の病態，酸塩基平衡を説明することができる。	講義	遠隔	オンデマンド
6	呼吸器系内視鏡検査	内科学	中島 千穂	気管支鏡検査の適応，合併症について説明することができる。	講義	遠隔	オンデマンド
7	胸部の正常画像	放射線医学	江頭 玲子	胸部X線写真，胸部CTの正常像について説明することができる。	講義	遠隔	オンデマンド
8	胸部単純X線写真各論	放射線医学	江頭 玲子	胸部X線写真の特徴と，読影する際のポイントを述べる事が出来る。	講義	遠隔	オンデマンド
9	胸部のCT・MRI各論	放射線医学	中園 貴彦	胸部CT，MRIの特徴と，代表的な異常所見について説明することができる。	講義	遠隔	オンデマンド
10	肺炎の診断と治療	内科学	小楠 真典	症状，理学所見，画像所見，検査所見より総合的に肺炎の診断，治療が適切に行える。	講義	遠隔	オンデマンド

11	抗酸菌感染症・真菌感染症	内科学	栗原 有紀	抗酸菌感染症の診断, 治療について説明することができる。	講義	遠隔	オンデマンド
12	胸水貯留をきたす疾患	内科学	小楠 真典	胸水穿刺の手技, および胸水所見からの原疾患の鑑別について説明することができる。	講義	遠隔	オンデマンド
13	免疫・アレルギーの基礎知識	分子生命科学	南里 康弘	気管支喘息の病態機序について説明することができる。	講義	対面	小講堂 3114
14	気管支喘息	内科学	田代 宏樹	成人喘息の病態, 診断, 治療について説明することができる。	講義	遠隔	オンデマンド
15	好酸球性肺疾患	内科学	小楠 真典	好酸球性肺疾患の検査, 診断, 治療に関して説明することができる。	講義	遠隔	オンデマンド
16	胸部画像診断実践	放射線医学	中園 貴彦	胸部X線写真と胸部CTの異常所見を拾い上げることができる	実習	対面	CP室
17	急性肺障害の病態と治療	内科学	田代 宏樹	急性肺障害の病態と治療について説明することができる。	講義	遠隔	オンデマンド
18	人工呼吸管理と合併症	内科学	田代 宏樹	人工呼吸の適応, 管理, 合併症について説明することができる。	講義	遠隔	オンデマンド
19	間質性肺炎	内科学	高橋浩一郎	間質性肺炎の臨床所見, 検査所見を説明することができる。	講義	遠隔	オンデマンド
20	慢性閉塞性肺疾患 (COPD)	内科学	高橋浩一郎	慢性閉塞性肺疾患の検査, 診断, 治療に関して説明することができる。	講義	遠隔	オンデマンド
21	職業性肺疾患	内科学	田代 宏樹	職業性肺疾患の診断, 治療について説明することができる。	講義	遠隔	オンデマンド
22	呼吸器リハビリテーション	内科学	田代 宏樹	慢性呼吸器疾患における呼吸リハビリテーションの意義を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
23	間質性肺炎の画像	放射線医学	江頭 玲子	間質性肺炎の画像所見について説明することができる。	講義	遠隔	オンデマンド
24	気管支拡張症・慢性下気道感染症	内科学	小楠 真典	気管支拡張症・慢性下気道感染症の症状, 画像所見, 治療について説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
25	慢性呼吸不全と在宅酸素療法	内科学	小楠 真典	在宅酸素療法の適応, 注意事項について説明することができる。	講義	遠隔	オンデマンド
26	縦隔疾患	呼吸器外科	平塚 昌文	縦隔疾患に関し手術適応・手術法に関して説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
27	肺がん (総論)	内科学	中島 千穂	肺がんの疫学、分子生物学的検査、診断、治療 (化学療法・緩和医療)、インフォームドコンセントについて、説明することができる。	講義	遠隔	オンデマンド
28	肺がん (非小細胞肺がん)	内科学	中島 千穂	非小細胞肺がんの診断・治療について説明することができる。	講義	遠隔	オンデマンド
29	肺がん (小細胞肺がん)	内科学	中島 千穂	小細胞肺がんの診断・治療について説明することができる。	講義	遠隔	オンデマンド
30	総括講義PBL①	内科学	中島 千穂	PBL①症例の解説	講義	遠隔	オンデマンド
31	呼吸器がんの放射線治療	放射線科	今泉 猛	呼吸器がんに対する放射線治療の意義を理解し、適応疾患や効果を説明することができる。	講義	遠隔	オンデマンド
32	総括講義PBL②	内科学	高橋浩一郎	PBL②症例の解説	講義	遠隔	オンデマンド
33	肺がんの外科治療	呼吸器外科	平塚 昌文	肺がんの定型的手術療法に関し、その適応・手法に関して説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
34	症例提示 肺がん外科手術	呼吸器外科	平塚 昌文	外科手術症例提示を通してその手技・手法を学ぶ。	講義	遠隔	オンデマンド
35	胸膜疾患・胸部外傷	呼吸器外科	手石方崇志	胸膜疾患に関し手術適応・手術法、胸部外傷に対する緊急処置適応に関して説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
37	PBL①		各担当者		演習	対面	
38	PBL②		各担当者		演習	対面	

39	呼吸器病理①：講義・実習	病因病態科学	木戸 伸一	炎症性肺疾患の原因と病態を説明することができる。 炎症性肺疾患の病理組織像を説明することができる。	講義 実習	対面	2階 実習室
40	呼吸器病理②：講義・実習	附属病院病理 診断科	井樋 有紗	呼吸器系腫瘍の原因と病態を説明することができる。 呼吸器系腫瘍の病理組織像を説明することができる。	講義 実習	対面	2階 実習室
41	薬理学CBLRP	薬理学	鬼頭 佳彦	薬物療法について、患者が理解できるよう、 わかりやすい言葉で説明することができる。	演習	対面	小講堂 3113

4. 評価の方法と基準

1) 評価方法

- ・筆記試験，PBL実績（予習内容、出席、積極的な討議への参加、ケースマップの完成度）による総合評価
- ・ユニットCBTは，その得点に応じて5点を上限にユニット末試験に加点する。
- ・「PhaseⅢ履修上の注意事項」に準じ、講義の2/3以上の出席、全ての実習・PBLへの出席、要求された課題レポートの提出をもってユニット末試験の受験資格とする。
- ・出席、試験、提出物その他に関する不正行為は、「佐賀大学学生の懲戒等実施細則」および「佐賀大学医学部の試験の実施等に関する取扱要項」に則って対処する。
- ・成績判定は、「佐賀大学成績判定等に関する規程第2条の2」に準ずる。

2) 評価基準

- ・最終評価は、PBL（30%）、ユニット末試験（70%）の総合判定で行う。
- ・総合判定で70%以上を合格基準とし、ユニット末試験の難易度によって調整する。
- ・再試験は、筆記試験のみで判定し、70%の正答率を合格基準とする。
- ・成績判定は、「佐賀大学成績判定等に関する規程第2条の2」に準ずる。

3) 評価結果の開示

学生からの申請があれば、ユニット末試験、PBLの採点結果について開示する。

5. 履修上の注意

予習・復習をして，関連性・連続性に注意して，統合した理解に努めること。

6. テキスト等

1. 内科学 第12版. 矢崎義雄編：朝倉書店, 2022年
2. 新呼吸器専門医テキスト改訂第2版: 南江堂, 2020年
3. レックナー呼吸器学 基礎から疾患までの包括的アプローチ: 丸善出版, 2015年
4. High-Resolution CT of the Lung, 6Th ed. 2021
5. The Lung: Radiologic-Pathologic Correlations, E. Robert Heitzman. 1984
6. 胸部のCT 第4版 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2018年
7. 胸部単純X線診断—画像の成り立ちと読影の進め方 秀潤社; 新版 2000年
8. 臨床呼吸機能検査 第8版 日本呼吸器学会肺生理専門委員会編 2016年
9. 成人肺炎診療ガイドライン2024 日本呼吸器学会成人肺炎診療ガイドライン2024作成委員会編
10. 結核診療ガイド 日本結核病学会編 2018年

11. 非結核性抗酸菌症診療マニュアル 日本結核病学会編 2015年
12. 特発性間質性肺炎診断と治療の手引き 第4版, 日本呼吸器病学会びまん性肺疾患診断・治療ガイドライン作成委員会, 2022年
13. 喘息予防・管理ガイドライン2024 日本アレルギー学会喘息ガイドライン専門部会編
14. COPD診断と治療のためのガイドライン 第6版, 日本呼吸器病学会COPDガイドライン第6版作成委員会編 2022年
15. 酸素療法ガイドライン 日本呼吸器学会 日本呼吸管理学会編 2017年
16. 肺癌診療ガイドライン2022年版 日本肺癌学会編
17. 臨床・病理 肺癌取り扱い規約 第8版 日本肺癌学会編
18. 中皮腫取り扱い規約 第1版 石綿・中皮腫研究会 日本中皮腫研究機構 日本肺癌学会編

7. ユニット3 日程表

注：講義室が記載してあるコマは対面で実施

曜 日			月	火	水	木	金	
週	コマ	日 時間	2025/5/19	2025/5/20	2025/5/21	2025/5/22	2025/5/23	
1	1	8:50～9:50				医学英語 (医学教育 坂本麻衣子) 小講堂3113	呼吸器 病理実習① (病理 木戸伸一、 加藤省一) 2 階実習室	
	2	10:00～11:00				自己学修		
	3	11:10～12:10						
	4	13:00～14:00				呼吸器系の 機能と評価 (呼内 高橋浩一郎)	オリエンテーション・ 呼吸系の構造と防御 症候学： 呼吸器症候学 呼吸器系の診察 (呼内 高橋浩一郎) 小講堂3113	
	5	14:10～15:10				血液ガス交換と 酸塩基平衡 (呼内 高橋浩一郎)		
	6	15:20～16:20				呼吸器系内視鏡検査 (呼内 中島千穂)		
週	コマ	日 時間	2025/5/26	2025/5/27	2025/5/28	2025/5/29	2025/5/30	
2	1	8:50～9:50	胸部の正常画像 (放射線 江頭玲子)	免疫・アレルギーの基礎知識 (生化学 南里康弘) 臨床小講堂3114	肺炎の診断と治療 (呼内 小楠真典)	好酸球性肺疾患 (呼内 小楠真典)	PBL① Step1 PBL学習室	
	2	10:00～11:00	胸部単純X線写真 各論 (放射線 江頭玲子)	気管支喘息 (呼内 田代宏樹)	気管支拡張症・ 慢性下気道感染症 (呼内 小楠真典)	胸水貯留をきたす 疾患 (呼内 小楠真典)		
	3	11:10～12:10	胸部のCT・MRI各論 (放射線 中園貴彦)	慢性閉塞性肺疾患 (呼内 高橋浩一郎)	抗酸菌感染症・ 真菌感染症 (呼内 栗原有紀)	職業性肺疾患 (呼内 田代宏樹)		
	4	13:00～14:00	自己学修	自己学修	薬理学CBLRP 小講堂3113	人工呼吸管理と 合併症 (呼内 田代宏樹)	自己学修 (PBLを午後に 実施する グループを除く)	
	5	14:10～15:10		間質性肺炎 (呼内 高橋浩一郎)	自己学修	間質性肺炎の画像 (放射線 江頭玲子)		
	6	15:20～16:20		急性肺障害の 病態と治療 (呼内 田代宏樹)		自己学修		
週	コマ	日 時間	2025/6/2	2025/6/3	2025/6/4	2025/6/5	2025/6/6	
3	1	8:50～9:50	自己学修	PBL① Step3 PBL学習室	肺がん(総論) (呼内 中島千穂)	胸膜疾患・胸部外傷 (呼外 手石方崇志)	PBL② Step1 PBL学習室	
	2	10:00～11:00	呼吸器リハビリテーション (呼内 田代宏樹)		肺がん (非小細胞肺がん) (呼内 中島千穂)	総括講義PBL① (呼内 中島千穂)		
	3	11:10～12:10	慢性呼吸不全と 在宅酸素療法 (呼内 小楠真典)		肺がん (小細胞肺がん) (呼内 中島千穂)	呼吸器がんの 放射線治療 (放射線 今泉猛)		
	4	13:00～14:00	自己学修	自己学修 (PBLを午後に 実施する グループを除く)	自己学修	医学英語 (医学教育 坂本麻衣子) 小講堂3113	自己学修 (PBLを午後に 実施する グループを除く)	
	5	14:10～15:10	15:00～16:00 胸部画像診断実践 (放射線 中園貴彦) CP室			自己学修		
	6	15:20～16:20	自己学修					

曜 日			月	火	水	木	金
週	コマ	日 時間	2025/6/9	2025/6/10	2025/6/11	2025/6/12	2025/6/13
4	1	8:50～9:50	縦隔疾患 (呼外 平塚昌文)	PBL② Step3 PBL学習室	総括講義PBL② (呼内 高橋浩一郎)	医学英語 (医学教育 坂本麻衣子) 小講堂3113	自己学修
	2	10:00～11:00	肺がんの外科治療 (呼外 平塚昌文)		自己学修	自己学修	
	3	11:10～12:10	症例提示 肺がん外科手術 (呼外 平塚昌文)				
	4	13:00～14:00	自己学修	自己学修 (PBLを午後に 実施する グループを除く)	U1臨床医療入門 呼吸器の診察技法 (医学教育) スキルスラボ	呼吸器 病理実習② (病理 井樋有紗、 加藤省一) 2階実習室	自己学修
	5	14:10～15:10			自己学修		
	6	15:20～16:20					
週	コマ	日 時間	2025/6/16	2025/6/17	2025/6/18	2025/6/19	2025/6/20
5	1	8:50～9:50	自己学修	自己学修	試験 臨大		
	2	10:00～11:00					
	3	11:10～12:10			U1臨床医療入門 呼吸器の診察技法 (医学教育) スキルスラボ		
	4	13:00～14:00					
	5	14:10～15:10					
	6	15:20～16:20			自己学修		

注：講義は60分授業で行います。

* 学外非常勤講師

8. リソースパーソン／担当者一覧

講 座	職 名	氏 名	連 絡 先
内 科 学	准 教 授	高 橋 浩一郎	
内 科 学	特任講師	中 島 千 穂	
内 科 学	講 師	田 代 宏 樹	
内 科 学	助 教	小 楠 真 典	
内 科 学	助 教	栗 原 有 紀	
放 射 線 科	准 教 授	中 園 貴 彦	
放 射 線 科	助 教	今 泉 猛	
放 射 線 科	助 教	江 頭 玲 子	
分 子 生 命 科 学	助 教	南 里 康 弘	
胸 部 外 科	講 師	平 塚 昌 文	
胸 部 外 科	助 教	手石方 崇 志	
病 理 学 (診 断 病 理 学)	教 授	加 藤 省 一	
薬 理 学	准 教 授	鬼 頭 佳 彦	

消 化 器（ユニット4）

学士力番号 2-(2), 2-(3)

教科主任（ユニットチェア）

能 城 浩 和

1. 科目の概要

臨床実習前過程の最終段階にあたる本課程では、講義による消化器疾患に関するさらなる医学的知識の習得に加えて、PBLによる能動的学修を通じてコミュニケーション能力、消化器疾患に関する問題抽出・解決能力を養い、科学的な探究心を身につける訓練を開始することを目的としている。よって、本ユニットでは①消化器の正常構造と機能、②消化器疾患の病態とそれに対する治療法、③消化器疾患の予防・早期診断の必要性とその方法、について理解し、消化器疾患の臨床実習過程に必要な知識と技能を習得することを目指す。

2. 「医学教育モデル・コア・カリキュラム」および「e-テキスト」対応

Unit 4 消化器

「iSmart」コアカリ準拠学修機能	「e-テキスト」対応
・D-7消化器系 ・D-14口腔系	『新臨床内科学』（2020） 第4章 消化管疾患 第5章 肝胆膵疾患 『標準外科学』（2022） 総論第8章 内視鏡外科 各論第8章 食道 各論第9章 胃および十二指腸 各論第10章 小腸および結腸 各論第11章 直腸及び肛門管

3. 講義項目および学修目標

No.	講義項目	所属	担当者	学修目標	形式	方法等	講義室
1	内科の役割	内科学	坂田 資尚	消化器内科総論	講義	遠隔	オンデマンド
2	外科の役割	外科学	真鍋 達也	消化器外科総論	講義	遠隔	オンデマンド
3	放射線科の役割	放射線医学	武下 剛	放射線検査,放射線治療	講義	遠隔	オンデマンド
4	口腔外科の役割	歯科口腔外科学	山下 佳雄	口腔機能,動物の咀嚼形式,食物の時代変化	講義	遠隔	オンデマンド
5	症候学	内科学	坂田 資尚	腹痛,便秘,下痢	講義	遠隔	オンデマンド
6	腹部診察の基本	内科学	山口 太輔	腹部の視診,聴診,打診,触診	講義	遠隔	オンデマンド
7	症候学	内科学	窪津 祥仁	肝炎,肝腫大,黄疸,腹水	講義	遠隔	オンデマンド
8	腹部画像診断 単純X線検査	放射線医学	武下 剛	放射線検査（腹部単純写真）	講義	遠隔	オンデマンド
9	腹部画像診断 造影検査	放射線医学	武下 剛	放射線検査（消化器造影検査,超音波検査）	講義	遠隔	オンデマンド
10	腹部画像検査 超音波,CT,MRI	放射線医学	江頭 秀哲	放射線検査（CT, MRI）	講義	遠隔	オンデマンド
11	消化器内視鏡検査	内科学	鶴岡ななえ	内視鏡検査の歴史,内視鏡の機序	講義	遠隔	オンデマンド
12	緊急内視鏡検査	内科学	鶴岡ななえ	消化管出血,内視鏡的止血	講義	遠隔	オンデマンド
13	下部消化管の構造と機能	外科学	平木 将紹	小腸,結腸,直腸の構造と機能	講義	遠隔	オンデマンド
14	消化器癌総論	外科学	武居 晋	食道癌,胃癌,大腸癌総論	講義	遠隔	オンデマンド

15	上部消化管の構造と機能	外科学	平木 将紹	食道, 胃, 十二指腸の構造と機能	講義	遠隔	オンデマンド
16	食道癌・胃癌 (外科)	外科学	與田 幸恵	食道癌・胃癌における外科	講義	遠隔	オンデマンド
17	消化器癌化学療法	外科学	與田 幸恵	消化器癌に対する化学療法	講義	遠隔	オンデマンド
18	症候学	外科学	與田 幸恵	上部消化管出血, 下部消化管出血	講義	遠隔	オンデマンド
19	急性腹症	外科学	江川 紀幸	急性腹症の病態, 症状, 診断, 治療	講義	遠隔	オンデマンド
20	口腔外科診察法	歯科口腔外科	山下 佳雄	頭頸部・口腔内の診察, 歯・舌・唾液腺の構造と機能	講義	遠隔	オンデマンド
21	口腔外科	歯科口腔外科	山下 佳雄	口腔内の腫瘍性疾患, 感染症, 外傷, 先天奇形	講義	遠隔	オンデマンド
22	消化器悪性腫瘍の放射線治療	放射線医学	今泉 猛	放射線治療, 消化器疾患	講義	遠隔	オンデマンド
23	栄養管理	外科学	田中 智和	消化器疾患における栄養管理の役割	講義	遠隔	オンデマンド
24	口腔外科総括	歯科口腔外科学	山下 佳雄	病院での歯科の役割, 他科との連携治療	講義	遠隔	オンデマンド
25	大腸癌 (外科)	外科学	真鍋 達也	大腸癌の診断, 治療	講義	遠隔	オンデマンド
26	直腸・肛門疾患	外科学	真鍋 達也	肛門疾患の診断, 治療	講義	遠隔	オンデマンド
27	放射線読影実習(1)	放射線医学	武下 剛	放射線検査, 腹部単純	実習	遠隔	オンデマンド
28	放射線読影実習(2)	放射線医学	武下 剛	放射線検査, 消化管造影, 超音波検査	実習	遠隔	オンデマンド
29	放射線読影実習(3)	放射線医学	江頭 秀哲	放射線検査, CT検査	実習	遠隔	オンデマンド
30	内視鏡ビデオ	光学医療診療部	下田 良	内視鏡検査, 内視鏡治療, 消化器系の構造, 消化管出血, 異物, 腫瘍性疾患, 胆道疾患	講義	遠隔	オンデマンド
31	食道癌・胃癌の診断	光学医療診療部	芥川 剛至	食道癌, 胃癌, 大腸癌 (早期癌を中心に)	講義	遠隔	オンデマンド
32	大腸癌の診断	光学医療診療部	下田 良	食道癌, 胃癌, 大腸癌 (早期癌を中心に)	講義	遠隔	オンデマンド
33	胆・膵の画像診断	放射線医学	江頭 秀哲	放射線検査, 胆道疾患, 膵疾患	講義	遠隔	オンデマンド
34	膵臓癌と膵臓の外科	外科学	井手 貴雄	膵臓の外科 (急性膵炎, 慢性膵炎, 膵嚢胞性疾患, 膵癌)	講義	遠隔	オンデマンド
35	食生活と消化器疾患	内科学	坂田 資尚	食道癌, 胃癌, 大腸癌, 炎症性腸疾患, 膵臓疾患	講義	遠隔	オンデマンド
36	上部消化管疾患	内科学	坂田 資尚	逆流性食道炎, 機能性ディスペプシア, ヘリコバクター・ピロリ感染症, 胃潰瘍	講義	遠隔	オンデマンド
37	小腸疾患	内科学	江崎 幹宏	小腸腫瘍, ポリポース, 蛋白漏出性胃腸症, 吸収障害	講義	遠隔	オンデマンド
38	消化器感染症	内科学	江崎 幹宏	ヘリコバクター・ピロリ感染症, 消化性潰瘍, 胃癌, 細菌性・ウイルス性腸炎, 寄生虫症, 過敏性腸症候群, 腸管憩室, 薬剤性腸炎	講義	遠隔	オンデマンド
39	炎症性腸疾患(1)(2)	内科学	江崎 幹宏	クローン病, 潰瘍性大腸炎	講義	遠隔	オンデマンド
40	放射線読影実習(4)	放射線医学	武下 剛	放射線検査, 消化管疾患, 胆道疾患, 膵疾患	実習	遠隔	オンデマンド
41	放射線読影実習(5)	放射線医学	中園 貴彦	放射線検査, 消化管疾患, 胆道疾患, 膵疾患	実習	遠隔	オンデマンド
42	放射線読影実習(6)	放射線医学	江頭 秀哲	放射線検査, 消化管疾患, 胆道疾患, 膵疾患	実習	遠隔	オンデマンド
43	肝臓の解剖と機能・肝癌の外科	外科学	井手 貴雄	肝臓の解剖・機能, 肝疾患 (肝癌) の外科治療	講義	遠隔	オンデマンド
44	肝の画像診断とIVR	放射線医学	江頭 秀哲	肝臓癌, IVR	講義	遠隔	オンデマンド
45	胃瘻造設術	光学医療診療部	下田 良	胃瘻の歴史, 適応, 現状, 問題点, 小児症例	講義	遠隔	オンデマンド
46	ヘルニア・腹膜炎	外科学	松藤 祥平	ヘルニアの診断・治療, 腹膜炎の病態・治療	講義	遠隔	オンデマンド
47	胆・膵の解剖と機能, 胆道の外科	外科学	井手 貴雄	胆道・膵の解剖・機能, 胆道疾患 (胆石症, 膵胆管合流異常, 胆道癌など)	講義	遠隔	オンデマンド
48	臓器移植	外科学	田中 智和	臓器移植 (肝移植, 膵腎移植)	講義	遠隔	オンデマンド
49	ウイルス性肝炎・肝硬変	肝疾患センター	磯田 広史	ウイルス性肝炎, 肝硬変, 黄疸, 腹部膨隆 (腹水を含む), 食道・胃静脈瘤	講義	遠隔	オンデマンド

50	自己免疫性・代謝性肝疾患・アルコール性・薬物性肝疾患	内科学	高橋 宏和	代謝性肝障害, 自己免疫性肝障害, アルコール性肝障害, 薬物性肝障害	講義	遠隔	オンデマンド
51	肝癌の内科的治療	内科学	桑代 卓也	腫瘍性疾患 (肝臓癌を中心に)	講義	遠隔	オンデマンド
52	肝臓の栄養療法	江口病院	江口有一郎*	肝疾患, 肝の構造と機能, 代謝性肝障害	講義	遠隔	オンデマンド
53	急性膵炎・慢性膵炎・膵のう胞	内科学	田中 賢一	急性膵炎, 慢性膵炎, 膵外分泌系の構造と膵液の作用	講義	遠隔	オンデマンド
54	腹部超音波検査	肝疾患センター	大枝 敏	超音波検査, 肝の構造と機能, ウイルス性肝炎, 肝硬変, 腫瘍性疾患 (肝臓癌を中心に)	講義	遠隔	オンデマンド
55	食生活と肝疾患	JA 広島総合病院	兵庫秀幸*	肝疾患, 代謝性肝障害	講義	対面	講義室
56	PBL①		各担当者		演習	対面	
57	PBL②		各担当者		演習	対面	
58	消化器病理①: 講義・実習	病理学	加藤 省一	消化管の腫瘍性疾患	講義 実習	対面	第2 実習室
59	消化器病理②: 講義・実習	病理学	加藤 省一	消化管の非腫瘍性疾患, 炎症性疾患	講義 実習	対面	第2 実習室
60	消化器病理③: 講義・実習	病理学	加藤 省一	肝胆膵の腫瘍性疾患, 炎症性疾患	講義 実習	対面	第2 実習室
61	薬理学CBLRP	薬理学	鬼頭 佳彦	薬物療法について、患者が理解できるよう、わかりやすい言葉で説明することができる。	演習	対面	講義室

4. 評価の方法と基準

1) 評価方法

- ・筆記試験 (MCQおよびMEQ)、講義およびPBLの出席状況により総合評価する。

2) 評価基準

- ・筆記試験の合否判定基準は60%の正答率を基本線とするが、試験の難易度によって調整する。
- ・最終的な成績判定は、筆記試験(60%)、レポート(25%)、出席状況・履修態度(15%)などの総合判定とする。

3) 評価結果の開示

- ・希望があれば、試験答案の採点結果、模擬解答などの解説を行う。質問があるものは試験結果発表後1ヶ月程度の期間内にオフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。試験問題終了後に問題の説明と解答を行う。

5. 履修上の注意

出席状況は、評価基準とするので出席すること。

6. テキスト等

指定教科書：杉本恒明、小俣政男、水野美邦、編集、内科学第10版、朝倉書店、2013年

参考教科書

内科学教科書

- 1) 永井良三、総編集、今日の診断指針 第8版、医学書院、2020年
- 2) 矢崎義雄、監修、新臨床内科学 第10版、医学書院、2020年
- 3) 矢崎義雄、小室一成、総編集 内科学 第12版 朝倉書店 2022年

外科学教科書

- 1) 北野正剛、坂井義治、監修. 標準外科学 第16版. 医学書院, 2022年
- 2) 井月康夫、古瀬 彰、杉町圭蔵編. NEW 外科学 改訂第3版 南江堂, 2012年
- 3) 武藤徹一郎、幕内雅敏、監修、新臨床外科学 第4版. 医学書院, 2006年

国立がんセンターホームページ <http://wwwinfo.ncc.go.jp>

日本対がん協会 <http://www.jcancer.jp>

Hepatology on the Web <http://www.kdcnet.ac.jp/hepatology/>

「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」班 <http://www.ibd-japan.org>

参考雑誌

- 1) 胃と腸 (雑誌, 図書館)
- 2) 日本消化器病学会雑誌 (雑誌, 図書館)
- 3) Gastroenterology (雑誌, 図書館)
- 4) Gut (雑誌, 図書館)
- 5) 肝胆膵 (雑誌, 図書館)
- 6) Hepatology (雑誌, 図書館)
- 7) Journal of Hepatology (雑誌, 図書館)
- 8) 消化器外科 (雑誌, 図書館)
- 9) 臨床外科 (雑誌, 図書館)
- 10) 外科治療 (雑誌, 図書館)
- 11) 日本外科学会雑誌 (雑誌, 図書館)
- 12) 日本消化器外科学会雑誌 (雑誌, 図書館)
- 13) 日本消化器内視鏡学会雑誌 (雑誌, 図書館)

参考図書

- 1) 中澤三郎、監訳. 胃酸関連疾患の病態と治療 医学書院, 2000年
- 2) 工藤進英、編著 Color Atlas 大腸拡大内視鏡 日本メディカルセンター 2017年
- 3) 松井敏幸、岩下明德、監修 八尾建史 著 胃拡大内視鏡 日本メディカルセンター 2009年
- 4) 日本消化器病学会 編. 炎症性腸疾患 (IBD) 診療ガイドライン2020改訂第2版 2020年
- 5) 都 温彦、香月 武編: 医学を学ぶ人の歯科口腔外科テキスト. 医学情報社, 2001年
- 6) 本田 浩、角谷真澄、吉満研吾、鎌田敏文、入江裕之 編: 「肝胆膵のCT・MRI」メディカル・サイエンス・インターナショナル 2016年
- 7) 陣崎雅弘 編: 「腹部のCT」第3版 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2017年
- 8) 吉川公彦、荒井保明 監修: 「IVRのすべて」メヂカルビュー社 2021年
- 9) 竹原 徹郎編: 別冊日本臨床 領域別症候群シリーズ No.13 肝・胆道系症候群 (第3版) I. その他の肝・胆道系疾患を含めてー 肝臓編 (上・下). 日本臨床社. 2021年
- 10) 竹原 徹郎編: 別冊日本臨床 領域別症候群シリーズ No.13 肝・胆道系症候群 (第3版) II. その他の肝・胆道系疾患を含めてー 肝外胆道編. 日本臨床社. 2021年
- 11) 八木聡明、他編. 新図説耳鼻咽喉科・頭頸部外科講座 (全5巻) メヂカルビュー社 2000年
- 12) 野村恭也、他編. CLIENT 21-21世紀耳鼻咽喉科領域の臨床ー (全21巻) 中山書店 2001年.

7. ユニット4 日程表

注：講義室が記載してあるコマは対面で実施

曜 日			月	火	水	木	金
	コマ	日 時間	2025/6/16	2025/6/17	2025/6/18	2025/6/19	2025/6/20
1	1	8:50～9:50	U3 呼吸器	U3 呼吸器	U3 呼吸器	自己学修	自己学修
	2	10:00～11:00				内科の役割 (30分) (光学 下田良) 外科の役割 (30分) (消外 真鍋達也) 放射線科の役割 (30分) (放射線 武下剛) 口腔外科の役割 (30分) (歯口外 山下佳雄)	腹部画像診断 単純X線検査 (放射線 武下剛)
	3	11:10～12:10					腹部画像診断 造影検査 (放射線 武下剛)
	4	13:00～14:00				症候学： 腹痛，便秘，下痢 (消内 山口太輔)	腹部画像検査 超音波，CT，MRI (放射線 江頭秀哲)
	5	14:10～15:10				腹部診察の基本 (消内 山口太輔)	消化器内視鏡検査 (消内 鶴岡ななえ)
	6	15:20～16:20				症候学： 肝炎，肝腫大，黄疸，腹水 (肝臓 窪津祥仁)	緊急内視鏡検査 (消内 鶴岡ななえ)
	コマ	日 時間	2025/6/23	2025/6/24	2025/6/25	2025/6/26	2025/6/27
2	1	8:50～9:50	自己学修	急性腹症 (消外 江川紀幸)	口腔外科総括 (歯口外 山下佳雄)	放射線読影実習(1) (放射線 武下剛)	自己学修
	2	10:00～11:00	下部消化管の 構造と機能 (消外 平木将紹)	口腔外科診察法 (歯口外 山下佳雄)	大腸癌(外科) (消外 真鍋達也)	放射線読影実習(2) (放射線 武下剛)	内視鏡ビデオ (光学 下田良)
	3	11:10～12:10	消化器癌総論 (消外 武居晋)	口腔外科 (歯口外 山下佳雄)	直腸・肛門疾患 (消外 真鍋達也)	放射線読影実習(3) (放射線 江頭秀哲)	食道癌・胃癌の診断 (光学 芥川剛至)
	4	13:00～14:00	食道癌・胃癌(外科) (消外 奥田幸恵)	消化器悪性腫瘍の 放射線治療 (放射線 今泉猛)	U1臨床医学入門 腹部の診察技法 (医学教育) スキルスラボ	医学英語 (医学教育 坂本麻衣子) 第3講義室	大腸癌の診断 (光学 下田良)
	5	14:10～15:10	消化器癌化学療法 (消外 奥田幸恵)	栄養管理 (消外 田中智和)		自己学修	胆・膵の画像診断 (放射線 江頭秀哲)
	6	15:20～16:20	症候学：消化管出血 (消外 奥田幸恵)	自己学修	自己学修		自己学修
	コマ	日 時間	2025/6/30	2025/7/1	2025/7/2	2025/7/3	2025/7/4
3	1	8:50～9:50	自己学修	自己学修	肝臓の解剖と機能 肝癌の外科 (消外 井手貴雄)	消化器 病理実習① (病理 加藤省一， 木戸伸一， 橋口真理子， 井樋有紗) 2階実習室	PBL① Step1 PBL学習室
	2	10:00～11:00	膵臓癌と膵臓の外科 (消外 井手貴雄)	炎症性腸疾患(1) (消内 江崎幹宏)	肝の画像診断とIVR (放射線 江頭秀哲)		
	3	11:10～12:10	食生活と消化器疾患 (消内 山口太輔)	炎症性腸疾患(2) (消内 江崎幹宏)	胃瘻造設術 (光学 下田良)		
	4	13:00～14:00	上部消化管疾患 (消内 山口太輔)	放射線読影実習(4) (放射線 武下剛)	U1臨床医学入門 腹部の診察技法 (医学教育) スキルスラボ	自己学修	自己学修 (PBLを午後に 実施する グループを除く)
	5	14:10～15:10	小腸疾患 (消内 江崎幹宏)	放射線読影実習(5) (放射線 中園貴彦)			
	6	15:20～16:20	消化器感染症 (消内 江崎幹宏)	放射線読影実習(6) (放射線 江頭秀哲)	自己学修		

曜 日			月	火	水	木	金	
週	コマ	日 時間	2025/7/7	2025/7/8	2025/7/9	2025/7/10	2025/7/11	
4	1	8:50～9:50	自己学修	PBL① Step3 PBL学習室	臓器移植 (消外 田中智和)	消化器 病理実習② (病理 加藤省一， 木戸伸一， 橋口真理子， 井樋有紗) 2階実習室	自己学修	
	2	10:00～11:00	ヘルニア・腹膜炎 (消外 松藤祥平)		ウイルス性肝炎・肝硬変 (肝臓 磯田広史)		自己免疫性・代謝性 肝疾患・アルコール性・ 薬物性肝疾患 (肝臓 高橋宏和)	
	3	11:10～12:10	胆・膵の解剖と機能 胆道の外科 (消外 井手貴雄)		自己学修		食生活と肝疾患 (兵庫秀幸*) 第3講義室	
	4	13:00～14:00	薬理学CBLRP 第3講義室	自己学修 (PBLを午後に 実施する グループを除く)	U1臨床医学入門/ 医学英語 ハワイ大学PBL デモンストレーション (福森則男) 看護学科6階	医学英語 (医学教育 坂本麻衣子) 第3講義室	自己学修	
	5	14:10～15:10	自己学修		自己学修	自己学修	自己学修	
	6	15:20～16:20						
週	コマ	日 時間	2025/7/14	2025/7/15	2025/7/16	2025/7/17	2025/7/18	
5	1	8:50～9:50	肝臓の内科的治療 (肝臓 桑代卓也)	急性膵炎・慢性 膵炎・膵のう胞 (肝臓 田中賢一)	自己学修	消化器 病理実習③ (病理 加藤省一， 木戸伸一， 橋口真理子， 井樋有紗) 2階実習室	PBL② Step1 PBL学習室	
	2	10:00～11:00	肝臓の栄養療法 (江口有一郎*)	腹部超音波検査 (肝臓 大枝敏)				
	3	11:10～12:10	自己学修	自己学修				
	4	13:00～14:00	自己学修	自己学修	自己学修	自己学修	自己学修 (PBLを午後に 実施する グループを除く)	
	5	14:10～15:10						
	6	15:20～16:20						
週	コマ	日 時間	2025/7/21	2025/7/22	2025/7/23	2025/7/24	2025/7/25	
	1	8:50～9:50	祝 日	PBL② Step3 PBL学習室	自己学修	自己学修	自己学修	試験 試験室 看護学科6階
	2	10:00～11:00						
	3	11:10～12:10						
	4	13:00～14:00		自己学修 (PBLを午後に 実施する グループを除く)	自己学修	自己学修	自己学修	
	5	14:10～15:10						
	6	15:20～16:20						

注：講義は60分授業で行います。

* 学外非常勤講師

8. リソースパーソン

講 座	職 名	氏 名	連 絡 先
内 科 (消化器内科)	教 授	江 崎 幹 宏	
光学医療診療部	副 部 長	下 田 良	
肝疾患センター	特任教授	高 橋 宏 和	
病 理 学 (診断病理学)	教 授	加 藤 省 一	
外 科 (消化器一般外科)	教 授	能 城 浩 和	
外 科 (消化器一般外科)	准 教 授	真 鍋 達 也	
口 腔 外 科	教 授	山 下 佳 雄	
放 射 線 科	講 師	江 頭 秀 哲	
薬 理 学	准 教 授	鬼 頭 佳 彦	

連絡はできるだけメールを用い、それ以外は指定の時間に限り内線に連絡のこと

代謝・内分泌・腎・泌尿器（ユニット5）

学士力番号 2-(2)、2-(3)

教科主任（ユニットチエア）

宮 園 素 明

1. 科目の概要

- (1) 糖尿病患者に対して正しい診断、合併症評価、治療ができるようになるために、問題解決力と臨床的態度、臨床的技能を身につける。
- (2) 内分泌機能についての問題をもつ患者に対して正しい診断、治療ができるようになるために、各疾患の特性を理解し、問題解決力と臨床的態度、臨床的技能を身につける。
- (3) 生体の恒常性維持に重要な腎生理の基本を理解し、腎疾患の病態生理、診断、治療を習得する。
- (4) 腎、尿路、男性生殖器の構造、機能を理解し、尿路・生殖器疾患の診断、治療を習得する。
- (5) 系統講義で学んだ基礎知識とともにCBL（Case-based Lecture：症例基盤型講義）にて問題解決力の向上を図る。

2. 「医学教育モデル・コア・カリキュラム」および「e-テキスト」対応講義・実習項目および学修目標

Unit 5 代謝・内分泌・腎・泌尿器

「iSmart」コアカリ準拠学修機能	「e-テキスト」対応
・C-2-5) 生体物質の代謝 ・C-4-3) 代謝障害 ・D-8腎・尿路系 ・D-9生殖機能（男性生殖器） ・D-12内分泌・栄養・代謝系	『新臨床内科学』（2020） 第6章 代謝栄養疾患 第7章 内分泌疾患 第9章 腎・尿路疾患、水・電解質代謝異常 『標準泌尿器科学』（2021） 『標準病理学』（2023） 第16章 腎 第17章 尿路 第18章 内分泌 第21章 男性生殖器 『画像診断リファレンス』（2021） 第7章 泌尿器

3. 講義・実習項目および学修目標

No.	講義項目	所属	担当者	学修目標	形式	方法等	講義室
1	糖代謝とホルモン	内科学	小島 基靖	糖代謝のしくみを説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
2	糖尿病の分類・成因・診断	内科学	小島 基靖	糖尿病の分類・成因・診断の概要を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
3	糖尿病の合併症	内科学	小島 基靖	糖尿病の合併症を正しく評価し説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
4	糖尿病の治療（食事療法）	内科学	山崎 孝太	食事療法の意義と目的，食事療法の実践を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
5	糖尿病の治療（運動療法）	内科学	山崎 孝太	運動療法の意義と目的，運動療法の実践を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
6	糖尿病の治療（薬物療法）	内科学	小島 基靖	経口血糖降下薬を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
7	糖尿病の治療（薬物療法）	内科学	小島 基靖	インスリン，GLP-1を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド

8	糖尿病の地域連携	嶋田病院	赤司 朋之	地域連携と多職種連携を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
9	急性合併症	内科学	小島 基靖	低血糖，糖尿病ケトアシドーシス，高血糖高浸透圧性昏睡を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
10	糖尿病の最新治療	内科学	永淵 正法		講義	遠隔	オンデマンド
11	肥満症	内科学	山崎 孝太	肥満症の病態・診断・治療を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
12	副甲状腺・骨代謝	内科学	小島 基靖	副甲状腺・骨代謝の機能と各内分泌疾患の診断に必要な検査を列挙し，説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
13	内分泌総論	内科学	小島 基靖	正常な視床下部/下垂体，甲状腺，副甲状腺，副腎，性腺の機能を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
14	視床下部・下垂体	内科学	小島 基靖	患者の症状や血液・尿検査所見，画像所見から，内分泌疾患を鑑別することができる。	講義	遠隔	オンデマンド
15	脂質異常症	内科学	山崎 孝太	脂質異常症の成因・分類・治療	講義	遠隔	オンデマンド
16	高尿酸血症・代謝異常	内科学	山崎 孝太	高尿酸血症・代謝異常の成因・分類・治療	講義	遠隔	オンデマンド
17	症候学(1)	内科学	小島 基靖	肥満・やせをきたす疾患を列挙し説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
18	症候学(2)	内科学	小島 基靖	口渇，多飲，多尿，意識障害をきたす疾患を列挙し説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
19	甲状腺	内科学	小島 基靖	甲状腺の機能と甲状腺疾患の成因・分類・治療を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
20	副腎	内科学	小島 基靖	副腎の機能，副腎疾患の成因・分類・治療を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
21	性腺・多発性内分泌腺疾患	内科学	小島 基靖	性腺の機能，性腺・多発性内分泌疾患の成因・分類・治療を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
22	内分泌性高血圧	内科学	小島 基靖	内分泌性高血圧症の病態生理，症状，検査所見，治療法を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
23	二次性糖尿病	内科学	小島 基靖	二次性糖尿病をきたす疾患を列挙し説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
24	症候学(3)	内科学	小島 基靖		講義	遠隔	オンデマンド
25	症候学(4)	内科学	小島 基靖		講義	遠隔	オンデマンド
26	腎疾患オリエンテーション	内科学	宮園 素明	履修上の注意や評価の方法，出席の取り扱いなど，重要事項を確認。 ユニットの概要を説明。 腎臓の機能について概略を説明できる。	講義	対面	講義室
27	腎臓の構造と機能	内科学	橋本 康平	腎の位置と形態・機能について概略を説明できる。 ネフロン構造と機能及び糸球体濾過機構について概略を説明できる。 尿細管の再吸収・分泌機構について概略を説明ができる。	講義	対面	講義室
28	腎疾患の主要所見と症候学	内科学	福田 誠	尿検査の方法（試験紙法と定量法）とその評価について説明できる。 腎機能検査を評価できる。 免疫学的検査を評価できる。 内分泌機能検査を評価できる。 腎生検の適応と禁忌を説明できて，得られる病理所見について概略を評価できる。 腎の画像検査（特に超音波）による所見から得られる情報の概略を評価できる。 腎の主要症候についてその出現機序と鑑別の説明ができる。	講義	対面	講義室
29	慢性腎臓病（CKD）	佐世保共済病院腎臓内科（学外講師）	池田 裕貴	慢性腎臓病の概念についてその概略を説明できる。	講義	対面	講義室
30	慢性腎不全	好生館 腎臓内科（学外講師）	松本圭一郎	慢性腎不全の病因，症候，診断，治療について説明できる。 慢性腎不全の治療（透析，移植）についてその概略を説明できる。	講義	対面	講義室

31	腎・泌尿器病理(1)	病因病態科学	青木 茂久	腎炎およびネフローゼの病理学的評価について概略を説明できる。	講義	対面	講義室
32	薬剤・重金属などによる腎障害	内科学	山崎 政虎	薬剤・重金属による腎障害について主なものを列挙し、概略説明ができる。	講義	対面	講義室
33	腎炎・ネフローゼ	内科学	吉原 万貴	原発性糸球体疾患（急性・慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、急速進行性糸球体腎炎）の症候、診断、治療、予後について概略を説明できる。	講義	対面	講義室
34	遺伝性腎疾患	内科学	平田 早恵	遺伝性腎疾患の病因、症候、診断についてその概略を説明できる。	講義	対面	講義室
35	小児腎疾患	小児科	岡 政史	腎の発生と先天性腎尿路疾患の成因について概略を理解できる。 慢性腎臓病に関係する尿路感染症や小児泌尿器科疾患の症状、検査、診断、治療について説明できる。 小児の急性腎障害の概念、病因、症候、診断についてその概略を説明できる。 小児の慢性腎臓病の概念、病因、症候、診断についてその概略を説明できる。 小児における腎機能検査を評価できる（BUN、クレアチニン、シスタチンC、クレアチニン・クリアランス、eGFRなど）。 小児の腎移植について説明できる。 学校保健法に則った腎臓検診について、説明ができる。	講義	対面	講義室
36	小児腎症候学	小児科	岡 政史	ネフローゼ症候群と急性腎炎症候群、排尿障害（夜尿症、昼間尿失禁）、小児泌尿器救急疾患（急性陰囊症、間欠性水腎症、腎盂腎炎）について説明できる。	講義	対面	講義室
37	腎疾患治療総論	好生館 腎臓内科（学外講師）	中村 恵	各種腎疾患や腎機能障害に応じた治療法について概略が説明できる。	講義	対面	講義室
38	妊娠と腎臓	内科学	宮園 素明	妊娠による腎臓の変化や、妊娠と腎疾患との関わりについて概略説明ができる。	講義	遠隔	オンデマンド
39	全身性疾患と腎障害	内科学	橋本 康平	全身性疾患（糖尿病、SLE、アミロイドーシス、膠原病類縁疾患、血管炎症候群、Goodpasture症候群、紫斑病など）と腎障害についてその病態と症候を説明できる。	講義	対面	講義室
40	腎循環障害	内科学	橋本 康平	腎循環障害（腎血管性高血圧、腎梗塞、コレステロール結晶塞栓症など）の症候、病態、診断、治療について説明できる。	講義	対面	講義室
41	急性腎不全	内科学	野中枝理子	急性腎不全の病因、症候、診断、治療について説明できる。	講義	対面	講義室
42	電解質異常/酸塩基平衡	九州中央病院 腎臓内科（学外講師）	満生 浩司	水電解質、酸・塩基平衡の調節機構について概略を理解し、その異常の大まかな評価ができる。	講義	対面	講義室
43	尿細管機能障害・間質性疾患	内科学	福田 誠	尿細管機能障害の各種病因・病態、症候を説明できる。 間質性腎疾患について概略を説明できる。	講義	対面	講義室
44	総括講義	内科学	宮園 素明	これまでの講義のまとめを行う。	講義	対面	講義室
45	泌尿器：総論・解剖	泌尿器科学	野口 満	泌尿生殖器の解剖、発生、形態、機能を説明できる。	講義	対面	講義室
46	泌尿器：症候	泌尿器科学	川崎 麻己	泌尿生殖器疾患の症候とそれに対するアプローチを説明できる。	講義	対面	講義室
47	泌尿器：検査	泌尿器科学	川崎 麻己	泌尿生殖器疾患の検査概要とその解釈について説明できる。	講義	対面	講義室
48	泌尿器科鏡視下手術	泌尿器科学	草野 脩平	・腹腔鏡手術、ロボット支援下手術、経尿道的手術などの泌尿器科鏡視下手術の方法、注意点、合併症などを理解する。	講義	対面	講義室

49	排尿障害・神経因性膀胱	泌尿器科学	東武 昇平	・排尿障害，尿失禁，前立腺肥大症について概説できる。 ・尿流動態検査を説明できる。 ・神経因性膀胱を概説できる。	講義	遠隔	オンデマンド
50	排尿管理	泌尿器科学	川崎 麻己	排尿障害に対する適切な排尿管理を理解する。	講義	対面	講義室
51	泌尿生殖器の発生と性分化疾患	泌尿器科学	野口 満	泌尿生殖器の発生を理解し，性分化疾患を概説できる	講義	対面	講義室
52	性機能障害・男性不妊・泌尿器科救急	泌尿器科学	東武 昇平	・勃起不全，射精障害，男性不妊症を概説できる。 ・泌尿器科救急疾患の診断・検査・治療の概要を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
53	腎・泌尿器系の画像診断検査法	放射線医学	山口 健	泌尿生殖器疾患の画像検査法について説明できる。	講義	対面	講義室
54	腎・泌尿器疾患の画像診断の実際	放射線医学	山口 健	泌尿生殖器疾患の画像診断について説明できる。	講義	対面	講義室
55	良性腎疾患	泌尿器科学	野口 満	良性の泌尿器腎疾患の症候，診断，治療を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
56	腎移植	泌尿器科学	野口 満	腎不全とその治療，腎移植手術の適応と概要を説明できる。	講義	対面	講義室
57	腎移植・臓器提供	北九州湯川病院 (学外講師)	吉開 俊一	移植医療での臓器提供について理解する。	講義	対面	講義室
58	前立腺癌	泌尿器科学	野口 満	前立腺癌の症候，病理所見，診断，治療を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
59	尿路変向・再建	泌尿器科学	野口 満	尿路変向術および尿路再建の適応と概要を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
60	小児泌尿器科	泌尿器科学	野口 満	小児泌尿器科疾患，先天性泌尿生殖器疾患の症候，診断，治療を概要できる。	講義	遠隔	オンデマンド
61	女性泌尿器科	泌尿器科学	東武 昇平	・女性骨盤臓器脱の病態生理・診断・検査・治療の概要を説明できる。 ・尿失禁のタイプ，症候，診断，治療を概要できる。	講義	遠隔	オンデマンド
62	尿路感染症・性行為感染症	泌尿器科学	的野多加志	・尿路の炎症（膀胱炎・前立腺炎・尿道炎）を概説できる。 ・性感染症（STD）の診断・抗菌剤の選択・予防法について説明できる。	講義	対面	講義室
63	腎・泌尿器病理(2)	病因病態科学	青木 茂久	腎，尿路系腫瘍の病理学的評価について概略を説明できる。	講義	対面	講義室
64	尿路上皮癌	泌尿器科学	柿木 寛明	膀胱癌を含む尿路上皮癌の症候，診断，治療を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
65	腎細胞癌	泌尿器科学	東武 昇平	腎細胞癌の症候，病理所見，診断，治療を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
66	精巣・陰茎腫瘍	泌尿器科学	柿木 寛明	精巣腫瘍，陰茎腫瘍の症候，診断，治療を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
67	尿路結石	泌尿器科学	柿木 寛明	尿路結石の病因，症候，診断と治療を説明できる。	講義	対面	講義室
68	副腎・後腹膜腫瘍	泌尿器科学	柿木 寛明	・副腎疾患，後腹膜腫瘍の診断・検査・治療の概要を説明できる。	講義	対面	講義室
69	腎・泌尿器疾患の放射線治療	放射線医学	今泉 猛	腎・泌尿器疾患の放射線治療の概略を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
70	代謝CBL①	内科学	小島 基靖		演習	対面	実習室
71	代謝CBL②	内科学	美奈川仁美		演習	対面	実習室
72	内分泌CBL	内科学	小島 基靖	内分泌異常に対する，臨床現場での診断，治療を習得する。	演習	対面	実習室
73	腎臓CBL①	内科学	宮園 素明 山崎 政虎	腎疾患に対して臨床に即した診断ならびに治療法を習得する。	演習	対面	実習室

74	腎臓CBL②	内科学	福田 誠	腎疾患に対して臨床に即した診断ならびに治療法を習得する。	演習	対面	実習室
75	泌尿器CBL①	泌尿器科学	東武 昇平	泌尿器科良性疾患の診断と治療を理解する。	演習	対面	実習室
76	泌尿器CBL②	泌尿器科学	柿木 寛明	泌尿器科悪性腫瘍の診断と治療を理解する。	演習	対面	実習室
77	内分泌疾患の病理学	病因病態科学	青木 茂久	内分泌疾患の病理を理解する。	講義 実習	対面	実習室
78	泌尿器病理講義・実習	病因病態科学	青木 茂久	泌尿器系腫瘍の病理を理解する。	講義 実習	対面	実習室
79	腎疾患の病理学	病因病態科学	青木 茂久	腎疾患の病理を理解する。	講義 実習	対面	実習室
80	薬理学CBLRP	薬理学	鬼頭 佳彦	薬物療法について、患者が理解できるよう、わかりやすい言葉で説明することができる。	演習	対面	講義室

4. 評価の方法と基準

1) 評価方法

1. 単位の最終認定は、ユニット末試験にCBLの評価ならびに講義の出席状況を加味した総合評価とする。
2. 再試験でもCBL評価や出席点を加味する。

2) 評価基準

- ・筆記試験の評価は、佐賀大学成績判定等に関する規程第2条の2に準ずる。
- ・筆記試験の可否判定基準は、60%の正答率を基本線とし、試験の難易度によって調整する。
- ・受験資格は、「PhaseⅢの試験に関する事項」に準ずる。
- ・筆記試験の評価は代謝・内分泌、腎臓、泌尿器の分野別評価とし、60%の正答率を満たしていない場合は、その科目の再試験を課す。

3) 評価結果の開示

- ・採点結果、成績などの解説と個別指導を希望する者は、試験結果発表後1カ月以内にオフィスアワーの時間帯に担当教員を訪ねること。

5. 履修上の注意

CBLの自己学習による予習・復習が重要である。

講義中の履修態度も評価の対象とする。

6. テキスト等

参考図書

内科学 第10版 朝倉書店	所蔵あり
糖尿病専門医研修ガイドブック改訂第9版 診断と治療社 (2023)	所蔵あり
糖尿病治療ガイド 日本糖尿病学会編 (2024)	(肝臓・糖尿病・内分泌内科研究室)
最新 内分泌検査マニュアル (第3版) 日本医事新報社(2019)	(肝臓・糖尿病・内分泌内科研究室)
病気がみえる (vol.3) 代謝・内分泌疾患第5版 メディックメディア (2019)	(肝臓・糖尿病・内分泌内科研究室)
内分泌機能検査実施マニュアル (改訂第3版) 診断と治療社 (2019)	(肝臓・糖尿病・内分泌内科研究室)
甲状腺ホルモンと関連疾患 メディカルレビュー社 (2017)	(肝臓・糖尿病・内分泌内科研究室)

内分泌代謝科専門医研修ガイドブック 日本内分泌学会編集 診断と治療社 (2018)

(肝臓・糖尿病・内分泌内科研究室)

Joslin's Diabetes mellitus 第14版

所蔵あり

病気がみえる vol.8 腎・泌尿器 医療情報科学研究所編 メディックメディア(2012)

(腎臓研究室)

専門医のための腎臓病学 第2版 医学書院 (2009)

(腎臓研究室)

Comprehensive Clinical Nephrology Fifth edition ELSEVIER

(腎臓研究室)

Campbell-Walsh Urology 第12版 ELSEVIER (2021)

(泌尿器科教室)

尿路結石症のすべて 医学書院 (2008)

(泌尿器科教室)

クッシング症候群 診療マニュアル 診断と治療社 (2010)

(泌尿器科教室)

原発性アルドステロン症 診療マニュアル 診断と治療社 (2008)

(泌尿器科教室)

イラストレイテッド泌尿器科手術 第2集 加藤 晴朗 医学書院 (2011)

所蔵あり

ベッドサイド泌尿器科学 吉田 修 第4版 南江堂 (2013)

所蔵あり

標準泌尿器科学 赤座 英之 第10版 医学書院 (2021)

所蔵あり

小児泌尿器科学 日本小児泌尿器科学会 診断と治療社 (2021)

(泌尿器科研究室)

新Urologic Surgery No 1～8 メジカルビュー社 (2010)

(泌尿器科研究室)

雑誌

日本内科学会誌

所蔵あり

日本糖尿病学会誌

所蔵あり

日本内分泌学会誌

所蔵あり

腎と透析

(腎臓研究室)

日本腎臓学会誌

所蔵あり

臨床泌尿器科

所蔵あり

泌尿器外科

(泌尿器科研究室)

web site

日本糖尿病協会

<https://www.nittokyo.or.jp/>

日本泌尿器科学会

<http://www.urol.or.jp/>

日本小児泌尿器科学会

<http://jspu.or.jp/>

日本移植学会

www.asas.or.jp/just/

日本腎臓学会

<http://www.jsn.or.jp/>

日本透析医学会

<http://www.jsdt.or.jp/>

日本糖尿病学会

<http://www.jds.or.jp/>

日本内分泌学会

<http://square.umin.ac.jp/endocrine/>

7. ユニット5 日程表

注：講義室が記載してあるコマは対面で実施

曜 日			月	火	水	木	金
週	コマ	日 時間	2025/7/28	2025/7/29	2025/7/30	2025/7/31	2025/8/1
1	1	8:50～9:50	糖代謝とホルモン (代謝 小島基靖)	糖尿病の治療 (薬物療法) (代謝 小島基靖)	急性合併症 (代謝 小島基靖)	糖尿病の最新治療 (代謝 永淵正法)	CBL：内分泌 (内分泌 小島基靖) 3階実習室
	2	10:00～11:00	糖尿病の分類・ 成因・診断 (代謝 小島基靖)	副甲状腺・骨代謝 (内分泌 小島基靖)	脂質異常症 (代謝 山崎孝太)	症候学(1) (代謝 小島基靖)	
	3	11:10～12:10	慢性合併症 (代謝 小島基靖)		高尿酸血症・ 代謝異常 (代謝 山崎孝太)	症候学(2) (代謝 小島基靖)	糖尿病の地域連携 (赤司朋之＊)
	4	13:00～14:00	糖尿病の治療 (食事療法) (代謝 山崎孝太)	内分泌総論 (内分泌 小島基靖)	薬理学CBLRP 第3講義室	肥満症 (代謝 山崎孝太)	副腎 (内分泌 小島基靖)
	5	14:10～15:10	糖尿病の治療 (運動療法) (代謝 山崎孝太)	視床下部・下垂体 (内分泌 小島基靖)	自己学修	甲状腺 (内分泌 小島基靖)	
	6	15:20～16:20	糖尿病の治療 (薬物療法) (代謝 小島基靖)				
週	コマ	日 時間	2025/9/1	2025/9/2	2025/9/3	2025/9/4	2025/9/5
2	1	8:50～9:50	内分泌性高血圧 (内分泌 小島基靖)	腎臓リエンテション (腎臓 宮園素明) 第3講義室	腎疾患の 主要所見と症候学 (腎臓 福田誠) 第3講義室	薬剤・重金属など による腎障害 (腎臓 山崎政虎) 第3講義室	自己学修 OSCE準備のため 講義室使用不可
	2	10:00～11:00	二次性糖尿病 (内分泌 小島基靖)	腎臓の構造と機能 (腎臓 橋本康平) 第3講義室		腎炎・ネフローゼ (腎臓 吉原万貴) 第3講義室	
	3	11:10～12:10	症候学(3) (小島基靖)		慢性腎臓病(CKD) (腎臓 池田裕貴) 第3講義室	遺伝性腎疾患 (腎臓 平田早恵) 第3講義室	
	4	13:00～14:00	症候学(4) (小島基靖)	自己学修	慢性腎不全 (腎臓松本圭一郎＊) 第3講義室	小児腎疾患 (小児 岡政史) 第3講義室	自己学修 OSCE準備のため 講義室使用不可
	5	14:10～15:10	CBL：代謝① (代謝 山崎孝太) 3階実習室	CBL：代謝② (代謝 小島基靖) 3階実習室	腎・泌尿器病理(1) (病理 青木茂久) 第3講義室		
	6	15:20～16:20			医学英語 (医学教育 坂本麻衣子) 第3講義室		
週	コマ	日 時間	2025/9/8	2025/9/9	2025/9/10	2025/9/11	2025/9/12
3	1	8:50～9:50	内分泌 病理実習 (病理 青木茂久) 2階実習室	妊娠と腎臓 (腎臓 宮園素明)	尿細管機能障害・ 間質性疾患 (腎臓 福田誠) 第3講義室	腎臓 病理実習 (病理 青木茂久) 2階実習室	泌尿器：総論・解剖 (泌尿器 野口満) 第3講義室
	2	10:00～11:00		全身性疾患と腎障害 (腎臓 橋本康平) 3階講義室			泌尿器：症候 (泌尿器 川崎麻己) 第3講義室
	3	11:10～12:10		腎循環障害 (腎臓 橋本康平) 3階講義室	総括講義 (腎臓 宮園素明) 第3講義室		泌尿器：検査 (泌尿器 川崎麻己) 第3講義室
	4	13:00～14:00	腎疾患治療総論 (腎臓 中村恵＊) 第3講義室	急性腎不全 (腎臓 野中枝理子) 3階講義室	自己学修	腎・泌尿器系の 画像診断検査法 (放射線 山口健) 第3講義室	自己学修
	5	14:10～15:10	CBL：腎臓① (腎臓 山崎政虎) 3階実習室	電解質異常/ 酸塩基平衡 (満生浩司＊) 第3講義室	CBL：腎臓② (腎臓 福田誠) 3階実習室		
	6	15:20～16:20					

曜 日			月	火	水	木	金
週	コマ	日 時間	2025/9/15	2025/9/16	2025/9/17	2025/9/18	2025/9/19
4	1	8:50～9:50	祝 日	腎・泌尿器病理(2) (病理 青木茂久) 第3講義室	自己学修	尿路変向・再建 (泌尿器 野口満)	尿路感染症 (泌尿器 的野多加志) 第3講義室
	2	10:00～11:00		泌尿器鏡視下手術 (泌尿器 草野脩平) 第3講義室	良性腎疾患 (泌尿器 野口満)	小児泌尿器科 (泌尿器 野口満)	尿路結石 (泌尿器 柿木寛明) 第3講義室
	3	11:10～12:10		排尿管理 (泌尿器 川崎麻己) 第3講義室	腎移植 (泌尿器 野口満) 第3講義室	女性泌尿器科 (泌尿器 東武昇平)	副腎・後腹膜腫瘍 (泌尿器 柿木寛明) 第3講義室
	4	13:00～14:00		泌尿生殖器の発生と 性分化疾患 (野口 満) 第3講義室	前立腺癌 (泌尿器 野口 満) 第3講義室	尿路上皮癌 (泌尿器 柿木寛明)	自己学修
	5	14:10～15:10		性機能障害・男性不妊 ・泌尿器科救急疾患 (泌尿器 東武昇平)	自己学修	腎細胞癌 (泌尿器 東武昇平)	
	6	15:20～16:20		排尿障害・ 神経因性膀胱 (泌尿器 東武昇平)	腎移植・臓器提供 (吉開俊一*) 第3講義室	精巣・陰茎腫瘍 (泌尿器 柿木寛明)	
週	コマ	日 時間	2025/9/22	2025/9/23	2025/9/24	2025/9/25	2025/9/26
5	1	8:50～9:50	泌尿器 病理実習 (病理 青木茂久) 2階実習室	祝 日	自己学修	自己学修	自己学修
	2	10:00～11:00			自己学修		
	3	11:10～12:10			腎・泌尿器疾患の 放射線治療 (放射線 今泉猛)		
	4	13:00～14:00			自己学修	自己学修	試験 試験室 看護学科6階
	5	14:10～15:10			CBL：泌尿器① (泌尿器 東武昇平) 第3実習室		
	6	15:20～16:20			自己学修		

注：講義は60分授業で行います。

*学外非常勤講師

8. リソースパーソン/担当者一覧

講 座	氏 名	内 線 番 号 P H S 番 号	メールアドレス
内 科 学 (代謝・内分泌)	小 島 基 靖		
内 科 学 (腎 臓)	宮 園 素 明		
泌 尿 器 科	野 口 満		
病 因 病 態 科 学	青 木 茂 久		
放 射 線 医 学	中 園 貴 彦		
薬 理 学	鬼 頭 佳 彦		

血液・腫瘍・感染症（ユニット6）

学士力番号 2-(2), 2-(3)

教科主任（ユニットチェア）

木村 晋也

1. 科目の概要

本ユニットは、「血液」「感染症」「腫瘍」の3分野から成る。ユニット6全体として、医師の職責を理解し、患者中心の医療を推進できる基盤が形成できる学習を目標とする。そして他の医療者とも協働できるよう、お互いの理解が深められるようになるために、できるだけ多くの職域の医療者（医師、看護師、統計学者、薬剤師、社会福祉士など）によって講義を行う。その結果、基礎医学、臨床医学のみならず社会医学を統合的に理解できるようになることを目的とする。また国際的な視野で医療の発展を理解し、さらに科学的な探求心を持つことができるように、最新の基礎研究や臨床研究に関しても学ぶ。以下、各分野の概要について記す。

血 液：血液・造血・リンパ・凝固系の構造と機能を理解し、主な疾患の原因、病態生理、症候、診断治療を学び、診断・治療上の問題解決能力を身につける。

感染症：頻度の高い一般感染症の臨床像と起炎菌、および抗菌薬治療について理解し、これらの知識を他のユニットで学習する臓器別各論に学習者自ら統合し、系統的理解を深める。HIVを含む性感染症の感染様式と生涯的健康被害について理解する。

腫 瘍：固形癌の薬物療法、放射線療法および緩和ケアについて学ぶ。

2. 「医学教育モデル・コア・カリキュラム」および「e-テキスト」対応

Unit 6 血液・腫瘍・感染症

「iSmart」コアカリ準拠学修機能	「e-テキスト」対応
・C-3-1) 生体と微生物 ・C-4-5) 炎症と創傷治癒 ・C-4-6) 腫瘍 ・D-1血液・造血器・リンパ系 ・D-11乳房 ・E-2感染症 ・E-3腫瘍	『新臨床内科学』（2020） 第8章 血液・造血器疾患 第11章 感染症疾患 『標準外科学』（2022） 総論第14章 腫瘍 各論第2章 乳腺 『標準病理学』（2023） 第10章 血液・造血器・リンパ節 第19章 乳腺

3. 講義・実習項目および学修目標

No.	講義項目	所属	担当者	学修目標	形式	方法等	講義室
1	血液オリエンテーション	内科学	木村 晋也	血液内科が扱う疾患全体に俯瞰	講義	遠隔	オンデマンド
2	赤血球の基礎	内科学	木村 晋也	正常赤血球造血の理解	講義	遠隔	オンデマンド
3	白血球の基礎	内科学	安藤 寿彦	造血のしくみ、白血球の種類および機能を理解する。	講義	遠隔	オンデマンド
4	急性白血病	内科学	安藤 寿彦	白血病の病態、診断、治療を学ぶ。	講義	遠隔	オンデマンド
5	MDS、骨髄増殖性疾患	内科学	安藤 寿彦	骨髄異型性症候群（MDS）、骨髄増殖性疾患の病態、診断、治療を学ぶ。	講義	遠隔	オンデマンド
6	感染症診療の基本的考え方	感染制御部	的野多加志	感染症診療に必要な臨床推論を理解する。	講義	対面	講義室

7	感染症の代表的起炎菌と抗菌薬	感染制御部	浦上 宗治	主要な病原細菌と、その感染症治療薬の組み合わせについて理解する。	講義	対面	講義室
8	微生物学的検査	微生物学・寄生虫学	宮本比呂志	感染症診断に必要な微生物学的検査の全体と個々の検査法の特徴を理解する	講義	遠隔	オンデマンド
9	血液培養・敗血症	感染制御部	岡 祐介	血液培養の有用性および敗血症について理解する。	講義	対面	講義室
10	腹腔・骨盤感染症	感染制御部	的野多加志	腹腔・骨盤腔内感染症の原因菌と治療薬選択について述べることができる。	講義	対面	講義室
11	感染症CBL①	感染制御部	的野多加志	症例を中心に感染症について理解を深める。	演習	対面	実習室
12	性感染症・HIV	感染制御部	的野多加志	急性H I V感染症の臨床像を述べる事ができる。	講義	対面	講義室
13	リンパ節造血器の病理(実習)	臨床病態病理学	加藤 省一	リンパ節などの造血器疾患の病理を学ぶ	実習	対面	実習室
14	抗菌薬の体内動態と適正使用	感染制御部	浦上 宗治	抗菌薬の体内動態を理解し、それに基づいた適正使用を学ぶ。	講義	対面	講義室
15	感染性心内膜炎	感染制御部	岡 祐介	感染性心内膜炎の診断基準、病態、代表的原因菌を述べることができる。	講義	対面	講義室
16	皮膚軟部組織感染症・咬傷	感染制御部	的野多加志	表層から深部までの皮膚軟部組織感染症の病型、原因菌を述べることができる。	講義	対面	講義室
17	貧血(1)	内科学	木村 晋也	貧血時の症状、検査などを一般的に学ぶ。	講義	遠隔	オンデマンド
18	貧血(2)	内科学	木村 晋也	鉄欠乏性貧血、悪性貧血、溶血性貧血など代表的な疾患を理解する。	講義	遠隔	オンデマンド
19	骨髄腫	内科学	板村 英和	骨髄腫の病態・鑑別・治療法を学ぶ。	講義	遠隔	講義室
20	骨髄腫・類縁疾患	内科学	板村 英和	形質細胞異常症の病態・鑑別・治療法を学ぶ。	講義	遠隔	講義室
21	血液CBL①	内科学	木村 晋也	貧血症例を中心に理解を深める。	演習	対面	実習室
22	多血症	内科学	木村 晋也	多血症の病態、診断、治療について学ぶ。	講義	遠隔	オンデマンド
23	慢性白血病	内科学	木村 晋也	慢性骨髄性白血病と慢性リンパ性白血病について理解を深める。	講義	遠隔	オンデマンド
24	外来化学療法	内科学	勝屋 弘雄	外来化学療法の適応、リスクマネジメントについて学ぶ	講義	対面	講義室
25	消化器癌薬物療法	内科学	勝屋 弘雄	消化器がん薬物療法の治療方針決定プロセスを中心に理解する	講義	遠隔	オンデマンド
26	原発不明癌	内科学	中島 千穂	原発不明癌の概念、診断、治療方針について学習する。	講義	遠隔	オンデマンド
27	血液分子標的治療	内科学	木村 晋也	血液疾患に対する分子標的治療の進歩について理解を深める。	講義	遠隔	オンデマンド
28	臨床事例紹介	感染制御部	的野多加志	事例学習を通し皮膚軟部組織感染症の基本的知識を確認し、修得する。	講義	対面	講義室
29	尿路感染症	感染制御部	的野多加志	上部・下部尿路感染症の原因菌（耐性菌を含む）と治療薬を述べる事ができる	講義	対面	講義室
30	耐性菌・院内感染症例提示	感染制御部	岡 祐介	代表的な医療関連感染症および主要な抗菌薬耐性菌を列挙することができる。	講義	対面	講義室
31	悪性リンパ腫(1)	内科学	勝屋 弘雄	悪性リンパ腫の概要、診断の手順を学ぶ。	講義	遠隔	オンデマンド
32	悪性リンパ腫(2)	内科学	勝屋 弘雄	悪性リンパ腫の診断から治療戦略を学ぶ	講義	遠隔	オンデマンド
33	血液CBL②	内科学	勝屋 弘雄	悪性リンパ腫症例を中心に、さらにリンパ腫について深く学ぶ。	演習	対面	実習室
34	乳がん(1)	外科学	馬場 耕一	乳癌診療における基本的な診断から治療までの流れを学ぶ	講義	遠隔	オンデマンド
35	乳がん(2)	外科学	馬場 耕一	乳癌診療における最新の治療法について学ぶ	講義	遠隔	オンデマンド
36	固形がん分子標的治療	内科学	中島 千穂	固形がん用いる種々の分子標的薬について勉強する。	講義	遠隔	オンデマンド

37	緩和ケア(1) 基礎編	ペインクリニック・緩和ケア科	山田 信一	緩和ケアの概念および現状と課題について学ぶ。	講義	遠隔	オンデマンド
38	緩和ケア(2) 実践編	ペインクリニック・緩和ケア科	山田 信一	がんに伴う苦痛症状に対する全人的なアプローチについて学ぶ。	講義	遠隔	オンデマンド
39	がんに関する統計の読み方	地域医療科学教育研究センター	川口 淳	がんに関する臨床試験データの読み方などを理解する。	講義	遠隔	オンデマンド
40	臨床試験の進め方	内科学	木村 晋也	いかに臨床試験を進めていくかについて学ぶ	講義	対面	オンデマンド
41	基礎研究の楽しさ	内科学	木村 晋也	基礎研究の楽しさ、やりがいを理解する。	講義	対面	オンデマンド
42	放射線治療オリエンテーション	放射線科	今泉 猛	がんに対する放射線治療の意義を理解し、適応疾患や方法を知る。	講義	遠隔	オンデマンド
43	血液疾患・乳がん等の放射線治療	放射線科	今泉 猛	各がん腫に対する放射線治療の適応、方法、効果を学ぶ。	講義	遠隔	オンデマンド
44	緩和的放射線治療	放射線科	今泉 猛	緩和的放射線治療の対象や根治的放射線治療との違いについて知る。	講義	遠隔	オンデマンド
45	血小板・凝固	医療安全管理室	吉村麻里子	凝固・線溶の仕組みを理解し、代表疾患の概略を学ぶ。	講義	遠隔	オンデマンド
46	輸血	内科学	板村 英和	輸血の基本的考え方、検査方法を習熟する。	講義	遠隔	オンデマンド
47	造血幹細胞移植	内科学	安藤 寿彦	多種存在する移植方法について詳しく学ぶ。	講義	遠隔	オンデマンド
48	感染症CBL②	感染制御部	岡 祐介	症例を中心に感染症について理解を深める。	演習	対面	実習室
49	がん治療と医療安全	医療安全管理室	吉村麻里子	がん診療における医療安全の基本と対策について学ぶ。	講義	遠隔	オンデマンド
50	臨床事例紹介・放射線治療	放射線科	大石 光寿	放射線治療による実際の治療方法を学ぶ。	講義	遠隔	オンデマンド
51	がんリハビリテーション	リハビリテーション科	浅見 豊子	がんのリハビリテーションの意義を理解し、その適応と方法を学ぶ。	講義	遠隔	オンデマンド
52	抗がん剤	薬剤部	木村早希子	がん化学療法に用いる薬剤の作用機序、副作用について学ぶ。	講義	遠隔	講義室
53	がん医療ソーシャルワーク	地域医療連携室	江口 利信	我が国の健康保険制度を理解し、がん患者へのMSWの働きについて学ぶ。	講義	遠隔	オンデマンド
54	がん看護	看護部	前田 美和	がん患者・家族の危機回避への看護を学ぶ。	講義	遠隔	オンデマンド
55	血液総括講義	内科学	勝屋 弘雄	現在の血液学の進歩と治療法の限界、今後期待できることを知る。	講義	遠隔	オンデマンド
56	腫瘍CBL	外科学	馬場 耕一	症例を中心に、乳癌について理解を深める。	演習	対面	実習室
56	薬理学CBLRP	薬理学	鬼頭 佳彦	薬物療法について、患者が理解できるよう、わかりやすい言葉で説明することができる。	演習	対面	講義室

4. 評価の方法と基準

1) 評価方法

・筆記試験

- ・筆記試験で問う知識だけでなく、講義およびCBL中の態度（議論をする技能も含む）なども評価を行う。
- ・講義の出席に関しては、特に評価はしない。その理由として、既に成人であり、医師になろうとするものの能動的な意欲、プロフェッショナルオートノミーの形成に役立つことを期待する。
- ・CBL に関しては、すべてを受講することを受験資格とする。グループでの議論を経験することが、チーム医療のトレーニングに役に立つと考える。

2) 評価基準

- ・筆記試験の評価は、佐賀大学成績判定等に関する規程第2条の2に準ずる。
- ・筆記試験の可否判定基準は、60%の正答率を基本線とし、試験の難易度によって調整する。

- ・受験資格は、「PhaseⅢの試験に関する事項」に準ずる。ただし既に記しているように、講義の欠席率によってのみ、剥奪されるものではない。

3) 評価結果の開示

- ・試験問題、解答例および配点を研究室前に掲示する。掲示期間は、試験終了後1週間とする。
- ・開示を希望する場合、事前にユニットチェアのオフィスアワー内の時間に予約し、訪問すること。
- ・論述試験の内容に関して質問は受け付けるが、その結果、点数が変化することはない。

5. 履修上の注意

- ・1分たりとも、遅刻・早退は許可しない。講義・CBL開始の定刻となれば、ドアを施錠する。卒業し、医師として、チーム医療を担う際に、遅刻が許されないことを学生時代から学ぶ必要がある。
- ・グループ学習であることを理解し、ディスカッションを協力して行うこと。
- ・講義、CBL中にスマートフォンを利用したものは、即刻退室とする。
- ・講義、CBL中に食事をしたものは、即刻退室とする（水、茶などの飲水は可）。

6. テキスト等

感染症

(単行本)

- ① レジデントのための感染症診療マニュアル 第3版 青木眞 医学書院 所蔵あり
⇒ 本テキストは臨床医になっても生涯学習テキストとして使用できるため購入を推奨する (10,800円)。
- ② Principles and Practice of Infectious Disease 8th edition, Mandell GR. Churchill Livingstone
⇒ 臨床感染症の成書である。世界中の英語圏の医学部学生は殆どがこのテキストで感染症を勉強している。ぜひ、読んでみて欲しい。
- ③ その抗菌薬はいりません 青木洋介 (編) メジカルビュー社
- ④ 発熱の診かた・考えかた・向き合いかた 青木洋介著 メジカルビュー社
- ⑤ グラトレ：グラム染色アプローチで最適な抗菌薬を選択できる！ 浦上宗治著 じほう
- ⑥ 飯塚イズムで学ぶ流れがわかる！ 感染症診療の歩きかた 的野多加志編 南山堂
- ⑦ 2週間で学ぶ臨床感染症 清田雅智、的野多加志監訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル

血液

(単行本)

内科学 第9版	杉本恒明他	朝倉書店	所蔵あり
エッセンシャル血液病学 第5版	柴田昭他	医歯薬出版	所蔵あり
標準血液病学	池田康夫他	医学書院	所蔵あり
血液疾患のとらえかた 眼でみるベッドサイドの病態生理	池田康夫	文光堂	所蔵あり
血液細胞アトラス	三輪史朗	文光堂	所蔵あり
ビジュアル臨床血液形態学	平野正美	南江堂	所蔵あり
造血管腫瘍アトラス	阿部達生	日本医事新報社	所蔵あり
血液細胞アトラス 血液細胞の実践的読み方 1, 2			
東海大学医学部付属病院臨床検査科血液検査室 編著 東海大学出版会			所蔵なし

もっと知りたい白血病治療	宮崎 仁	医学書院	所蔵あり
Wintrobe's Clinical Hematology	第10版		所蔵あり
Hematology-Basic principle and practice	Hoffmann		所蔵あり
Williams Hematology	第6版		所蔵あり
(雑誌)			
日本内科学会誌第87巻	第8号	造血幹細胞移植	所蔵あり
日本内科学会誌第88巻	第6号	貧血	所蔵あり
日本内科学会誌第89巻	第6号	血小板の臨床	所蔵あり
日本内科学会誌第90巻	第6号	悪性リンパ腫 診断と治療	所蔵あり
腫瘍			
(単行本)			
新臨床腫瘍学	臨床腫瘍学会	南光堂	所蔵あり
腫瘍内科オリエンテーション	畠 清彦編	医薬ジャーナル社	所蔵あり
抗癌剤投与の実際	古江 尚著	医薬ジャーナル社	所蔵あり
がんの分子標的治療	鶴尾 隆編	南山堂	所蔵あり
分子標的療法の基礎と臨床	鶴尾 隆編	篠原出版	所蔵あり
がん分子標的治療の最先端	戸井 雅和編	医歯薬出版	所蔵あり
癌・放射線療法2010	大西 洋編	篠原出版社	所蔵あり
放射線治療マニュアル(改訂2版)	平岡真寛編	中外医学者	所蔵あり
臨床医療ソーシャルワーク	山川哲也	誠信書房	所蔵あり
退院後のがん患者と家族の支援ガイド	日本ホスピス・在宅ケア研究会	ブリタニカ	所蔵あり
がん化学療法・バイオセラピー	看護実践ガイドライン	日本がん看護学会	所蔵あり
(雑誌)			
医学のあゆみ第222巻	第13号	「がん外来化学療法コンセプトシート」	所蔵あり
日本医師会雑誌第138巻・特別号(1)		「がん診療 update」	所蔵あり
臨床放射線第54巻	第7号	「化学放射線療法の現状と将来」	所蔵あり
画像診断第28巻	第6号	「放射線治療のための画像診断」	所蔵あり
医療福祉総合ガイドブック2009年度版	村上須賀子	医学書院	所蔵あり

7. ユニット6 日程表

注：講義室が記載してあるコマは対面で実施

曜 日			月	火	水	木	金
週	コ マ	日 時間	2025/9/29	2025/9/30	2025/10/1	2025/10/2	2025/10/3
1	1	8:50～9:50	自己学修	感染症診療の 基本的考え方 (感染 的野多加志) 第3講義室	貧血(1) (血腫 木村晋也)	血液培養・敗血症 (感染 岡 祐介) 第3講義室	腹腔・骨盤感染症 (感染 的野多加志) 第3講義室
	2	10:00～11:00	血液リエンテーション (血腫 木村晋也)	感染症の代表的 起炎菌と抗菌薬 (感染 浦上宗治) 第3講義室	貧血(2) (血腫 木村晋也)	性感染症・HIV (感染 青木洋介) 第3講義室	感染性心内膜炎 (感染 岡 祐介) 第3講義室
	3	11:10～12:10	赤血球の基礎 (血腫 木村晋也)		自己学修		
	4	13:00～14:00	白血球の基礎 (血腫 安藤寿彦)	抗菌薬の体内動態と 適正使用 (感染 浦上宗治) 第3講義室	慰霊式	医学英語 (医学教育 坂本麻衣子) 第3講義室	CBL：感染症① (感染 的野多加志) 第3講義室
	5	14:10～15:10	急性白血病 (血腫 安藤寿彦)	微生物学的検査 (微生物 宮本比呂志)		皮膚軟部組織 感染症・咬傷 (感染 青木洋介) 第3実習室	
	6	15:20～16:20	MDS, 骨髄増殖性疾患 (血腫 安藤寿彦)	自己学修			自己学修
週	コ マ	日 時間	2025/10/6	2025/10/7	2025/10/8	2025/10/9	2025/10/10
2	1	8:50～9:50	自己学修	多血症 (血腫 木村晋也)	自己学修	造血器 病理実習 (病理 加藤省一) 2階実習室	悪性リンパ腫(1) (血腫 勝屋弘雄)
	2	10:00～11:00	骨髄腫 (血腫 板村英和) 第3講義室	慢性白血病 (血腫 木村晋也)	臨床事例紹介 (感染 的野多加志) 第3講義室		悪性リンパ腫(2) (血腫 勝屋弘雄)
	3	11:10～12:10	骨髄腫・類縁疾患 (血腫 板村英和) 第3講義室	消化器癌薬物療法 (血腫 勝屋弘雄)	尿路感染症 (感染 的野多加志) 第3講義室		耐性菌・院内感染 症例提示 (感染 岡 祐介) 第1講義室
	4	13:00～14:00	CBL：血液 (血腫 木村晋也) 第2実習室	自己学修	原発不明癌 (呼内 中島千穂)	医学英語 (医学教育 坂本麻衣子) 第3講義室	自己学修
	5	14:10～15:10			血液分子標的治療 (血腫 木村晋也)	薬理学CBLRP 第3講義室	
	6	15:20～16:20	自己学修		外来化学療法 (血腫 勝屋弘雄) 第3講義室	自己学修	
週	コ マ	日 時間	2025/10/13	2025/10/14	2025/10/15	2025/10/16	2025/10/17
3	1	8:50～9:50	祝 日	乳がん(1) (消外 馬場耕一)	自己学修	放射線治療 オリエンテーション (放射線 今泉猛)	自己学修
	2	10:00～11:00		乳がん(2) (消外 馬場耕一)	緩和ケ7(1) 基礎編 (ペイン緩和 山田信一)	血液疾患・乳がん等 放射線治療 (放射線 今泉猛)	血小板・凝固 (医療安全 吉村麻里子)
	3	11:10～12:10		固形がん 分子標的治療 (呼内 中島千穂)	緩和ケ7(2) 実践編 (ペイン山田信一)	緩和的放射線治療 (放射線 今泉猛)	輸血 (血腫 板村英和)
	4	13:00～14:00		自己学修	がんに関する 統計の読み方 (教育IR 川口淳)	自己学修	医学英語試験 (医学教育 坂本麻衣子) 試験室 看護学科棟6階
	5	14:10～15:10		CBL：感染症② (感染 岡 祐介) 第3実習室	臨床試験の進め方 (血腫 木村晋也)	抗がん剤 (薬剤部 木村早希子) 第3講義室	自己学修
	6	15:20～16:20			基礎研究の楽しさ (血腫 木村晋也)	造血幹細胞移植 (血腫 安藤寿彦)	

曜 日			月	火	水	木	金
週	コマ	日 時間	2025/10/20	2025/10/21	2025/10/22	2025/10/23	2025/10/24
4	1	8:50～9:50	がん治療と医療安全 (医療安全 吉村麻里子)	がん医療ソーシャルワーク (江口利信)	自己学修	自己学修	自己学修
	2	10:00～11:00	がんリハビリテーション (リハビリ 浅見豊子)	がん看護 (看護部 前田美和)			
	3	11:10～12:10	臨床事例紹介 放射線治療 (放射線 大石光寿)	自己学修			
	4	13:00～14:00		血液総括講義 (血腫 勝屋弘雄)	自己学修	自己学修	試験 試験室 看護学科6階
	5	14:10～15:10	CBL：腫瘍 (消外 馬場耕一) 3階実習室	CBL：血液② (血腫 勝屋弘雄) 第3習室			
	6	15:20～16:20					

注：講義は60分授業で行います。

*学外非常勤講師

8. リソースパーソン／担当者一覧

講 座	氏 名	内線番号	メールアドレス
血 液 ・ 腫 瘍 内 科	木 村 晋 也		
	安 藤 寿 彦		
	勝 屋 弘 雄		
	吉 村 麻里子		
	板 村 英 和		
	佐 野 遥 菜		
呼 吸 器 内 科	中 島 千 穂	----	
一 般 ・ 消 化 器 外 科	馬 場 耕 一	----	
リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 科	浅 見 豊 子		
ペインクリニック・緩和ケア科	山 田 信 一		
感 染 制 御 部	的 野 多加志		
	浦 上 宗 治		
	岡 祐 介		
放 射 線 科	今 泉 猛		
病 因 病 態 科 学	加 藤 省 一		
	宮 本 比呂志	----	
薬 剤 部	木 村 早希子		
地域医療科学 教育研究センター	川 口 淳		
地 域 連 携 室	江 口 利 信		
看 護 部	前 田 美 和		
薬 理 学	鬼 頭 佳 彦		

皮膚・膠原（ユニット7）

学士力番号 2-(2), 2-(3)

教科主任（ユニットチェア）

杉田 和成

1. 科目の概要

（皮膚）

皮膚は身体の表面を覆う臓器であり、外的環境と内部環境とを境する重要な役割を担っている。また、発汗をつかさどる汗腺・毛髪・爪などの付属器を有し、常に種々の外的刺激に対応しており、このために生ずる病的変化、これが内部臓器におよぼす影響、また逆に内部臓器の病的変化が皮膚に及ぼす変化を理解する必要がある。また、これらの医学的知識を修得するだけでなく、安全で最適な医療の実践のための応用力を身につけるよう皮膚の変化を常に全身との関連において考える習慣を身につける。また、CBLにおける演習を通して、医学的問題に着目し、解決に取り組む積極的な姿勢や、問題解決のための情報を吟味し、論理的・批判的な思考が出来る能力を身につける。

（膠原病・リウマチ）

肺、腎をはじめとする多臓器に加えて皮膚、関節、筋などの結合組織に炎症が好発する膠原病・リウマチ性疾患について、正しく理解するために、自己免疫を中心とした病態・病因について概説し、主な疾患について病態生理、症候、診断および治療に関する基本的な事項を説明できるようにする。

2. 「医学教育モデル・コア・カリキュラム」および「e-テキスト」対応講義・実習項目および学修目標

Unit 7 皮膚・膠原

「iSmart」コアカリ準拠学修機能	「e-テキスト」対応
・C-2-5) 生体物質の代謝 ・C-4-3) 代謝障害 ・D-8腎・尿路系 ・D-9生殖機能（男性生殖器） ・D-12内分泌・栄養・代謝系	『新臨床内科学』（2020） 第6章 代謝栄養疾患 第7章 内分泌疾患 第9章 腎・尿路疾患、水・電解質代謝異常 『標準泌尿器科学』（2021） 『標準病理学』（2023） 第16章 腎 第17章 尿路 第18章 内分泌 第21章 男性生殖器 『画像診断リファレンス』（2021） 第7章 泌尿器

3. 講義項目および学修目標

No.	講義項目	所属	担当者	学修目標	形式	方法等	講義室
1	皮膚の構造と機能・発疹学	皮膚科	杉田 和成	皮膚の組織構造、角化機構、免疫防御能を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
2	乾癬と角化症	皮膚科	杉田 和成	尋常性乾癬、扁平苔癬などの病態、症候と治療を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
3	湿疹・皮膚炎、蕁麻疹	皮膚科	杉田 和成	湿疹・皮膚炎の疾患を列举し、概説できる。	講義	遠隔	オンデマンド
4	水疱症、膿疱症	皮膚科	杉田 和成	自己免疫性水疱症、膿疱症の病態を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド

5	母斑・母斑症、皮膚良性腫瘍	皮膚科	井上 卓也	母斑・母斑症の種類、皮膚良性腫瘍を列举できる。	講義	遠隔	オンデマンド
6	皮膚悪性腫瘍	皮膚科	井上 卓也	皮膚悪性リンパ腫、血管肉腫、基底細胞癌、有棘細胞癌、悪性黒色腫の病態、診断、治療法を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
7	紅斑・紅斑症、紫斑・血管炎	皮膚科	井上 卓也	多形浸出性紅斑、環状紅斑、紅皮症の病態を説明できる。血管炎の病態を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
8	膠原病・全身と皮膚	皮膚科	杉田 和成	内科疾患と関連した皮膚病変を概説できる。	講義	遠隔	オンデマンド
9	熱傷	皮膚科	西 純平	熱傷の重症度を説明できる。熱傷の治療方針を概説できる。	講義	遠隔	オンデマンド
10	CBL	皮膚科	西 純平	症例を読み解く過程を身につける。	演習	対面	臨床大講堂
11	皮膚細菌感染症	皮膚科	井上 卓也	伝染性膿痂疹、せつ、癰、毛囊炎、丹毒、ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群を列举し、概説できる。	講義	遠隔	オンデマンド
12	皮膚真菌感染症・性感染症	皮膚科	井上 卓也	皮膚真菌症・皮膚結核・梅毒の症候、病型、原因菌、合併症、治療法を概説できる。	講義	遠隔	オンデマンド
13	形成外科(1)	形成外科	上村 哲司	皮膚外科および形成（再建）外科的な手術法を理解する。	講義	遠隔	オンデマンド
14	形成外科(2)	形成外科	上村 哲司	皮膚外科および形成（再建）外科的な手術法を理解する。	講義	遠隔	オンデマンド
15	CBL	皮膚科	杉田 和成	症例を読み解く過程を身につける。	演習	対面	臨床大講堂
16	皮膚ウイルス感染症	皮膚科	西 純平	皮膚ウイルス感染症を列举し、概説できる。後天性免疫不全症候群に伴う皮膚症状を列举し、概説できる。	講義	遠隔	オンデマンド
17	薬疹	皮膚科	西 純平	薬疹・薬物障害の発生機序、症候、治療を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
18	CBL	皮膚科	井上 卓也	症例を読み解く過程を身につける。	演習	対面	臨床大講堂
19	自己免疫疾患総論	膠原病・リウマチ内科	赤星 光輝	自己免疫疾患の概念、主な疾患、主要な症状や合併症を説明できる	講義	遠隔	オンデマンド
20	免疫寛容と自己免疫	分子生命科学	三宅 靖延	免疫寛容の維持機構とその破綻による自己免疫疾患の発症を概説できる。	講義	遠隔	オンデマンド
21	炎症と炎症性疾患	分子生命科学	三宅 靖延	免疫応答が関与する炎症性疾患の発症機序と病態を記述できる。	講義	遠隔	オンデマンド
22	関節炎総論	膠原病・リウマチ内科	赤星 光輝	関節炎の病態、診断と治療について説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
23	サイトカインとその異常症	分子生命科学	吉田 裕樹	代表的なサイトカイン・ケモカインの特徴を説明できる。自己免疫疾患や炎症性疾患、免疫不全症におけるサイトカイン・サイトカインシグナルの関与を記述できる。	講義	遠隔	オンデマンド
24	免疫治療	分子生命科学	吉田 裕樹	ワクチンの作用、ワクチン効果を高める工夫について記述できる。代表的な免疫抑制剤、生物製剤の作用を記述できる。	講義	遠隔	オンデマンド
25	膠原病の検査・症候学	膠原病・リウマチ内科	竹山悠希子	膠原病の主な検査所見、自己抗体、補体などについて記述できる。抗核抗体陽性の意義について説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
26	関節リウマチ	膠原病・リウマチ内科	丸山 暁人	関節リウマチの症状、身体所見、検査、治療の概略を説明できる	講義	遠隔	オンデマンド
27	血管炎(1)	膠原病・リウマチ内科	丸山 暁人	主な血管炎の病態生理、症候、診断と治療を説明できる	講義	遠隔	オンデマンド
28	CBL	膠原病・リウマチ内科	竹山悠希子	関節炎の病態と症状や臨床所見を関連づけて説明できる。関節リウマチの治療の概略について説明できる。	演習	対面	実習室

29	皮膚疾患・膠原病の病理（実習）	附属病院病理診断科	甲斐 敬太	皮膚疾患・膠原病関連疾患の病態と組織像を説明できる	実習	対面	2階実習室
30	炎症性関節疾患	膠原病・リウマチ内科	竹山悠希子	強直性脊椎炎や乾癬性関節炎などの概略を説明できる	講義	遠隔	オンデマンド
31	SLE	膠原病・リウマチ内科	赤星 光輝	SLEの病態、臨床所見、検査所見、治療法について説明できる	講義	遠隔	オンデマンド
32	CBL	膠原病・リウマチ内科	赤星 光輝	SLEの病態と臨床所見を関連づけて説明できる。SLEの治療方針および主な治療について説明できる。	演習	対面	臨床大講堂
33	血管炎(2)	膠原病・リウマチ内科	丸山 暁人	主な血管炎の病態生理、症候、診断と治療を説明できる	講義	遠隔	オンデマンド
34	膠原病類縁疾患(1)	膠原病・リウマチ内科	堺 真梨子	混合性結合組織病、ベーチェット病について概説できる	講義	遠隔	オンデマンド
35	膠原病類縁疾患(2)	膠原病・リウマチ内科	堺 真梨子	シェーグレン症候群、成人発症スチル病について概説できる	講義	遠隔	オンデマンド
36	関節炎の手術	整形外科	長嶺 里美	関節炎の手術療法について概説できる	講義	遠隔	オンデマンド
37	強皮症・筋炎	膠原病・リウマチ内科	赤星 光輝	全身性強皮症と多発性筋炎・皮膚筋炎の病態生理、分類、症候、診断及び臓器病変を説明できる	講義	遠隔	オンデマンド
38	CBL	膠原病・リウマチ内科	丸山 暁人	血管炎の病態と臨床像を説明できる。主な多発性血管炎の疾患を列挙できる。	演習	対面	臨床大講堂

4. 評価の方法と基準

1) 評価方法

- ・ユニット前半（皮膚）と後半（膠原病）のそれぞれの最後に筆記試験を行い、総合評価を行う。
- ・前半部分、後半部分それぞれについて再試を課す。

2) 評価基準

- ・筆記試験の評価は、70%の正答率を合格基準とする。
- ・授業の出席状況は、2/3以上の講義とすべての実習に出席することを合格の条件とする。
- ・遠隔授業（オンデマンド講義視聴）では課題の提出をもって出席とみなす。

3) 評価結果の開示

学生からの申請があれば、筆記試験の採点結果について開示する。希望者は、試験結果発表後1月程度の期間内に、オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

5. 履修上の注意

正当な事由のない実習の欠席は認めない。

学生および担当教員も時間厳守で取り組み、受講時の不適切なマナーには厳重にその場で注意する。不誠実な実習態度、学力の向上を怠る姿勢に改善が見られない学生、不正行為を行なった学生は、プロフェッショナリズムが理解できていないと判断し、試験の成績に関わらず不合格とする。

6. テキスト等

- ・世界一やさしい皮膚科の教科書 病理と免疫を理解すれば臨床がもっと面白くなる！, 杉田和成、南江堂、2024
- ・Fitzpatrick's Dermatology in General Medicine, 第9版, Kang S, Amagai M, Bruckner AL, et al., 2019

- ・ あたらしい皮膚科学, 第3版, 清水 宏 (著), 中山書店, 2018
- ・ 標準皮膚科学 (第11版), 監修 岩月啓氏, 編集 照井 正ほか, 医学書院, 2020
- ・ 皮膚科学 (Minor textbook) (第11版), 大塚藤雄著, 藤本学著, 上野賢一原著, 金芳堂, 2022
- ・ 新臨床内科学 (第10版), 監修 矢崎義雄, 医学書院, 2020
- ・ Evidence Based Medicineを活かす 膠原病・リウマチ診療 第4版, 東京女子医科大学病院膠原病リウマチ痛風センター 編, 2020
- ・ Firestein & Kelley's Textbook of Rheumatology -E book, 第11版. Elsevier, 2020.
- ・ 膠原病学 (改訂6版), 塩沢俊一, 丸善株式会社出版事業部, 2015.
- ・ エッセンシャル免疫学 (第4版), Peter Parham, メディカルサイエンスインターナショナル, 2021

7. ユニット7 日程表

注：講義室が記載してあるコマは対面で実施

曜 日			月	火	水	木	金
週	コ マ	日 時間	2025/10/27	2025/10/28	2025/10/29	2025/10/30	2025/10/31
1	1	8:50～9:50	皮膚の構造と機能・発疹学 (皮膚 杉田和成)	水疱症，膿疱症 (皮膚 杉田和成)	紅斑・紅斑症， 紫斑・血管炎 (皮膚 井上卓也)	CBL：皮膚① (皮膚 西 純平) 3階実習室	形成外科(1) (形成 上村哲司)
	2	10:00～11:00	CBL：皮膚② (皮膚 杉田和成) 3階実習室	母斑・母斑症・ 皮膚良性腫瘍 (皮膚 井上卓也)	膠原病・全身と皮膚 (皮膚 杉田和成)		形成外科(2) (形成 上村哲司)
	3	11:10～12:10		皮膚悪性腫瘍 (皮膚 井上卓也)	熱傷 (皮膚 西 純平)	自己学修	自己学修
	4	13:00～14:00	乾癬と角化症 (皮膚 杉田和成)	自己学修	U1臨床医学入門 医療面接技法 (医学教育) 看護学科6階	医学英語 (医学教育 坂本麻衣子) 第3講義室	自己学修
	5	14:10～15:10	湿疹・皮膚炎， 蕁麻疹 (皮膚 杉田和成)			皮膚細菌感染症 (皮膚 井上卓也)	
	6	15:20～16:20	自己学修		自己学修	皮膚真菌感染症・ 性感染症 (皮膚 井上卓也)	
週	コ マ	日 時間	2025/11/3	2025/11/4	2025/11/5	2025/11/6	2025/11/7
2	1	8:50～9:50	祝 日	自己学修	CBL：皮膚③ (皮膚 井上卓也) 3階実習室	自己学修	自己学修
	2	10:00～11:00			自己学修		
	3	11:10～12:10					
	4	13:00～14:00		皮膚ウイルス感染症 (皮膚 西 純平)	U1臨床医学入門 医療面接演習 (医学教育) 第2実習室	自己学修	試験 (前半・皮膚) 試験室 (看護学科棟6階)
	5	14:10～15:10		薬疹 (皮膚 西 純平)			
	6	15:20～16:20		自己学修	自己学修		自己学修
週	コ マ	日 時間	2025/11/10	2025/11/11	2025/11/12	2025/11/13	2025/11/14
3	1	8:50～9:50	自己免疫疾患総論 (膠原 赤星光輝)	関節炎総論 (膠原 赤星光輝)	膠原病の検査・ 症候学 (膠原 竹山悠希子)	血管炎(1) (膠原 丸山暁人)	膠原病 病理実習 (病理 加藤省一， 木戸伸一， 橋口真理子， 井樋有紗) 2階実習室
	2	10:00～11:00	免疫寛容と自己免疫 (免疫 三宅靖延)	サトカイとその異常症 (免疫 吉田裕樹)	関節リウマチ (膠原 丸山暁人)	CBL：膠原病① (膠原 竹山悠希子) 3階実習室	
	3	11:10～12:10	炎症と炎症性疾患 (免疫 三宅靖延)	免疫治療 (免疫 吉田裕樹)	自己学修		
	4	13:00～14:00	自己学修	自己学修	U1臨床医学入門 医療面接演習 (医学教育) 第3実習室	医学英語 (医学教育 坂本麻衣子) 第3講義室	炎症性関節疾患 (膠原 竹山悠希子)
	5	14:10～15:10			自己学修	自己学修	SLE (膠原 赤星光輝)
	6	15:20～16:20					薬理学CBLRP 第3講義室

曜 日			月	火	水	木	金
週	コマ	日 時間	2025/11/17	2025/11/18	2025/11/19	2025/11/20	2025/11/21
4	1	8:50～9:50	CBL：膠原病② (膠原 赤星光輝) 3階実習室	関節炎の手術 (整形 長嶺里美)	CBL：膠原病③ (膠原 丸山暁人) 3階実習室	自己学修	自己学修
	2	10:00～11:00		強皮症・筋炎 (膠原 赤星光輝)			
	3	11:10～12:10	自己学修	自己学修	自己学修		
	4	13:00～14:00	血管炎(2) (膠原 丸山暁人)	自己学修	U1臨床医療入門 miniOSCE スキルスラボ	自己学修	試験 (後半・膠原病) 試験室 (看護学科棟6階)
	5	14:10～15:10	膠原病類縁疾患(1) (膠原 堺真梨子)				
	6	15:20～16:20	膠原病類縁疾患(2) (膠原 堺真梨子)				自己学修

注：講義は60分授業で行います。

8. リソースパーソン／担当者一覧

講 座	職 名	氏 名	内線番号	連 絡 先
皮 膚 科	教 授	杉 田 和 成		
皮 膚 科	准 教 授	井 上 卓 也		
皮 膚 科	助 教	西 純 平		
形 成 外 科	准 教 授	上 村 哲 司		
内 科 学	助 教	丸 山 暁 人		
内 科	講 師	赤 星 光 輝		
病 理 学 (診 断 病 理 学)	教 授	加 藤 省 一		
分 子 生 命 科 学	教 授	吉 田 裕 樹		
薬 理 学	准 教 授	鬼 頭 佳 彦		

運動・感覚器（ユニット 8）

学士力番号 2-(2), 2-(3)

教科主任（ユニットチエア）

杉 山 庸一郎

1. 科目の概要

- ・運動器系の正常構造と機能を理解し、主な運動器疾患の病態生理、原因、症候、診断と治療を学ぶ。
- ・リハビリテーション医学・医療の基本を学ぶ。
- ・眼・視覚系疾患の構造と機能に加え、眼・視覚系疾患の症候、病態、診断と治療を理解する。
- ・耳・鼻・咽喉・口腔・頸部の構造と機能、症候、病態、診断と治療に関する基本的な医学的知識を学ぶ。

上記の講義と自己学修により十分に理解し、獲得することが基盤となり、筆記試験で知識を確認する。また症例基盤型講義（CBL）により頻度の高い疾患の症例シナリオを用いてグループ討論を行い、知識の共有と問題解決をはかるとともにグループ内でのコミュニケーションと協働を学び、医学的探求心を育成する。

2. 「医学教育モデル・コア・カリキュラム」および「e-テキスト」対応

Unit 8 運動・感覚器

「iSmart」コアカリ準拠学修機能	「e-テキスト」対応
・D-4運動器(筋骨格)系 ・D-13眼・視覚系 ・D-14耳鼻・咽喉	『標準整形外科学』（2024） 『標準リハビリテーション医学』（2023） 『標準耳鼻咽喉科・頭頸部外科学』（2022） 『標準眼科学』（2018） 『標準病理学』（2023） 第23章 軟部組織 第24章 骨・関節 第25章 皮膚・感覚器 『画像診断リファレンス』（2021） 第2章 頭頸部 第9章 骨軟部

3. 講義項目および学修目標

No.	講義項目	所属	担当者	学修目標	形式	方法等	講義室
1	【整形外科】 CBL 1,2,3,4	整形外科	塚本 正紹 吉原 智仁 泉 政寛 伊藤恵里子	CBL	演習	対面	臨大 他
2	オリエンテーション・ 整形外科総論	整形外科	森本 忠嗣	整形外科総論を理解し、説明できる。	講義	対面	講義室
3	脊椎・脊髄疾患	整形外科	森本 忠嗣	脊椎・脊髄損傷、疾患の診断、治療とリハビリテーションを説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
4	基礎科学	整形外科	上野 雅也	骨・軟骨・関節・靱帯の構造と機能を説明できる	講義	遠隔	オンデマンド
5	整形外科診断学	整形外科	長嶺 里美	徒手検査（関節可動域検査、徒手筋力検査）と知覚検査を説明できる。筋骨格系画像診断法（X線、CT、MRI）の適応を概説できる。	講義	遠隔	オンデマンド
6	保存療法	整形外科	上野 雅也	保存療法の種類、要点を説明できる	講義	遠隔	オンデマンド

7	手術療法	整形外科	松村 陽介	手術療法の種類、要点を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
8	骨関節感染症	整形外科	吉原 智仁	骨関節の感染症と診断を治療を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
9	慢性関節疾患(1)(2)	整形外科	藤井 政徳	慢性関節疾患の病態や治療について説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
10	先天異常	整形外科	戸田 雄	先天異常の病態と所見を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
11	骨粗鬆症・骨代謝疾患	整形外科	平田 寛人	骨粗鬆症の診断と治療について説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
12	骨・軟部腫瘍	整形外科	戸田 雄	骨腫瘍と軟部腫瘍の診断と治療を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
13	肩関節疾患	整形外科	泉 政寛	肩関節の機能と解剖について説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
14	肘関節疾患	さかえまち整形外科	角田 憲治	肘関節疾患の診断と治療について説明できる。	講義	対面	講義室
15	手の外科疾患	さかえまち整形外科	角田 憲治	手の外科疾患の診断と治療について説明できる。	講義	対面	講義室
16	股関節疾患	整形外科	河野 俊介	各種股関節疾患の病態について説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
17	膝関節疾患	整形外科	松村 陽介	膝関節疾患の診断と治療について説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
18	足の外科疾患	整形外科	坂井 達弥	足の外科疾患の診断と治療について説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
19	軟部組織損傷	整形外科	大場 陽介	軟部組織損傷の診断と治療について説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
20	骨折・脱臼	整形外科	大場 陽介	骨折の分類（単純と複雑）、症候、診断、治療と合併症を説明できる。関節の脱臼、亜脱臼、捻挫、靱帯損傷の定義、重症度分類、診断と治療を説明できる	講義	遠隔	オンデマンド
21	末梢神経損傷	整形外科	伊藤恵里子	末梢神経損傷の診断と治療を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
22	スポーツ外傷・障害(1)(2)	百武整形外科	西古 亭太	スポーツ外傷・障害について種類や要点を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
23	症候学	整形外科	塚本 正嗣	腰背部痛・運動麻痺・筋力低下	講義	遠隔	オンデマンド
24	症候学	整形外科	坂井 達弥	四肢関節痛・腫脹・動揺	講義	遠隔	オンデマンド
25	リハビリテーション医療の基礎	リハビリ	浅見 豊子	リハビリテーションの概念と適応を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
26	運動器リハビリテーション医療の実践	リハビリ	浅見 豊子	運動器リハビリテーション医療の実践を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
27	義肢・装具・福祉機器など	リハビリ	浅見 豊子	義肢・装具・福祉機器の概要を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
28	理学療法の実践	リハビリ	竹井 健夫	整形外科疾患のリハビリテーション医療における理学療法士の役割を理解し、説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
29	作業療法の実践	リハビリ	田口 雅也	整形外科疾患のリハビリテーション医療における作業療法士の役割を理解し、説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
30	【眼科】 CBL眼科①、②、③、④	眼科	坂井 博明 永浜 秀規 黒木 洋平 山下 翔太	眼科領域で頻度の高い疾患の症例シナリオを用いてグループ討論を行い、知識の共有と問題解決をはかる。(CBL)	演習 講義	対面	臨大 他
31	眼科学症候論(1)(2)	眼科	江内田 寛 坂井 博明 永浜 秀規 黒木 洋平	視力障害、飛蚊症、視野異常、眼球運動障害、眼脂・眼の充血、眼痛などの症候について理解し説明できる。(めまい、頭痛、悪心・嘔吐については他診療科の症候論を参照のこと)	講義	遠隔	オンデマンド
32	眼球と付属器の構造と機能(1)(2)	眼科	江内田 寛	眼球と付属器の構造と発生、視覚情報の受容の仕組みと伝導路、眼球運動の仕組みや対光反射などの基本的機能を理解する。	講義	遠隔	オンデマンド
33	眼科検査方法	眼科	黒木 洋平	眼・視覚系で行う検査方法についてその意義と基本的事項を理解し説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
34	屈折異常(近視・遠視・乱視)と調節障害	眼科	山下 翔太	視覚の評価のしくみ、屈折異常（近視、遠視、乱視）や調節障害の病態を通じ視機能異常を理解し説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
35	水晶体の疾患（眼組織の異常）	美川眼科医院	西村 知久 (臨床教授)	白内障および水晶体関連疾患の成因、症候、診断と治療を理解し説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド

36	涙道の手術	美川眼科医院	西村 知久 (臨床教授)	付属器に生じた鼻涙管閉塞症に対する診断と治療を理解し説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
37	レーザーを用いた先進的な眼科手術	谷口眼科婦人科	谷口 亮 (非常勤講師)	エキシマレーザーを用いた屈折矯正手術やフェムトセカンドレーザーを用いた白内障手術など眼科領域のあたらしい手術（自由診療・先進医療）理解し説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
38	眼腫瘍と眼付属器の疾患（涙器、眼瞼、眼窩、眼形成）の疾患(1)(2)	九州大学	田邊 美香 (非常勤講師)	網膜芽細胞腫を含む眼科領域に関する腫瘍や眼瞼・眼窩などの眼付属器に生じる疾患の診断と治療を理解し説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
39	緑内障（眼組織の異常）	眼科	石川慎一郎	緑内障の成因を列挙し、それらの発症機序、症候および診断、治療を理解し説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
40	網膜・硝子体の疾患(1)(2)(3)	眼科	江内田 寛	糖尿病網膜症、裂孔原性網膜剥離、網膜動脈閉および静脈閉塞症や加齢黄斑変性など代表的な網膜・硝子体疾患の発症機序、診断と治療を学ぶ。さらに高血圧、動脈硬化を含む代表的な眼底変化所見を理解し説明できる。（眼科領域の特異的な治療法：レーザー治療を含む）	講義	遠隔	オンデマンド
41	遺伝性網膜疾患と遺伝子治療	宮崎大学	池田 康博 (非常勤講師)	網膜色素変性などの遺伝性網膜疾患の原因、診断、治療を理解し、高度先進医療を理解し説明できる。	講義	対面	看護学科第1講義室
42	角膜、強膜、結膜の疾患(眼表面の異常) (1)(2)	眼科	永浜 秀規	角膜、結膜、および強膜に生じる代表的疾患の発症機序、診断と治療を理解し説明できる。（化学損傷を除く）	講義	遠隔	オンデマンド
43	ぶどう膜の疾患（ぶどう膜の異常）(1)(2)	九州大学	園田 康平 (非常勤講師)	代表的なぶどう膜炎の病因、症候、診断と治療を理解し説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
44	視神経疾患(1)(2)	眼科	坂井 博明	対光反射 や眼球運動のしくみや視神経をはじめとする眼科領域の神経疾患の発症機序、診断と治療を理解し説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
45	斜視・弱視（両眼視機能等）	眼科	永浜 秀規	斜視・弱視の分類とそれらの発症機序、診断と治療を理解し説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
46	眼外傷	眼科	石川慎一郎	一般的な眼外傷の診断と緊急の対応を含む治療を理解し説明できる。（アルカリ、酸による化学損傷を含む。）	講義	遠隔	オンデマンド
47	臨床研究の立案と実践	眼科・臨床研究センター	吉田 倫子	佐賀大学で行われている研究の実例などを通じて臨床研究の仕組みや方法を学ぶ。	講義	対面	講義室
48	【耳鼻咽喉科】 CBL耳鼻科①, ②, ③, ④	耳鼻咽喉科	杉山庸一郎 峯崎 晃充 嶋崎絵里子 佐藤 有記	耳鼻咽喉科・頭頸部領域で頻度の高い疾患の症例シナリオを用いてグループ討論を行い、知識の共有と問題解決をはかるとともに、プロフェッショナルリズムを獲得する。	演習 講義	対面	臨大 他
49	鼻副鼻腔の構造と機能・症候学	耳鼻咽喉科	田中 成幸	鼻腔の主要な構造を図示できる。	講義	遠隔	オンデマンド
50	鼻出血・顔面外傷	耳鼻咽喉科	田中 成幸	鼻出血、顔面外傷の症候と診断、治療を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
51	鼻副鼻腔炎・嚢胞・腫瘍	耳鼻咽喉科	佐藤 有記	副鼻腔炎、副鼻腔嚢胞の病態と治療を説明できる。鼻副鼻腔の悪性腫瘍を概説できる。	講義	遠隔	オンデマンド
52	嗅覚・アレルギー性鼻炎(1)(2)	耳鼻咽喉科	佐藤 有記	アレルギー性鼻炎・嗅覚障害の診断と治療を説明できる。嗅神経の分布について説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
53	顔面神経麻痺	耳鼻咽喉科	川崎佳奈子	顔面神経麻痺をきたす疾患を列挙し、病態を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
54	耳の構造と機能	耳鼻咽喉科	首藤 洋行	外耳・中耳・内耳の主要な構造を図示できる。聴覚機構（伝音機構、感音機構）、末梢前庭器官、前庭反射について説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
55	聴力検査	耳鼻咽喉科	首藤 洋行	聴力検査を説明でき、伝音難聴と感音難聴、内耳性難聴と中枢性難聴を鑑別できる。	講義	遠隔	オンデマンド
56	症候学（難聴・耳鳴）	耳鼻咽喉科	首藤 洋行	難聴・耳鳴・耳痛・耳漏などの症候と原因について概説できる。	講義	遠隔	オンデマンド

57	急性中耳炎・滲出性中耳炎	耳鼻咽喉科	嶋崎絵里子	急性および滲出性中耳炎の病態、診断と治療を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
58	慢性中耳炎・真珠腫性中耳炎	耳鼻咽喉科	嶋崎絵里子	慢性および真珠腫性中耳炎の病態、診断と治療を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
59	その他の中耳疾患・外耳疾患	耳鼻咽喉科	嶋崎絵里子	その他の中耳・外耳疾患をきたす疾患の病態を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
60	感音性（内耳性・後迷路性・中枢性）難聴	耳鼻咽喉科	首藤 洋行	内耳性難聴をきたす疾患を列挙し、病態を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
61	先天性難聴・人工内耳・補聴器	耳鼻咽喉科	嶋崎絵里子	先天性難聴の原因と病態および人工内耳と補聴器の適応について説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
62	眼振・平衡機能検査	耳鼻咽喉科	川崎佳奈子	平衡機能検査を説明でき、末梢性めまいと中枢性めまいを鑑別できる。	講義	遠隔	オンデマンド
63	口腔咽頭の構造・味覚・免疫	耳鼻咽喉科	石田 知也	口腔咽頭の主要な構造を図示できる。咽頭の粘膜免疫機構について説明できる。味覚機構と神経支配、味覚障害について概説できる。	講義	遠隔	オンデマンド
64	症候学 口腔良性疾患	耳鼻咽喉科	石田 知也	口腔咽頭の症候について概説できる。口腔疾患の病態と診断および治療を説明できる。口腔炎症性疾患、口腔良性腫瘍を概説できる。	講義	遠隔	オンデマンド
65	咽頭良性疾患	耳鼻咽喉科	石田 知也	咽頭疾患の病態と診断および治療を説明できる。咽頭炎症性疾患、咽頭良性腫瘍を概説できる。	講義	遠隔	オンデマンド
66	喉頭の構造・発声機構	耳鼻咽喉科	杉山庸一郎	喉頭の構造と発声（音声と構音）機構を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
67	症候学・発声障害・反回神経麻痺	耳鼻咽喉科	杉山庸一郎	喉頭の症候（嚔声など）について概説できる。発声障害および反回神経麻痺をきたす疾患を列挙し、その病態を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
68	頭頸部癌概論・口腔癌・上咽頭癌・中咽頭癌	耳鼻咽喉科	峯崎 晃充	頭頸部癌の特徴を概説できる。口腔癌、上咽頭癌、中咽頭癌について病態と診断、治療について説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
69	唾液腺疾患・腫瘍	耳鼻咽喉科	峯崎 晃充	唾液腺疾患を列挙でき、その病態と診断について説明できる。唾液腺腫瘍（良性・悪性）を概説できる。	講義	遠隔	オンデマンド
70	症候学・めまい(1)(2)	耳鼻咽喉科	川崎佳奈子	末梢性・中枢性めまいの原因と病態および患者の診断の要点を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
71	甲状腺腫瘍・頸部腫瘍	耳鼻咽喉科	峯崎 晃充	甲状腺腫瘍（良性・悪性）および頸部腫瘍を概説できる。	講義	遠隔	オンデマンド
72	下咽頭・喉頭腫瘍	耳鼻咽喉科	峯崎 晃充	下咽頭、喉頭の良性腫瘍および悪性腫瘍を概説できる。	講義	遠隔	オンデマンド
73	頸部リンパ節腫大・頸部膿瘍	耳鼻咽喉科	石田 知也	頸部リンパ節腫大をきたす疾患を列挙し、病態を説明できる。頸部膿瘍の病態と治療について概説できる。	講義	遠隔	オンデマンド
74	喉頭外傷・気管切開・異物	耳鼻咽喉科	杉山庸一郎	喉頭外傷の症候と診断を説明できる。咽頭・気管・食道の代表的な異物を列挙できる。気管切開の適応を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
75	嚥下の仕組みと嚥下機能評価	耳鼻咽喉科	杉山庸一郎	嚥下の仕組みと嚥下機能評価法について概説できる。嚥下困難・障害の原因と病態および診断の要点を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
76	嚥下障害	耳鼻咽喉科	杉山庸一郎	嚥下困難・障害の原因と病態および診断の要点を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
77	薬理学CBLRP	薬理学	鬼頭 佳彦	薬物療法について、患者が理解できるよう、わかりやすい言葉で説明することができる。	演習	対面	講義室

4. 評価の方法と基準

1) 評価方法

- ・筆記試験, CBL, 出席状況による総合評価
- ・ユニットCBTは、その得点に応じて10点を上限にユニット末試験のMCQに加点する。

2) 評価基準

- ・筆記試験の受験資格はP22で規定された条件（対面の場合は2/3以上とすべてのCBLへの出席）を満たすことが条件となる。
- ・筆記試験の本試験は整形・耳鼻咽喉科・眼科3科目を併せて行い、それぞれの科目で70%以上を合格の基準とする。
- ・不合格者については合格点に達しなかった科目については、それぞれの科目で再試験を実施する。再試験は同一会場で行い、再試験科目数に応じて試験時間を設定する。
- ・成績の最終的な評価は出席、筆記試験やCBLを含む総合評価とし、成績判定は佐賀大学成績判定等に関する規定第2条の2に準じて行う。

3) 評価結果の開示

学生からの申請があれば、筆記試験の採点結果について開示する。希望者は、試験結果発表後1週間程度の期間内に学生課に申し出ること。

試験内容に関して各診療科に相談がある場合は、まずは各診療科の連絡窓口の教員に連絡をとること。各診療科の連絡窓口の教員はリソースパーソンの表に◎で示す。

5. 履修上の注意

講義など出席状況は、厳しく評価するので、必ず出席すること。

6. テキスト等

※ 図書館で利用できる国内医学雑誌

整形外科：日本整形外科学会誌, 臨床整形外科, 整形外科, 整形外科と災害外科, 整形・災害外科

リハビリ：リハビリテーション医学, 理学療法ジャーナル, 作業療法ジャーナル

眼科：日本眼科学会雑誌, 臨床眼科, 眼科臨床紀要, あたらしい眼科

耳鼻咽喉科：（耳鼻咽喉科図書室）：JOHNS, ENTONI（いずれも日本語総説誌）

※ 参考図書

整形外科

標準整形外科学 第15版（井樋栄二/津村弘監修） 医学書院 2023

神中整形外科学 第23版（岩本幸英編） 南山堂 2013

悪性骨腫瘍取り扱い規約 第4版（日本整形外科学会・日本病理学会編集） 金原出版 2015

軟部腫瘍診療ガイドライン 2020（日本整形外科学会監修） 南山堂 2020

TEXT 整形外科 第5版（大島精司ほか編） 南山堂 2019

今日の整形外科治療指針 第8版（土屋弘行ほか編） 医学書院 2021

リハビリ

入門リハビリテーション医学第3版（中村隆一監修） 医歯薬出版 2007

標準リハビリテーション医学（上田敏/伊藤利之監修） 医学書院 2023

リハビリテーション技術全書（服部一郎、細川忠義、和才嘉昭） 医学書院 1984
理学診療マニュアル（日本整形外科学会、日本理学診療医学会監修） 全日本病院出版会 2000
義肢装具学第4版（川村次郎、竹内孝仁編集） 医学書院 2009

眼科

iSmart電子書籍 医学書院では、
現代の眼科学 改訂第13版（所敬監修），金原出版，2018
TEXT 眼科学 第3版（坪田一男ほか編集），南山堂，2012年
眼科診療学ABC（下村嘉一ほか編集）、メジカルビュー，2009年
病気がみえる 眼科，メディックメディア
など。

耳鼻咽喉科

新耳鼻咽喉科学 改訂12版（野村恭也編版）南山堂 2022
耳鼻咽喉科疾患ビジュアルブック第2版（落合慈之監修・中尾一成編） 学研メディカル秀潤社 2018
イラスト耳鼻咽喉科 第4版（森満保編） 文光堂 2012
鼻アレルギー診療ガイドライン 2020年版 ライフサイエンス社 2020
あたらしい耳鼻咽喉科・頭頸部外科学（香取幸夫、日高浩史編集） 中山書店 2020
病気がみえる 耳鼻咽喉科 メディックメディア 2020
iSmart電子書籍 医学書院

7. ユニット8 日程表

注：講義室が記載してあるコマは対面で実施

曜 日			月	火	水	木	金
週	コマ	日 時間	2025/11/24	2025/11/25	2025/11/26	2025/11/27	2025/11/28
1	1	8:50～9:50	祝 日	オリエンテーション 整形外科総論 (整形 森本忠嗣) 第3講義室	骨関節感染症 (整形 吉原智仁)	CBL：整形外科① (整形 伊藤 恵里子) 第3実習室	CBL：整形外科② (整形 泉 政寛) 第3実習室
	2	10:00～11:00		脊椎・脊髄疾患 (整形 森本忠嗣)	慢性関節疾患(1) (整形 藤井政徳)		
	3	11:10～12:10		基礎科学 (整形 上野雅也)	慢性関節疾患(2) (整形 藤井政徳)	手の外科疾患 (角田憲治*) 第3講義室	自己学習
	4	13:00～14:00		整形外科診断学 (整形 長嶺里美)	先天異常 (整形 戸田雄)	医学英語 (医学教育 坂本麻衣子) 第3講義室	U1臨床医学入門 四肢・脊柱の 診察技法 (医学教育) スキルスラボ
	5	14:10～15:10		保存療法 (整形 上野雅也)	骨粗鬆症・ 骨代謝疾患 (整形 平田寛人)	肩関節疾患 (整形 泉政寛)	
	6	15:20～16:20		手術療法 (整形 松村陽介)	骨・軟部腫瘍 (整形 戸田雄)	股関節疾患 (整形 河野俊介)	自己学習
週	コマ	日 時間	2025/12/1	2025/12/2	2025/12/3	2025/12/4	2025/12/5
2	1	8:50～9:50	膝関節疾患 (整形 松村陽介)	CBL：整形外科③ (整形 塚本正紹) 第3実習室	症候学：腰背部痛, 運動麻痺・筋力低下 (整形 塚本正紹)	CBL：整形外科④ (整形 吉原智仁) 第2実習室	リハビリテーション/医療の基礎 (リハビリ 浅見豊子)
	2	10:00～11:00	足の外科疾患 (整形 坂井達弥)		症候学：関節痛・ 関節腫脹 (整形 坂井達弥)		運動器リハビリテーション 医療の実際 (リハビリ 浅見豊子)
	3	11:10～12:10	軟部組織損傷 (整形 大場陽介)	スポーツ外傷・ 障害(1) (西古亨太*)	医学英語 (医学教育 坂本麻衣子) 第3講義室	肘関節疾患 (角田憲治*) 第3講義室	義肢・装具・ 福祉機器など (リハビリ 浅見豊子)
	4	13:00～14:00	骨折・脱臼 (整形 大場陽介)	スポーツ外傷・ 障害(2) (西古亨太*)	U1臨床医学入門 四肢・脊柱の 診察技法 (医学教育) スキルスラボ	自己学習	理学療法の実際 (リハビリ 竹井健夫)
	5	14:10～15:10	末梢神経損傷 (整形 伊藤恵里子)	薬理学CBLRP 第3講義室			作業療法の実際 (リハビリ 田口雅也)
	6	15:20～16:20	自己学習	自己学習	自己学習		自己学習
週	コマ	日 時間	2025/12/8	2025/12/9	2025/12/10	2025/12/11	2025/12/12
3	1	8:50～9:50	眼球と付属器の 構造と機能(1) (眼 江内田寛)	遺伝性網膜疾患と 遺伝子治療 (池田康博*) 第3講義室	自己学習	ぶどう膜の疾患(1) (園田康平*)	眼外傷 (眼 石川慎一郎)
	2	10:00～11:00	眼球と付属器の 構造と機能(2) (眼 江内田寛)	屈折異常(近視・遠視 ・乱視)と調節障害 (眼 山下翔太)	眼腫瘍と眼付属器(涙器, 眼瞼, 眼窩)の疾患(1) (田邊美香*) 第3講義室	ぶどう膜の疾患(2) (園田康平*)	斜視・弱視 (両眼視機能等) (永浜秀規)
	3	11:10～12:10	眼科検査方法 (眼 黒木洋平)	自己学習	眼腫瘍と眼付属器(涙器, 眼瞼, 眼窩)の疾患(2) (田邊美香*) 第3講義室	自己学習	自己学習
	4	13:00～14:00	自己学習	自己学習	U1臨床医学入門 頭頸部の診察技法 (医学教育) スキルスラボ	網膜・硝子体の 疾患(1) (眼 江内田寛)	視神経疾患(1) (眼 坂井博明)
	5	14:10～15:10	眼科症候論(1) (眼 江内田寛他)	角膜, 強膜, 結膜の 疾患(眼表面の異常)(1) (眼 永浜秀規) (眼 江内田寛)		網膜・硝子体の 疾患(2) (眼 江内田寛)	視神経疾患(2) (眼 坂井博明)
	6	15:20～16:20	眼科症候論(2) (眼 江内田寛他)	角膜, 強膜, 結膜の 疾患(眼表面の異常)(2) (眼 永浜秀規) (眼 江内田寛)	自己学習	網膜・硝子体の 疾患(3) (眼 江内田寛)	自己学習

曜 日			月	火	水	木	金
週	コマ	日 時間	2025/12/15	2025/12/16	2025/12/17	2025/12/18	2025/12/19
4	1	8:50～9:50	緑内障 (眼 石川慎一郎)	CBL：眼科① (眼 山下翔太) 第2実習室	自己学習	CBL：眼科③ (眼 黒木洋平) 第2実習室	口腔咽頭の構造 ・味覚・免疫 (耳鼻 石田知也)
	2	10:00～11:00	臨床研究の立案と実践 (臨床研究セ・眼 吉田倫子) 第3講義室				症候学： 口腔良性疾患 (耳鼻 石田知也)
	3	11:10～12:10	水晶体の疾患 (西村知久＊)	レーザを用いた 先進的な眼科手術 (谷口亮＊)		涙道の手術 (西村知久＊)	自己学習
	4	13:00～14:00	自己学習	自己学習	U1臨床医学入門 頭頸部の診察技法 (医学教育) スキルスラボ	医学英語 (医学教育 坂本麻衣子) 第3講義室	咽頭良性疾患 (耳鼻 石田知也)
	5	14:10～15:10	自己学習	CBL：眼科② (眼 坂井博明) 第2実習室	自己学習	CBL：眼科④ (眼 永浜 秀規) 第2実習室	頸部リンパ節腫大・ 頸部膿瘍 (耳鼻 石田知也)
	6	15:20～16:20	自己学習				喉頭の構造・ 発声機構 (耳鼻 杉山庸一郎)
週	コマ	日 時間	2025/12/22	2025/12/23	2025/12/24	2025/12/25	2025/12/26
5	1	8:50～9:50	症候学：発声障害、 反回神経麻痺 (耳鼻 杉山庸一郎)	甲状腺腫瘍・ 頸部腫瘍 (耳鼻 峯崎晃充)	聴力検査 (耳鼻 首藤洋行)	冬季休業	冬季休業
	2	10:00～11:00	嚥下の仕組みと 嚥下機能評価 (耳鼻 杉山庸一郎)	唾液腺疾患・腫瘍 (耳鼻 峯崎晃充)	症候学： 難聴・耳鳴 (耳鼻 首藤洋行)		
	3	11:10～12:10	嚥下障害 (耳鼻 杉山庸一郎)	自己学習	感音性(内耳性・ 後迷路性・中枢性) 難聴 (耳鼻 首藤洋行)		
	4	13:00～14:00	喉頭外傷・気管切開 ・異物 (耳鼻 杉山庸一郎)	耳の構造と機能 (耳鼻 首藤洋行)	自己学習		
	5	14:10～15:10	頭頸部癌概論・ 口腔癌・上中咽頭癌 (耳鼻 峯崎晃充)	CBL：耳鼻科① (耳鼻 杉山庸一郎) 第3実習室			
	6	15:20～16:20	下咽頭・喉頭腫瘍 (耳鼻 峯崎晃充)				
週	コマ	日 時間	2026/1/5	2026/1/6	2026/1/7	2026/1/8	2026/1/9
6	1	8:50～9:50	急性・滲出性中耳炎 (耳鼻 嶋崎絵里子)	めまい(2) (耳鼻 川崎佳奈子)	CBL：耳鼻科② (耳鼻 峯崎晃充) 第3実習室	自己学習	試験 試験室 (看護学科6階)
	2	10:00～11:00	慢性・真珠腫性 中耳炎 (耳鼻 嶋崎絵里子)	顔面神経麻痺 (耳鼻 川崎佳奈子)			
	3	11:10～12:10	その他の中耳疾患・ 外耳疾患 (耳鼻 嶋崎絵里子)	鼻副鼻腔の構造と 機能症候学 (耳鼻 田中成幸)	嗅覚・ アレルギー性鼻炎(1) (耳鼻 佐藤有記)		
	4	13:00～14:00	先天性難聴・ 人工内耳・補聴器 (耳鼻 嶋崎絵里子)	鼻出血・顔面外傷 (耳鼻 田中成幸)	嗅覚・ アレルギー性鼻炎(2) (耳鼻 佐藤有記)	CBL：耳鼻科④ (耳鼻 佐藤有記) 第3実習室	解説講義 第3講義室
	5	14:10～15:10	眼振・平衡機能検査 (耳鼻 川崎佳奈子)	鼻副鼻腔炎・ 嚢胞・腫瘍 (耳鼻 佐藤有記)	CBL：耳鼻科③ (耳鼻 嶋崎絵里子) 第3実習室		
	6	15:20～16:20	症候学・ めまい(1) (耳鼻 川崎佳奈子)	自己学修		自己学修	

注：講義は60分授業で行います。

* 学外非常勤講師

8. リソースパーソン／担当者一覧（質問はメールか直接連絡をとること）

講 座	氏 名	連 絡 先
耳 鼻 科	杉 山 庸一郎	
〃	峯 崎 晃 充	
〃	◎嶋 崎 絵里子	
〃	佐 藤 有 記	
〃	川 崎 佳奈子	
〃	石 田 知 也	
〃	首 藤 洋 行	
〃	田 中 成 幸	
整 形 外 科	森 本 忠 嗣	
〃	◎塚 本 正 嗣	
〃	坂 井 達 弥	
〃	野 中 俊 宏	
リ ハ ビ リ 科	村 田 和 樹	
眼 科	江 内 田 寛	
〃	◎坂 井 博 明	
〃	永 浜 秀 規	
薬 理 学	鬼 頭 佳 彦	

精神・脳・神経（ユニット9）

学士力番号 2－(2)， 2－(3)

教科主任（ユニットチェア）

溝 口 義 人

1. 科目の概要

本ユニットでは、神経系の正常構造と機能を理解し、主な神経系疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。また、精神と行動の障害に対して、児童・思春期から老年期のライフステージに応じた病態生理、診断、治療を理解し、良好な患者と医師の信頼関係に基づいた全人的医療を学ぶ。さらに脳神経外科領域においては、主訴からの診断推論を組み立てること、また各疾患の病態や疫学を理解し、治療法について学習する。精神・神経系について医学的知識を総合的に学び、問題解決に応用できるようになり、根拠に基づく安全で最適な医療の実践を将来選択できるようになることを目標とする。また該当診療科にどのようにコンサルテーションすればよいかを学ぶことで、コミュニケーションを大事にし、他の医療者と協働することができる医師になる基本的な知識を習得する。臨床だけではなく、研究にも取り組む医師が各講義を担当するため、医師のプロフェッショナルリズムに触れるだけではなく、科学的な探求心の重要性も学ぶ機会とする。

2. 「医学教育モデル・コア・カリキュラム」および「e-テキスト」対応

Unit 9 精神・神経

「iSmart」コアカリ準拠学修機能	「e-テキスト」対応
・C-2 3) 個体の調節機構とホメオスタシス ・C-5人の行動と心理 ・D-2神経系 ・D-15精神系	『新臨床内科学』（2020） 第10章 神経疾患 『標準神経病学』（2018） 『標準精神医学』（2024） 『標準脳神経外科学』（2021） 『標準病理学』（2023） 第22章 脳・神経 『画像診断リファレンス』（2021） 第1章 脳・脊髄

3. 講義項目および学修目標

No.	講義項目	所属	担当者	学修目標	形式	方法等	講義室
1	精神科総論	精神科	溝口 義人	精神科総論	講義	対面	臨床大講堂
2	精神療法	精神科	溝口 義人	患者と医師のコミュニケーション 精神療法（精神分析，森田療法，認知行動療法，家族療法，集団精神療法）について学習する	講義	対面	臨床大講堂
3	症候学：意識障害	脳神経内科	平原凜太郎	意識障害（内科疾患）	講義	対面	臨床大講堂
4	脳神経外科概論	脳外科	阿部 竜也	脳神経外科総論	講義	対面	臨床大講堂
5	神経解剖学	脳外科	阿部 竜也	神経解剖学	講義	対面	臨床大講堂
6	神経疾患の診断法	脳神経内科	井手 俊宏	系統だった神経診断と解剖学的局在の理解	講義	遠隔	オンデマンド
7	末梢神経障害	脳神経内科	小池 春樹	末梢神経障害の理解	講義	遠隔	オンデマンド

8	てんかん外科	脳外科	戸田啓介＊	てんかん外科	講義	遠隔	オンデマンド
9	精神機能と脳	肥前精神医療センター	上野雄文＊	精神機能と脳について	講義	遠隔	オンデマンド
10	睡眠覚醒障害	若久病院	門司 晃＊	睡眠覚醒障害	講義	遠隔	オンデマンド
11	CBL疾患関連講義	脳外科	吉岡 史隆	脳脊髄液の動態と水頭症	講義	対面	講義室
12	症候学	脳外科	増岡 淳	意識障害、脳外科疾患	講義	遠隔	オンデマンド
13	CBL：脳外科①	脳外科	吉岡 史隆	脳脊髄液の動態と水頭症	演習	対面	臨大 他
14	神経症性障害	精神科	溝口 義人	不安障害群と心的外傷及びストレス因関連障害群の症候と診断を説明できる。身体症状症及び関連症群の症候と診断を説明できる。解離性障害群の症候、診断と治療を説明できる	講義	対面	臨床小講堂
15	認知症	若久病院	門司 晃＊	認知症の診断と治療を説明できる	講義	遠隔	オンデマンド
16	CBL：精神科①	精神科	溝口 義人	神経症	演習	対面	臨大 他
17	脳血管障害	脳外科	増岡 淳	脳血管障害	講義	遠隔	オンデマンド
18	CBL疾患関連講義	脳外科	緒方 敦之	頭部外傷	講義	遠隔	オンデマンド
19	CBL：脳外科②	脳外科	緒方 敦之	頭部外傷	演習	対面	臨大 他
20	脳卒中	脳神経内科	井手 俊宏	脳卒中基礎知識と臨床	講義	遠隔	オンデマンド
21	筋疾患	脳神経内科	吉川 正章	筋疾患	講義	対面	臨床大講堂
22	不随意運動とプリオン病	脳神経内科	鈴山 耕平	不随意運動とプリオン病の実例	講義	遠隔	オンデマンド
23	脳外科的感染疾患	脳外科	吉岡 史隆	脳感染症疾患	講義	遠隔	オンデマンド
24	症候学：頭痛	脳神経内科	井手 俊宏	頭痛（内科疾患）	講義	遠隔	オンデマンド
25	脳腫瘍総論	脳外科	伊藤 寛	脳腫瘍	講義	遠隔	オンデマンド
26	脳腫瘍各論	脳外科	伊藤 寛	脳腫瘍	講義	遠隔	オンデマンド
27	脳血管内治療	脳外科	緒方 敦之	脳血管内治療	講義	対面	講義室
28	症候学：感覚障害	脳神経内科	鈴山 耕平	中枢と末梢神経による感覚障害の鑑別	講義	遠隔	オンデマンド
29	CBL：脳外科③	脳外科	伊藤 寛	脳腫瘍	演習	対面	臨大 他
30	症候学 けいれん	脳神経内科	平原凜太郎	けいれん	講義	対面	臨床大講堂
31	神経感染症	脳神経内科	平原凜太郎	髄膜炎・脳炎	講義	対面	臨床大講堂
32	神経生理	脳神経内科	吉川 正章	脳波，神経伝導検査，筋電図など	講義	対面	臨床大講堂
33	Q & A	脳神経内科	鈴山 耕平	神経内科講義に関する質問	講義	遠隔	オンデマンド
34	神経病理実習①	病理学	加藤 省一 木戸 伸一 橋口真理子 井樋 有紗		実習	対面	実習室
35	脊髄・脊椎疾患	脳外科	桃崎宣明＊	脊髄・脊椎	講義	遠隔	オンデマンド
36	小児脳神経外科	脳外科	吉岡 史隆	脳脊髄の先天奇形	講義	遠隔	オンデマンド
37	下垂体	脳外科	増岡 淳	下垂体疾患の診断と治療	講義	遠隔	オンデマンド

38	脳外科の救急処置	脳外科	福山幸三*	意識障害	講義	遠隔	オンデマンド
39	CBL：神経内科①	脳神経内科	井手 俊宏	脳血管障害	演習	対面	臨大 他
40	気分障害(1)	精神科	國武 裕	うつ病の症候と診断を説明できる。	講義	対面	臨床 大講堂
41	気分障害(2)	精神科	國武 裕	双極性障害（躁うつ病）の症候と診断を説明できる。	講義	対面	臨床 大講堂
42	統合失調症	精神科	立石 洋	統合失調症の症候と診断、救急治療を説明できる	講義	対面	臨床 大講堂
43	生理的障害	精神科	小嶋 亮平	食行動障害及び摂食障害群の症候と診断を説明できる。	講義	対面	臨床 大講堂
44	症候学	脳神経内科	吉川 正章	運動麻痺	講義	対面	講義室
45	変性疾患	脳神経内科	鈴山 耕平	運動ニューロン疾患、パーキンソン病、脊髄小脳変性症	講義	遠隔	オンデマンド
46	児童精神医学	肥前精神医療センター	會田千重*	小児の発達：精神、言語発達、生活習慣、社会性思春・青年期：精神発達（発達区分、発達理論、思春期危機自我同一性形成、学習と社会経験）について学習し、自閉症スペクトラム障害(autism spectrum disorder <ASD>)を概説できる。注意欠如・多動障害(attention deficit / hyperactivity disorder <ADHD>)と運動障害群を概説できる。	講義	遠隔	オンデマンド
47	リエゾン精神医学	九州大学キャンパスライプ健康支援センター	佐藤 武*	コンサルテーション・リエゾン精神医学を説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
48	精神医療と法律	福岡県精神保健福祉センター	楯林英晴*	精神科医療の法と倫理（精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、心神喪失者等医療観察）について説明できる。DPATについて説明できる。	講義	遠隔	オンデマンド
49	アルコール依存症	肥前精神医療センター	杠 岳文*	アルコール依存症について説明できる	講義	遠隔	オンデマンド
50	薬物依存症	肥前精神医療センター	杠 岳文*	薬物乱用、依存について説明できる	講義	遠隔	オンデマンド
51	CBL：精神科②	精神科	立石 洋	統合失調症の症候と診断、救急治療を説明できる	演習	対面	第3 実習室
52	心理学的検査	精神科	松島 淳	質問紙法、Rorschach テスト、簡易精神症状評価尺度(BPRS)、Hamilton うつ病評価尺度、Beck のうつ病自己評価尺度、状態特性不安検査(STAI)、MMSE、改訂長谷川式簡易知能評価スケール	講義	対面	講義室
53	CBL：精神科③	精神科	國武 裕	気分障害	講義	対面	臨床 大講堂
54	CBL：神経内科②	脳神経内科	吉川 正章	脳炎・髄膜炎、神経梅毒、HIV脳症などの感染症の病態と治療	演習	対面	臨床 大講堂
55	神経病理実習②	病理学	加藤 省一 木戸 伸一 橋口真理子 井樋 有紗		実習	対面	実習室
56	CBL：神経内科③	脳神経内科	江里口 誠	神経変性疾患	講義	対面	実習室
57	自己免疫神経疾患	脳神経内科	小池 春樹	多発性硬化症、重症筋無力症など	講義	遠隔	オンデマンド
58	総括					対面	講義室
59	薬理学CBLRP	薬理学	鬼頭 佳彦	薬物療法について、患者が理解できるよう、わかりやすい言葉で説明することができる。	演習	対面	講義室

4. 評価の方法と基準

1) 評価方法

- ・出席状況と筆記試験による総合評価

2) 評価基準

- ・筆記試験の評価は、佐賀大学成績判定等に関する規程第2条の2に準ずる。
- ・受験資格は、「PhaseⅢの試験に関する事項」に準ずる。

3) 評価結果の開示

試験答案の採点結果、配点、成績等の解説と個別指導を行う。希望者は、試験結果発表後1月程度の期間内に、オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

5. 履修上の注意

講義など出席状況は、厳しく評価するので、必ず出席すること。

予習・復習をして、関連性・連続性に注意して、統合した理解に努めること。

6. テキスト等

● 図書館で利用できる国内医学雑誌

精神科：精神医学，精神神経学雑誌，心身医学，臨床精神医学

神経：神経内科，脳と神経，神経研究の進歩，脳の科学，臨床神経学，脳神経外科

● 参考図書

精神科

標準精神医学第9版（尾崎紀夫・三村將編）医学書院

現代臨床精神医学第12版（大熊輝雄著）金原出版

カプラン臨床精神医学テキスト第3版（井上令一ほか監訳）メディカルサイエンスインターナショナル

現代精神医学事典（加藤敏ほか編）弘文堂

ICD-10精神科診断ガイドブック（中根允文ほか監修）中山書店

Kaplan & Sadock's Comprehensive Textbook of Psychiatry, 10th Edition (Editor: Benjamin J. Sadock et al.)

Lippincott Williams & Wilkins

Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, 5th Edition: DSM-5 American Psychiatric Publishing

神経

神経内科ハンドブック．鑑別診断と治療（第5版）（水野美邦編）医学書院

ベッドサイドの神経の診かた（田崎義昭，斎藤佳雄）南山堂

神経内科ケーススタディ（黒田康夫）新興医学出版

Q&Aとイラストで学ぶ神経内科（黒田康夫）新興医学出版

EBM現代内科学（黒川清，黒英彦他編）金芳堂

新臨床内科学第8版（高久史磨，尾形悦郎他編）医学書院

内科学（杉本恒明，小俣政男編）朝倉書店

標準脳神経外科学第15版（新井一編）医学書院

脳神経外科学改訂13版（太田富雄編）金芳堂

病 理

Greenfield's Neuropathology ; Edited by David graham and Peter L Lantos, Arnold, London

Atlas of Neuropathology ; Edited by Haruo Okazaki and Bernd W. Scheithhauer Gower Medical Publishing,
New York

神経病理インデックス（新井信隆著），医学書院

臨床神経病理（調 輝男著），金芳堂

神経病理学 基礎と臨床（朝長 正徳，桶田 理喜著）朝倉書店

解 剖

臨床神経解剖学（原著第6版） M.J.T.Fitzgerald, G.Gruener, E.Mtui著 井出千束監訳 杉本哲夫，車田正男

河田光博 訳 医歯薬出版株式会社

神経放射線

脳脊髄のMRI（山口昂一，宮坂和男編著）メディカル・サイエンス・インターナショナル

7. ユニット9 日程表

注：講義室が記載してあるコマは対面で実施

曜 日			月	火	水	木	金	
	コ マ	日 時間	2026/1/12	2026/1/13	2026/1/14	2026/1/15	2026/1/16	
1	1	8:50～9:50	祝 日	精神科総論 (精神 溝口義人) 第3講義室	神経疾患の診断法 (神内 井手俊宏)	精神機能と脳 (上野雄文＊)	認知症 (門司晃＊)	
	2	10:00～11:00		精神療法 (精神 溝口義人) 第3講義室	末梢神経障害 (神内 小池春樹)	睡眠覚醒障害 (門司晃＊)	脳血管障害 (脳外 増岡淳)	
	3	11:10～12:10		症候学： 意識障害(内科疾患) (神内 平原凜太郎) 第3講義室	自己学修	症候学： 意識障害，脳外科疾患 (脳外 増岡淳)	CBL疾患関連講義 (脳外 緒方敦之)	
	4	13:00～14:00		脳神経外科概論 (脳外 阿部竜也) 第3講義室	自己学修	神経症性障害 (精神 溝口義人) 第3講義室	薬理学CBLRP 第3講義室	
	5	14:10～15:10		神経解剖学 (脳外 阿部竜也) 第3講義室		CBL：精神科① 認知症 (精神 溝口義人) 第3実習室	自己学修	
	6	15:20～16:20		医学英語 (医学教育 坂本麻衣子) 第3講義室				
	コ マ	日 時間	2026/1/19	2026/1/20	2026/1/21	2026/1/22	2026/1/23	
2	1	8:50～9:50	CBL：脳外科① (脳外 吉岡史隆) 第2実習室	脳卒中(内科) (神内 井手俊宏)	自己学修	脳腫瘍総論 (脳外 伊藤寛)	CBL：脳外科③ 脳腫瘍 (脳外 伊藤寛) 第2実習室	
	2	10:00～11:00		不随意運動と プリオン病 (神内 鈴山耕平)	症候学： 頭痛(内科疾患) (神内 井手俊宏)			
	3	11:10～12:10	自己学修	筋疾患 (神内 吉川正章) 第3講義室	自己学修	脳腫瘍各論 (脳外 伊藤寛)	自己学修	
	4	13:00～14:00	自己学修	医学英語 (医学教育 坂本麻衣子) 第3講義室	自己学修	脳血管内治療 (脳外 緒方敦之)	自己学修	
	5	14:10～15:10	CBL：脳外科② (脳外 緒方敦之) 第2実習室	自己学修		症候学： 感覚障害 (神内 鈴山耕平)		
	6	15:20～16:20				自己学修		
	コ マ	日 時間	2026/1/26	2026/1/27	2026/1/28	2026/1/29	2026/1/30	
3	1	8:50～9:50	症候学：けいれん (神内 平原凜太郎) 第3講義室	神経生理 脳波、誘発電位 (神内 吉川正章) 第3講義室	脊髄・脊椎 (桃崎宣明＊)	自己学修	脳外科の救急処置 (福山幸＊)	
	2	10:00～11:00	神経感染症 (神内 平原凜太郎) 第3講義室	Q&A (神経内科) (神内 鈴山耕平)	小児脳神経外科 (脳外 吉岡史隆)		CBL疾患関連講義 (脳外 吉岡史隆)	
	3	11:10～12:10	脳神経外科感染疾患 (脳外 吉岡史隆)	てんかん外科 (戸田啓介＊)	下垂体 (脳外 増岡淳)		自己学修	
	4	13:00～14:00	自己学修	神経 病理実習① (病理 加藤省一， 木戸伸一， 橋口真理子， 井樋有紗) 2階実習室	医学英語 (医学教育 坂本麻衣子) 第4講義室	自己学修	自己学修	
	5	14:10～15:10			自己学修			
	6	15:20～16:20						

曜 日			月	火	水	木	金		
週	コマ	日 時間	2026/2/2	2026/2/3	2026/2/4	2026/2/5	2026/2/6		
4	1	8:50～9:50	自己学修	気分障害(1) (精神 國武裕) 第3講義室	児童精神医学 (會田千重*)	CBL：精神科② 統合失調症 (精神 立石洋) 第3実習室	自己学修		
	2	10:00～11:00	CBL：神経内科① 脳血管障害 (神内 井手俊宏) 第3実習室	気分障害(2) (精神 國武裕) 第3講義室	リエゾン精神医学 (佐藤武*)		CBL：神経内科② 神経感染症 (神内 吉川正章) 第3実習室		
	3	11:10～12:10		統合失調症 (精神 立石洋) 第3講義室	精神医療と法律 (楯林英晴*)	心理学的検査法 (精神 松島淳) 第3講義室			
	4	13:00～14:00	自己学修	生理的障害 (精神 小嶋亮平) 第3講義室	アルコールと 精神医学 (杠岳文*)	CBL：精神科③ 気分障害 (精神 國武裕) 第3実習室	自己学修		
	5	14:10～15:10		症候学：運動麻痺 (神内 吉川正章) 第3講義室	薬物依存・薬物乱用 (杠岳文*)				
	6	15:20～16:20		変性疾患 (神内 鈴山耕平)	自己学修	自己学修	自己学修		
週	コマ	日 時間	2026/2/9	2026/2/10	2026/2/11	2026/2/12	2026/2/13		
5	1	8:50～9:50	自己学修	神経 病理実習② (病理 加藤省一， 木戸伸一， 橋口真理子， 井樋有紗) 2階実習室	祝 日	自己学修	自己学修		
	2	10:00～11:00				医学英語試験 (医学教育 坂本麻衣子) 試験室 看護学科棟6階	U1臨床医学入門 神経の診察技法 (医学教育) スキルスラボ		
	3	11:10～12:10				自己免疫神経疾患 (神内 小池春樹)			
	4	13:00～14:00	自己学修	CBL：神経内科③ 神経変性疾患 (神内 江里口誠) 第3実習室		自己学修	U1臨床入門 神経の診察技法 (医学教育) スキルスラボ		
	5	14:10～15:10		自己学修					
	6	15:20～16:20					自己学修	自己学修	
週	コマ	日 時間	2026/2/16	2026/2/17	2026/2/18	2026/2/19	2026/2/20		
6	1	8:50～9:50	自己学修	自己学修	試験 試験室 看護学科6階)				
	2	10:00～11:00							
	3	11:10～12:10							
	4	13:00～14:00	自己学修	自己学修	解説講義 第4講義室				
	5	14:10～15:10			自己学修				
	6	15:20～16:20							

注：講義は60分授業で行います。

* 学外非常勤講師

8. リソースパーソン（質問はメールか部屋に直接行くこと）

講 座	氏 名	連 絡 先
精 神 科	溝 口 義 人	ymizo@cc.saga-u.ac.jp
”	國 武 裕	kunitake@cc.saga-u.ac.jp
”	立 石 洋	tateishh@cc.saga-u.ac.jp
神 経 内 科	小 池 春 樹	koike@cc.saga-u.ac.jp
”	山 耕 平	sj8817@cc.saga-u.ac.jp
”	井 手 俊 宏	sm2559@cc.saga-u.ac.jp
”	吉 川 正 章	sp6982@cc.saga-u.ac.jp
”	平 原 凜 太 郎	su2083@cc.saga-u.ac.jp
脳 外 科	阿 部 竜 也	abet@cc.saga-u.ac.jp
”	増 岡 淳	masuoka@cc.saga-u.ac.jp
”	緒 方 敦 之	ogataat@cc.saga-u.ac.jp
”	吉 岡 史 隆	yoshiokf@cc.saga-u.ac.jp
”	伊 藤 寛	f8257@cc.saga-u.ac.jp
病 理 学	加 藤 省 一	skato@cc.saga-u.ac.jp
”	木 戸 伸 一	kidoshi@cc.saga-u.ac.jp
薬 理 学	鬼 頭 佳 彦	ykito@cc.saga-u.ac.jp

医 学 英 語

医学・医療専門英語教育（EMP：English for Medical Purposes）

教科主任 医学教育開発部門 坂 本 麻衣子

1. 科目の概要

Globalizationが標準化している今日、佐賀大学医学部の卒業生は、英語テキストや論文の読解および英語による診療ができるようになるために、医学専門英語（EMP: English for Medical Purposes）の基本的運用能力を有しておくことが必要である。この目的のために、医学科3，4年次のEMP教育では、PhaseⅢで学習する幅広い医学・医療分野に関連する英語の語彙（vocabulary）を基本的知識として修得すると同時に、医学英語と医学の勉強を分けることなく、英語で医学を勉強する自らの生涯教育を可能とする総合的学習能力の基礎を身に付けることを学修成果として位置付ける。

2. 講義および学修目標

No.	講義項目	所属	担当者	学修目標	形式
1	Vocabulary	医学教育	坂本麻衣子	Understand and use basic technical terms related to body parts and functions, and medicine and health care.	講義・演習
2	Reading			Understand basic medical English necessary for medicine and health care.	
3	Writing			Be able to write in English for informal communication related to medicine and health care.	
4	Communication			Be able to establish good rapport with the patient & conduct a basic medical interview in English.	

3. 評価の方法と基準

1) 評価の方法

- ・各学年において前期・後期の2回実施する試験（70%）、小テスト（20%）及び形成的評価（10%）による総合評価において、100点満点中60点以上であることを合格基準とする。
- ・出席状況、講義中の態度、少グループ討論での積極性などを形成的評価の対象とする。

2) 評価基準

- ・授業の出席状況は2/3以上の出席を最終試験受験資格とする。

3) 評価結果の開示

- ・希望者は、成績発表後1ヶ月以内にオフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

4. 履修上の注意

- 1) 講義出席が2/3に満たない学生は単位取得に関する試験の受験を認めない。
- 2) 予習・復習をしっかりと行うこと。

5. 指定（必須）テキスト

- 1) 医学・医療系学生のための総合医学英語テキスト Step 1（編）日本医学英語教育学会 Medical View社（3,080円）

- 2) 医学・医療系学生のための総合医学英語テキスト Step 2 (編) 日本医学英語教育学会 Medical View社 (3,300円)

*医学科3年次および4年次ともに本テキストを中心に講義を行うが、4年生については購入しなくて良い。

6. その他の参考テキスト

- 3) 改訂4版 日本医学英語検定試験3・4級教本. (編) 日本医学英語教育学会, Medical View社 (4,180円)

→ 年に1回施行される同検定試験の教本である。医学部卒業時には4級合格は十分に可能(3級はlistening試験あり)。

<医学英語検定試験の等級と難易度>

1級: 英語での研究論文の指導, 国際学会・会議での座長・議事進行ができるレベル

(倫理的指導能力を含む)

2級: 英語での論文執筆・学会発表・討論, 医学英語教育が行えるレベル

3級: 英語で医療に従事できるレベル(医師・看護師・医療従事者, 通訳・翻訳者, 等)

4級: 基礎的な医学英語運用能力を有するレベル(医科大学・医療系大学在学あるいは卒業程度)

7. 日 程 表

No.	月日(曜)	時限	担当者	キーワード(取り扱う内容)	授業形態	講義室
1	5月8日(木)	4	坂本麻衣子	Orientation	講義	小講堂3113
2	5月15日(木)	4	〃	Cardiology	〃	小講堂3113
3	5月22日(木)	1	〃	〃	〃	小講堂3113
4	6月5日(木)	4	〃	Respiratory	〃	小講堂3113
5	6月12日(木)	1	〃	〃	〃	小講堂3113
6	6月26日(木)	4	〃	Gastroenterology	〃	第3講義室
7	7月9日(水)	4~5	福森 則男	ハワイ大学PBL Demonstration	〃	看護学科6階
8	7月10日(木)	4	坂本麻衣子	Gastroenterology	〃	第3講義室
9	9月3日(水)	6	〃	Metabolism, Nephrology & Urology	〃	第3講義室
10	9月11日(木)	6	〃	〃	〃	第3講義室
11	10月2日(木)	4	〃	Hematology, Oncology, Infectious Diseases	〃	第3講義室
12	10月9日(木)	4	〃	〃	〃	第3講義室
13	10月17日(金)	4	〃	Exam	試験	看護学科6階
14	10月30日(木)	4	〃	Dermatology	講義	第3講義室
15	11月13日(木)	4	〃	〃	〃	第3講義室
16	11月27日(木)	4	〃	Motor & Sensory Organs	〃	第3講義室
17	12月3日(水)	3	〃	〃	〃	第3講義室
18	12月18日(木)	4	〃	Review	〃	第3講義室
19	1月13日(火)	6	〃	Psychiatry & Neurology	〃	第3講義室
20	1月20日(火)	4	〃	〃	〃	第3講義室
21	1月28日(水)	4	〃	〃	〃	第4講義室
22	2月12日(木)	2	〃	Exam	試験	看護学科6階

8. リソースパーソン／担当者一覧

巻末参照

PhaseⅤのうち，３年次で履修できる選択コースについて

選択コースの実施及び履修に関する取扱要項
地域枠入学生特別プログラム

佐賀大学医学部医学科選択コースの実施及び履修に関する取扱要項

平成17年3月17日
制 定

(趣 旨)

第1条 佐賀大学医学部医学科授業科目の選択コースの実施及び履修に関しては、佐賀大学医学部規則及び佐賀大学医学部履修細則に定めるもののほか、この要項の定めるところによる。

(選択コースの位置づけ)

第2条 選択コースは、全ての学生に必須のコア・カリキュラムに対して、さらに学習を深化させるためのアドバンスド・カリキュラム並びに学習内容の多様化を推進するためのカリキュラムとして実施する。

(選択コース科目)

第3条 選択コースは、次の各号の授業科目区分により選択科目を開設する。

(1) 基礎系・臨床系選択科目

基礎系・臨床系の教育・研究分野に関連した学習を深化させるための科目を2年次以降に順次開設する。

(2) 地域枠入学生特別プログラム

佐賀県内医療者との交流や医学学習への意欲向上を目的とする地域枠入学生特別プログラムを、1年次から開設する。

(3) 特定プログラム教育科目

佐賀大学学部間共通教育科目履修規程（平成25年2月27日制定）による特定プログラム教育科目を履修した場合には、選択コースの単位として認めることができる。

(4) 学外研修・ボランティア等

多様で幅広い学習を推進するために、学外での研修やボランティア活動等が選択コース科目としての水準を満たす場合には、選択コースの単位として認めることができる。

(科目の開設)

第4条 選択コース科目の開設は、教授、准教授又は講師が科目担当責任者（教科主任）として開設し、毎年度更新する。

2 科目開設にあたっては、対象学年、受講者数等に制限を設けることができる。

(開設様式と単位)

第5条 選択コース科目は、次の各号の様式及び単位換算で開設する。

(1) 定期的授業

90分15回の授業を1ユニットとして開設する方式。15回（30時間）を1単位とする。

(2) 終日連続集中授業

終日2週間連続の総合授業（講義、演習、実習等の組合せ）を1ユニットとして開設する方式。1週40時間を1単位（2週間で2単位）とする。

(3) 間歇的集中授業

終日連続ではないが、集中的な総合授業（講義、演習、実習等の組合せ）を積み重ねる方式。40時間分を1単位とする。

(科目の開講)

第6条 選択コース科目の開講時期及び時間帯は、科目担当責任者が予め設定若しくは科目担当責任者が履修希望

学生と相談の上決定する等、科目担当責任者の裁量とする。

(成績の評価)

第7条 第3条第1項第1号から第3号に規定する選択コース科目の成績評価は、科目担当責任者の責任において行う。

2 第3条第1項第4号に規定する学外研修・ボランティア等の選択コース科目認定については、教育委員会で審査する。ただし、基礎系・臨床系選択科目として学外で学習したものは、学外研修とせず、基礎系・臨床系選択科目として扱う。

(履修要件と制限)

第8条 第3条第1項第1号から第4号に規定する選択コース科目の中から、6単位以上の修得を卒業要件とするが、卒業要件単位としては、特別プログラム教育科目からは2単位、学外研修・ボランティア等からは1単位を上限とする。

(履修方法)

第9条 1年次から4年次までの履修希望学生は、選択コース科目担当者と相談の上、履修手続きを行うものとする。ただし、アドバンスドコースとして位置づけられる選択コース科目の場合は、原則として、関連授業科目を修得した後に履修するものとする。

2 5年次及び6年次の学生は、クラスごとに履修希望調整の後、履修手続きを行うものとする。

附 則

- 1 この要項は、平成17年4月1日から実施し、平成16年度以降の医学科入学者から適用する。
- 2 この要項の実施の際、医学科に平成15年度以前に入学した者の選択コースの実施及び履修に関する取扱は、なお従前の例による。

附 則（平成19年3月8日改正）

この要項は、平成19年4月1日から実施する。

附 則（平成23年12月8日改正）

- 1 この要項は、平成23年4月1日から実施する。
- 2 この要項の実施の際、医学科に平成22年度以前に入学した者の選択コースの実施及び履修に関する取扱は、なお従前の例による。

附 則（平成25年1月16日改正）

- 1 この要項は、平成25年4月1日から実施する。
- 2 この要項の実施の際、医学科に平成24年度以前に入学した者の選択コースの実施及び履修に関する取扱は、なお従前の例による。

地域枠入学生特別プログラム

地域枠入学生特別プログラムの概要

本プログラムは、地域枠入学生（佐賀県推薦入学、学校推薦佐賀県枠）の医学生を対象に開発された特別なプログラムである。2021年（令和3年）より「地域枠」の定義が見直され、佐賀県推薦入学生のみが狭義の「地域枠」となったが、学校推薦佐賀県枠入学生も広義の「地域枠」とし「地域枠入学生特別プログラム」という呼称を継続して使用する。

本プログラムは必修ではなくPhase V（選択コース）と位置付けられているが、一般の学生が履修する選択コースの単なる“代わり”ではなく、今後のキャリア形成を考える上で地域枠学生には“不可欠な”コースと考えられる。選択コースとして認定される単位は2単位までと定められているため、2単位を超えた分は加算されないが、できるだけ多くのプログラムへの参加が望ましい。

本プログラムでは地域枠入学生を優先するが、それ以外の学生も単位修得が可能である（下表参照）。応募者多数の場合は医師育成・定着支援センターで調整を行うことがある。

授業名	地域枠医学科生		地域枠以外の 医学科生
	佐賀県推薦入学	学校推薦佐賀県枠	
(1) 基幹病院・中核病院実習	◎	◎	△
(2) 地域医療／キャリア形成セミナー	◎（＊）	◎	○
(3) 夏期地域医療実習	◎（＊）	△	△
(4) 学外チューター制度	◎（＊）	×	×
(5) 西部医療圏等での病院実習	◎（＊）	○	○

◎：原則参加，○：参加可能，△：若干名のみ参加可能，×：対象外

＊キャリア形成卒前プラン：修学資金の貸与を受け、卒業後に「キャリア形成プログラム」の適応を受ける地域枠の医学生が、卒業前の学生の中から地域医療マインドを育むため、都道府県が策定した地域医療に関する実習等のこと。2021年（令和3年）から医療法で規定された。

なお、医師育成・定着支援センターでは、佐賀県から任命された4名のキャリアコーディネーター（医師）が全医学科生を対象に「キャリア支援面談」を行っている（地域枠医学生は必須）。大いに活用し、今後のキャリア形成の一助にして欲しい。

学士力番号 2－（2）

全プログラム共通

1. コースの概要

将来佐賀県の地域医療に貢献する医師となるために、県内の地域医療提供体制や地域医療の実際を学ぶことを目的としている。県内の医療関係者や将来佐賀県の医療に従事する自大学・他大学の医学生との交流を通して、学修のモチベーションを高め、自分がどのような能力を修得しないといけないかを継続的に考える習慣を身につけることができるよう、複数のプログラムから構成されている。

本学の卒業時学修成果に掲げられている、プロフェッショナルリズム、コミュニケーションと協働、国際的な視野に基づく地域医療への貢献、全大学が共通して取り組むべき「医学教育モデル・コア・カリキュラム」に掲げられている、PR、GE、LL、CM、IP、SOに関しては、どのプログラムでも共通して修得することができ

る（文末の表を参照）。

2. 実習項目および学修目標

（実習項目）講義，実習，グループ討論など

（学修目標）

- ・佐賀県内の地域医療提供体制を知り，地域医療の現状と課題について理解する。
- ・地域医療の学修のモチベーションを高め，今後の自己学修目標を考える。
- ・自分のキャリア形成に継続的に関心を持つ。
- ・将来佐賀県の医療に従事する自大学・他大学の医学生や県内の医療関係者と積極的に交流し良好な関係を構築する。
- ・チーム医療の重要性や介護・福祉との連携の必要性を理解する。
- ・地域医療に従事する理想の医師像を継続的にイメージしていく。

3. 評価の方法と基準

1) 評価方法 観察記録及びレポート

2) 評価基準 実習への参加姿勢と指定のレポートの内容から総合的に評価する。

3) 評価結果の開示 希望する場合は，電子メールで担当教員に申し込むこと。

4. 履修上の注意

講義は自分の将来にどのように役立つか関連付けながら集中して聴講すること。実習中は指導医のみならず，全ての医療スタッフ及び実習に協力して下さる患者さん方への感謝の気持ちを忘れずに行動すること。服装・髪・爪の清潔さなど身だしなみには十分注意し，きちんと挨拶をする等医学生としての自覚を持って行動すること。白衣が必要な実習に関しては別途連絡をする。

5. テキスト等 特になし

6. 日程表 各コースの記載を参照

7. リソースパーソン／担当者一覧／連絡先

江村 正，徳島 緑，七條 千佳，実習関連施設の指導者，学内外の講師

連絡先 医師育成・定着支援センター（ ）

（1）佐賀県内基幹病院・中核病院実習

1. コースの概要

佐賀県内の基幹病院・中核病院での実習を通し，基幹病院・中核病院に求められている役割を理解し，早期から佐賀県の地域医療に関心を持つ。実習初日にオリエンテーション，講義等を行い，翌日から3日間下記の医療機関で実習を行う。最終日にグループ討論，まとめ，評価を行う。

2. 実習項目および学修目標

（学修目標）

- ・佐賀県内基幹病院・中核病院に求められている役割を理解する。

3. 4. 5. 7. 全プログラム共通を参照

6. 日程表

学習日数 1 週（1 単位修得） 受入人数 1 施設に1～2 名（原則2 名）

実施時期 夏季休暇最後の週（令和6 年は9 月9 日～9 月13 日に行った）

対 象 医学科1 年生（地域枠学生を優先とする）

実施場所 佐賀県医療センター好生館，NHO佐賀病院，NHO嬉野医療センター，唐津赤十字病院，唐津市民病院きたはた，佐賀市立富士大和温泉病院，町立太良病院，伊万里有田共立病院，小城市民病院，織田病院（鹿島市），山元記念病院（伊万里市），今村病院（鳥栖市）（予定）

（２）地域医療セミナー／キャリア形成セミナー

１．コースの概要

県内外の地域医療の現状や課題についての理解を深める講演や，医師のキャリア形成に関する講演である。

２．講義・実習項目および学習目標

（学修目標）

- ・佐賀県内外における医療の現状を知る。
- ・さまざまな分野の講師等との交流を通して自分のキャリア形成を考える。

３．４．５．７．全プログラム共通を参照

６．日程表

学習日数 １回の参加で0.1単位修得

実施時期 適宜開催（医師育成・定着支援センターが主催・共催もしくは当センターが認めた講演・学術集会）。LiveCampusや学内掲示板等で連絡を行う。通常は講師の都合で17：30から行うが，可能であればいわゆる５コマ目（16：20－17：50）に行う。また学術集会等は土曜日，日曜日にも開催される。

対 象 医学科１年生～６年生

（３）夏期地域医療実習（自治医科大学・佐賀大学・長崎大学合同夏期実習）

１．コースの概要

佐賀県出身の自治医科大学大学生及び長崎大学医学部の佐賀県枠学生との合同実習である。佐賀県健康福祉部医務課の協力を得て企画・運営する。将来佐賀県の地域医療に貢献する予定の医学生と離島やへき地に行き，佐賀県の地域医療の実際を体験する。地域医療へのモチベーションを高めることを目的とする。

２．実習項目および学修目標

（学修目標）

- ・離島やへき地の医療（在宅医療を含めて）を理解する。
- ・地域住民のニーズを知る。
- ・離島やへき地の抱える諸問題に関心を持ち，解決策を考える姿勢を維持する。
- ・将来佐賀県で働く学生同士と積極的に情報交換を行う。

３．４．５．７．全プログラム共通を参照

６．日程表

学習日数 ３日（0.6単位）（予定）

実施時期 夏期休暇中（令和６年は８月７日から９日まで二泊三日で行った。）

対 象 医学科１～４年生（佐賀県推薦入学の上級生優先とする）

連 絡 先 医師育成・定着支援センター（ ）

実施場所 佐賀県内の協力施設（予定）

(4) 学外チューター (alumni tutor) 制度

1. コースの概要

佐賀県で地域医療を行っているロールモデルの医師 (学外チューター, alumni tutor) と入学時早期より交流するプログラムである。学外チューターや他の医療スタッフとのミーティングやその医師の所属する医療施設の見学等を行う。

2. 実習項目および学修目標

(学修目標)

- ・地域医療に従事する理想の医師像を継続的にイメージしていく。

3. 4. 5. 7. 全プログラム共通を参照

6. 日程表

学習日数	年に数回, 数時間/回 (0.1単位/回)
実施時期	適宜 (土曜日午前中または休暇中の平日など)
対 象	医学科 1 年生 (令和7年度は佐賀県推薦入学生のみを対象)
連 絡 先	医師育成・定着支援センター ()
実施場所	佐賀県内の協力医療機関

(5) 西部医療圏等での病院実習

1. コースの概要

佐賀県の医師不足地域である西部医療圏などの医療機関を10名程度の医学生で訪問し, 講義や実習等を通して, その地域を知り, 地域医療の現状と課題を理解するプログラムである。

2. 実習項目および学修目標

(学修目標)

- ・医師不足地域特有の医療の課題を理解する。
- ・課題の解決策を学ぶ。
- ・地域を知る。

3. 4. 5. 7. 全プログラム共通を参照

6. 日程表

学習日数	1 年に 1 回 (0.2単位/回)	受入人数	1 回10名程度
実施時期	適宜		
対 象	全医学科生		
実施場所	西部医療圏等の協力医療機関		

医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和４年度改訂版）

キャッチフレーズ「未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成」

PR：プロフェッショナリズム（Professionalism）

人の命に深く関わり健康を守るという医師の職責を十分に自覚し、多様性・人間性を尊重し、利他的な態度で診療にあたりながら、医師としての道を究めていく。

GE：総合的に患者・生活者をみる姿勢（Generalism）

患者の抱える問題を臓器横断的に捉えた上で、心理社会的背景も踏まえ、ニーズに応じて柔軟に自身の専門領域にとどまらずに診療を行い、個人と社会のウェルビーイングを実現する。

LL：生涯にわたって共に学ぶ姿勢（Lifelong Learning）

安全で質の高い医療を実践するために絶えず省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、生涯にわたって自律的に学び続け、積極的に教育に携わっていく。

RE：科学的探究（Research）

医学・医療の発展のための医学研究の重要性を理解し、科学的思考を身に付けながら、学術・研究活動に関与して医学を創造する。

PS：専門知識に基づいた問題解決能力（Problem Solving）

医学及び関連する学問分野の知識を身に付け、根拠に基づいた医療を基盤に、経験も踏まえながら、患者の抱える問題を解決する。

IT：情報・科学技術を活かす能力（Information Technology）

発展し続ける情報化社会を理解し、人工知能等の情報・科学技術を活用しながら、医学研究・医療を実践する。

CS：患者ケアのための診療技能（Clinical Skills）

患者の苦痛や不安感に配慮し、確実に信頼される診療技能を磨き、患者中心の診療を実践する。

CM：コミュニケーション能力（Communication）

患者及び患者に関わる人たちと、相手の状況を考慮した上で良好な関係性を築き、患者の意思決定を支援して、安全で質の高い医療を実践する。

IP：多職種連携能力（Interprofessional Collaboration）

医療・保健・福祉・介護など患者・家族に関わる全ての人々の役割を理解し、お互いに良好な関係を築きながら、患者・家族・地域の課題を共有し、関わる人々と協働することができる。

SO：社会における医療の役割の理解（Medicine in Society）

医療は社会の一部であるという認識を持ち、経済的な観点・地域性の視点・国際的な視野なども持ちながら、公正な医療を提供し、健康の代弁者として公衆衛生の向上に努める。

6 学位授与の方針 教育課程編成・実施の方針

医学部医学科 学位授与の方針

【学位授与の方針】

佐賀大学学士力を踏まえ、学生が身に付けるべき以下の具体的学習成果の達成を学位授与の方針とする。また、学則に定める卒業の認定の要件を満たした者には、教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学位記を授与する。

1. 知識と技能

- (1) 文化・自然・現代社会と生活に関する授業科目を履修・修得し、基礎的な知識と技能ならびに多様な文化と価値観を理解するとともに、それらの知識を基に、医療職者としての自己の存在を歴史・社会・自然・人間生活と関連付けて理解できる。
- (2) 言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目を履修・修得し、日本語と英語を用いたコミュニケーション・スキルを身に付け、情報通信技術（ICT）などを用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。
- (3) 医学・医療分野の基礎的な知識・技術を体系的に修得し、医師としての業務を遂行する職業人として必要な実践能力を有する。

2. 課題発見・解決能力

- (1) 実践演習型学習や問題解決型学習を通して地域における医療・保健・福祉・医療経済など包括医療を巡る動向等を含む現代的な課題に関心・理解を持ち、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、科学的・論理的な思考に基づいて、その問題の解決に取り組むことができる。
- (2) 研究室選択コース等の学習により医学・医療の進歩における生命科学・臨床医学研究の必要性を理解し、課題解決に向けての基本的研究技能と研究マインドを身に付けている。
- (3) グループ学習や臨床実習を通して人間理解に立った良い人間関係の形成、医療チームの一員としての協調・協働した行動、リーダーシップを発揮する率先した行動、後輩等に対する指導力などを身に付け、実践できる。

3. 医療を担う社会人としての資質

- (1) 問題解決型学習などを通して自己学習の習慣を身に付け、絶えず医療の質の向上に向けて生涯学習を行う意欲と態度を有する。
- (2) 6年間の教養教育及び専門教育課程を通して高い倫理観と多様な文化や価値観を理解しうる豊かな人間性を育み、医師の責務を自覚して継続的に社会に還元する強い志を有し、自らを律して社会および医師の規範に従って行動できる。

医学部医学科 教育課程編成・実施の方針

【教育課程編成・実施の方針】

教育方針を具現化するために、以下の方針の下に教育課程を編成し、教育を実施する。

1. 教育課程の編成

- (1) 効果的な学習成果を上げるために、教養教育科目と専門教育科目を順次的・体系的に配置した6年一貫の教育課程を編成する。
- (2) 教養教育において、市民社会の一員として共通に求められる基礎的な知識と技能に関する授業科目（基本教養科目）、市民社会の一員として思考し活動するための技能に関する授業科目（外国語科目、情報リテラシー科目）、現代的な課題を発見・探求し、問題解決につながる協調性と指導力を身につけさせるための授業科目（大学入門科目、インターフェース科目）を、幅広く履修できるように配置する。
- (3) 教養教育における市民社会の一員として思考し活動するための技能に関する教育は、初年次から開講し、基礎的な汎用技能を修得した上で、専門課程における応用へと発展的な学習に繋げる。
- (4) 医師として必要な素養、知識、技術を身に付けるための基本的事項を学習する専門教育科目（コア・カリキュラム）を、以下の「専門基礎科目」、「基礎医学科目」、「臨床・社会医学科目」、「臨床実習」に大別し、Phase I～Vの区分により1～6年次まで段階的に配置する。
 - ・「専門基礎科目」：高い倫理観と豊かな人間性を育むことを目標とした総合人間学（倫理、心理、法制、福祉、生活支援など）の授業科目で構成する。
 - ・「基礎医学科目」：医学に必要な基礎的な知識と技能を学ぶ授業科目（分子生物学Ⅰ・Ⅱ、免疫学、人体発生学、組織学、神経解剖学、肉眼解剖学概説、肉眼解剖学、生化学、動物性機能生理学、植物性機能生理学、薬理学、微生物学、病理学）で構成する。
 - ・「臨床・社会医学科目」：疾病とそのメカニズムに関する総合的な内容を人体の機能・系統別に学習する授業科目で構成し、知識の習得とともに、自己学習の習慣を身につけ、科学的論理的思考に基づいた問題解決に努めることを目標として少人数グループの問題解決型学習方式で実施する。
 - ・「臨床実習」：医学の知識・技術ならびに医師としての実践能力を習得するとともに、地域社会における医療の意義を理解し、医師の責務への自覚を培うキャリア教育の場として、またチーム医療の一員として他者と共感して良い人間関係を作る実践の場として、医学部附属病院と地域の医療機関との連携の下に実施する。
- (5) 学生の目的に応じた分野を自主的に発展させていくアドバンスド・コース科目（研究室等に配属する基礎系・臨床系選択コース、海外研修コースなど）をPhase Vとして開設する。

佐賀大学学士力と科目区分との対応表

学士力（大項目）	学士力（小項目）	科目区分
1. 基礎的な知識と技能	(1) 市民社会の一員として共通に求められる基礎的な知識と技能	基本教養科目
	(2) 市民社会の一員として思考し活動するための技能	外国語科目
		医学英語
		情報リテラシー科目
	(3) 専門分野に必要とされる基礎的な知識・技能	専門基礎科目
		基礎医学科目

2. 課題発見・解決能力	(1) 現代的課題を見出し、解決の方法を探る能力	大学入門科目
		インターフェース科目
	(2) プロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力	臨床・社会医学科目
		臨床実習
		選択科目
	(3) 課題発見につながる協調性と指導力	大学入門科目
		インターフェース科目
		臨床・社会医学科目
		臨床実習
3. 個人と社会の持続的発展を支える力	(1) 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力	インターフェース科目
	(2) 地域や社会への参画力と主体的に学び行動する力	インターフェース科目
		臨床実習
	(3) 高い倫理観と社会的責任感	インターフェース科目
		臨床実習

2. 教育の実施体制

- (1) 授業科目の教育内容ごとに、その分野の授業を行うのに適した専門性を有する教員が講義・実習等を担当するよう担当教員を配置する。
- (2) 各授業科目に教科主任を置き、複数の担当教員により実施する授業の一貫性を担保するなど、授業科目を統括する。
- (3) 各Phaseにチェアパーソンを置き、Phase内およびPhase間の教育内容および実施の整合性・統合性を図る。

3. 教育・指導の方法

- (1) 講義による知識の学習と実験・実習による実証的学習や体験学習とをバランスよく組み合わせて学習成果を高める。
- (2) グループダイナミクスによる自己学習と問題解決法の獲得などの効果を狙った問題解決型学習（PBL，CBL）や演習を積極的に取り入れる。
- (3) 少人数の学生グループごとに指導教員（チューター）を配置し、きめ細かな履修指導や学習支援を行う。

4. 学修成果の評価

- (1) 授業科目の学修成果を評価するために、授業科目担当教員は、到達目標に応じて、筆記試験，レポート（論文），発表，活動内容等により多面的評価を行う。
- (2) 個別の授業科目の成績評価方法については、シラバスに明示する。
- (3) 成績の評語（評価）は、100点を満点とした評点又は評価基準に基づき判定するものとし、評点及び評価基準は、次の表に掲げるとおりとする。

評語 (評価)	評点	評価基準	合否 判定	成績評定 (G P)
秀	90点以上	学修到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を 上げている	合格	4
優	80点以上90点未満	学修到達目標を十分に達成している。		3
良	70点以上80点未満	学修到達目標をおおむね達成している。		2
可	60点以上70点未満	学修到達目標を最低限達成している。		1
不可	60点未満	学修到達目標を達成していない。	不合格	0

※上記により評価が難しい授業科目は、合又は不可の評語によって表し、合を合格とし、不可を不合格とする。

- (4) 各Phaseの終了時に、各学生の学修到達度を評価し、進級判定を行う。
- (5) 全国共通の共用試験による臨床実習適格認定審査ならびに卒業認定試験を実施し、医師として必要な実践能力（統合された知識、技能、態度・行動に基づく総合的診断能力）の修得状況を判定する。
- (6) 教育課程を通した学修成果を、学士力項目の達成状況（ルーブリック評価等）及び各授業科目の成績を用いて総合的に評価する。
- (7) 成績評価の結果は、評価分布等を使用して定期的に点検を行い、必要に応じて教育方法等の改善を行う。

7 その他

コースナンバリングについて

○コースナンバリングとは

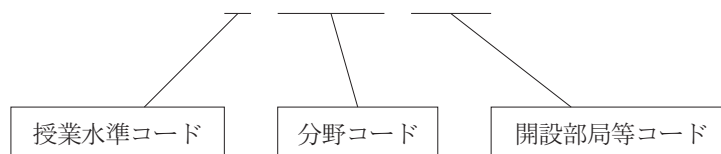
佐賀大学では、学生が受講する授業科目について、その学問分野と水準を容易に確認して主体的に学ぶことを支援するとともに、教育組織による学問分野と水準に基づいた教育カリキュラムの体系性や順次性の検証・改善に資するために、授業科目に番号を附し、授業科目の学問分野と水準等を示すコースナンバリング制度を導入します。

○コースナンバリングの意味

コースナンバーは、「授業水準」―「分野」―「開設部局等」からなる8桁の文字列で構成されています。

例：物理学の世界 I 1 220x-000

免疫学 2 491x-211



○各コードは、次の①から③に定める内容を示しています。

① 授業水準コード（1桁）

授業水準は、下記に示す1から5の5段階を数値で示す。

入門的・導入的（1年次履修程度）専門基礎	: 1
中程度の内容（2～4年次履修程度）専門必修	: 2
応用・高度な内容（5～6年次履修）専門選択・卒業制作・研究など	: 3
修士課程・博士前期課程	: 4
博士後期課程・博士課程	: 5

② 分野コード（4桁）

授業科目が対象とする主たる学問分野を日本図書分類要目表（第3次区分表）に基づき分類したコード（3桁）と各部局が定義できるアルファベット小文字（1桁）から構成されています。

（3桁＋1桁（アルファベット小文字）＝4桁）

・要目表による3桁の附番を原則とし、いずれの番号にも該当しない場合は、各学部がルールを定めて意味を定義し、アルファベットを附番しています。附番しない場合は、アルファベットの「x」を使用しています。

③ 開設部局等コード

開設部局等（学部・学科等）を示す3桁の数値で構成されています。

原則、学籍番号8桁（22211***）の「211」を利用する。（「211」は医学科を示す。）

【医学科】 **コースナンバリング（令和５年度以降入学生）**

区分	授 業 科 目	コース ナンバリング	区分	授 業 科 目	コース ナンバリング
専門基礎科目	生命倫理学	1491x-211	臨床実習・社会医学科目	臨床医学入門	2492x-211
	行動科学原論	1491x-211		循環器	2492x-211
	医療入門Ⅱ	1491x-211		呼吸器	2492x-211
	医療統計学	1491x-211		消化器	2492x-211
	物理学	1491x-211		代謝・内分泌・腎・泌尿器	2492x-211
	化学	1491x-211		血液・腫瘍・感染症	2492x-211
	生物学	1491x-211		皮膚・膠原	2492x-211
基礎医学科目	分子生物学Ⅰ	2491x-211		運動・感覚器	2492x-211
	分子生物学Ⅱ	2491x-211		精神・脳・神経	2492x-211
	免疫学	2491x-211		小児・女性	2492x-211
	人体発生学	2491x-211		救急・麻酔・総合診療	2492x-211
	組織学	2491x-211		社会医学・医療社会法制	2498x-211
	神経解剖学	2491x-211		統合医療	2492x-211
	肉眼解剖学概説	2491x-211		医学英語	2492x-211
	肉眼解剖学	2491x-211	臨床実習	臨床実習	3492x-211
	生化学	2491x-211		地域医療実習	3492x-211
	動物性機能生理学	2491x-211		関連教育病院実習	3492x-211
	植物性機能生理学	2491x-211	選択コース	基礎系・臨床系選択科目	3492x-211
	薬理学	2491x-211		地域枠入学生特別プログラム科目	3492x-211
	微生物学	2491x-211		特定プログラム教育科目	3492x-211
	病理学	2491x-211		学外研修・ボランティア等	3492x-211

※実務経験のある教員による授業科目について

「臨床・社会医学科目」と「臨床実習」の区分に属する全科目は、医師の実務経験を有している教員が臨床医学の実践的な教育を行う科目である。

アクティブラーニングについて

本学では、学生の能動的な学びを生み出すため、アクティブラーニング教育手法の導入を推進しています。

アクティブラーニングとは、教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修過程の中に知識獲得だけでなく、他者との協働を伴った「書く・話す・発表する」等の思考を活性化する活動があり、佐賀大学学士力が求める基礎的・汎用的能力の育成につながるような学修法と位置づけています。

アクティブラーニング教育手法の内容に応じて、以下に示すようにカテゴリ0 からカテゴリ4 までの5段階に分類しています。

アクティブラーニングのカテゴリ及び内容等について

カテゴリ	内 容
4	学生が自ら主体となって、学修の方向性を定め、問題解決に導くための授業。
3	グループや個人で行った能動的学修の成果を、教室内外で発表し、その評価を受けたり、質問に対応したりすることにより、学修した内容を深化させるための授業。
2	学生自らが自由に発言し、グループやペアでの協働活動により課題に取り組み、何らかの帰結に到達するための能動的学修の授業。
1	学生からの自由な発言機会はないものの、授業時間中に得られた知識や技能を自ら運用して、問題を解いたり、課題に取り組んだり、授業の振り返りをしたりする能動的学修を行う授業。
0	基本的に学生は着席のまま、講義を聞き、ノートを取り、知識や技能を習得に努める授業。

令和 6 年度 アクティブラーニング導入状況

【医学科】

区分	授 業 科 目	カテゴリー 4	カテゴリー 3	カテゴリー 2	カテゴリー 1	カテゴリー 0
専門基礎科目	生命倫理学	50	30	20	0	0
	行動科学原論	10	30	60	0	0
	医療入門Ⅱ	35	30	10	25	0
	医療統計学	40	0	0	60	0
	物理学	35	0	0	65	0
	化学	25	0	0	75	0
	生物学	25	0	0	75	0
基礎医学科目	分子生物学Ⅰ	15	0	0	85	0
	分子生物学Ⅱ	10	0	0	90	0
	免疫学	20	0	0	80	0
	人体発生学	15	0	0	85	0
	組織学	70	0	0	30	0
	神経解剖学	15	0	0	85	0
	肉眼解剖学概説	10	0	0	90	0
	肉眼解剖学	70	0	0	30	0
	生化学	30	0	0	70	0
	動物性機能生理学	55	0	0	45	0
	植物性機能生理学	45	0	0	55	0
	薬理学	15	0	0	85	0
	微生物学	70	0	0	30	0
	病理学	50	30	20	0	0
	遺伝医学	25	45	0	30	0
機能・系統別 PBL 科目	地域医療	0	20	25	55	0
	消化器	10	0	15	75	0
	呼吸器	10	0	10	80	0
	循環器	20	20	20	40	0
	代謝・内分泌・腎・泌尿器	20	15	15	50	0
	血液・腫瘍・感染症	20	20	20	40	0
	皮膚・膠原	5	20	25	50	0
	運動・感覚器	15	20	0	65	0
	精神・神経	25	0	25	50	0
	小児・女性	10	15	15	60	0
	救急・麻酔	0	15	20	65	0
	社会医学・医療社会法制	30	5	15	50	0
	臨床入門	5	10	55	30	0
	医学英語	0	0	0	100	0
	総括講義	0	0	0	100	0
臨床実習	臨床実習	60	30	10	0	0
	地域医療実習	70	20	10	0	0
	関連教育病院実習	100	0	0	0	0

8 オフィスアワー一覧

オフィスアワーについて

「オフィスアワー」とは、各教員が学生からの個別相談に応じるために設定しているの時間のことです。授業や学習に関する質問や学生生活・進路相談などについての相談があれば、教員は随時相談に応じるのですが、他の授業や会議、診療などで席を離れるため、常に教員室や研究室に居るとは限りません。

そこで、学生の来訪に備えて教員室や研究室で待機し、相談に応じるのに都合が良い時間帯を「オフィスアワー」として、教員ごとに設定しています。

巻末に、医学部全教員の「オフィスアワー」を示した一覧表を掲載してあります。「オフィスアワー」の曜日、時間帯、連絡先（メールアドレス、内線番号）などが記載されていますので、各教員を訪ねる際に活用してください。なお、建物配置図は「学生便覧」巻末に表示してあるので、参照してください。

学修要項 －PhaseⅢ-1－
(医学部医学科)

編 集 佐 賀 大 学
発 行

〒849-8501 佐賀市鍋島五丁目1番1号
電話 (0952) 31-6511 (代表)



佐賀大学医学部医学科